

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SFN11S051S		専門教育科目 基礎看護学領域		基礎看護学概論Ⅰ Nursing Science OverviewⅠ		2単位	必 修	講 義	1年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	初めて看護学を学ぶ学生に対する看護学への誘いとして「看護とは何か」を教授する科目である。 看護の社会的役割やイメージを概観しながら、看護学を構成している4つの概念、人間・環境・健康・看護について理解することで、看護への興味・関心を深めるとともに、今後学んでいく各看護学の知識の基盤とする。										
	キーワード	・看護の定義、看護とは ・看護の役割と機能 ・看護の対象としての人間 ・国民の全体像 ・看護の提供	学修教育目標	・看護の定義・役割・機能と、看護の視点からみた人間、環境と人間とのかかわりを理解する。 ・現在わが国の問題点となっている少子化や高齢化の進展、医療提供の場の拡大、看護者を取り巻く状況の変化などを念頭に、多様化している人々の健康に対するニーズを考える ・保健・医療・福祉の分野において求められている看護の役割や機能とはどのようなものなのかについて学ぶ。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
前半は、看護とは何かーについて看護の歴史、看護の祖であるナイチンゲールの働きなどから紐解き、そこから看護のもつ役割や機能、看護の質の保証などについて、さらに看護の対象である「人間」の理解について学び、生涯発達し続ける存在としての理解を深めていきます。 後半は、国民全体の健康状態やライフサイクルなどについて統計を参考にしながら学び、さらに看護の提供の仕組みについて看護制度や政策、サービス管理などの視点から学びます。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
1年次春学期「看護方法論」、秋学期「生活援助技術論」、「看護学概論Ⅱ」の理解に繋がります。 内容に合わせてiPad miniを使用しますので、指示に従って持参してください。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 著者名：茂野 香おる、長谷川 万希子 他 出版社：医学書院					1. 書 名：看護の基本となるもの 著者名：ヴァージニアヘンダーソン 訳：湯槇 ます、小玉 香津子 出版社：日本看護協会出版会 2. 書 名：現代に読み解くナイチンゲール看護覚え書き 著者名：南 裕子 他 出版社：国際看護師協会						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			看護の対象は、病気の人に限らず、個人・集団などあらゆる人が対象であることを理解できる。							◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践										
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践										
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践										
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			身体的・精神的・社会的に健全な状態（Well-being）をめざし、対象のニーズを捉えつつ、援助していく重要性を理解する。							○
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）							
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、積極的に学修に取り組むことができる。							◎	
		② 働きかけ力	疑問点・不明点について、教員に確認・相談などの行動がとれる。							○	
		③ 実行力	『授業記録』に積極的に取り組み、学びを深めようと努力できる。							◎	
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力									
		② 計画力	授業に対する予習・復習など、自分のペースで計画して取り組める。							○	
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	『授業記録』、グループワークで自身の考え、意見を分かりやすく表現することができる。							◎	
		② 傾聴力	授業内容や意見発表などで相手の説明をよく聞き、理解に努めることができる。							○	
		③ 柔軟性	『授業通信』、発表の場を通じ、他の意見、自分とは異なる考え等を理解し、受け入れることができる。							○	
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性	課題提出期限 他、授業におけるルールを守り行動できる。							○	
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15					30	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		20	5						25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		15	5						20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		20	5					30	55
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・「看護」とは何かーについて、その目的、対象、役割・機能について、自身の言葉で述べる ことができる。十分な理解ができている。 ・健康の捉え方、国民の健康状態について（統計サービス）、十分に理解している。 ・看護の対象、および看護の提供者や提供の仕組みについて十分理解している。 ・看護における倫理の必要およびその仕組みについて十分理解している。					・「看護」とは何かーについて、その目的、対象、役割・機能について、述べる ことができる。 ・健康の捉え方、国民の健康状態について（統計サービス）、理解している。 ・看護の対象、および看護の提供者や提供の仕組みについて理解している。 ・看護における倫理の必要およびその仕組みについて理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス：看護とは何か、看護のイメージ	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、個々が考える看護師のイメージ、看護師がどう見られてきたかなどを考え、要点をとらえ復習する。	60
第 2 回 ／	看護の歴史、近代看護の確立、看護の定義	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	40
第 3 回 ／	看護の理念、役割と機能、看護の質の保証 F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	30
第 4 回 ／	人間の「こころ」と「からだ」の理解 ・対象理解の基盤となる人体機能・構造 ・ホメオスタシス、ストレスの影響 看護の対象である人間の理解（2）	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第 5 回 ／	看護の対象である人間の理解 人間の欲求、ストレスと適応、危機理論 など ※小テスト①第 1 回～5 回までの内容理解を問う（自己採点）	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。 ・小テスト①	40
第 6 回 ／	生涯発達し続ける存在としての人間 発達とは、発達理論、身体的発達、心理・社会的発達	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第 7 回 ／	人間の「暮らし」の理解 ・生活者としての人間の側面 ・健康とは、健康の捉え方の推移 ・健康の増進・病気予防、健康関連行動 など	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する	30
第 8 回 ／	国民の健康・生活の全体像 ・少子高齢化の実態、人口構成、出生率低下等 ・死亡を通してみる健康問題 ：死因別死亡順位、がん・自殺・妊産婦死亡 等	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する	40
第 9 回 ／	看護の提供者（1） ・専門職とは、職業としての看護、看護職の養成制度など	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する	60
第 10 回 ／	看護の提供者（2） ・免許と看護業務、看護職者の教育とキャリア開発、課題 ※小テスト②第 6 回～10 回までの内容理解を問う（自己採点）	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する ・小テスト②	
第 11 回 ／	看護提供の仕組み（1） ・看護サービス、サービス提供の場、法制度	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する	
第 12 回 ／	看護提供の仕組み（2） ・看護サービスの管理、マネジメント ・人的資源の管理	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する	30
第 13 回 ／	看護提供の仕組み（3） ・看護における倫理的側面、法的規則、法的責任 ・看護における倫理と価値 事例を元に考える	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する	40
第 14 回 ／	医療安全と質の保証 ・インシデントとアクシデント ・ヒューマンエラー ・医療事故防止対策	講義（面接授業）	・振り返り、まとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SFN11F052A	専門教育科目 基礎看護学領域	基礎看護学概論Ⅱ Nursing Science Overview Ⅱ		2 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	看護理論家が提唱してきた看護の諸概念とその構造について学修することで、看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く。 看護理論に対する興味・関心を深める。							
キーワード	・看護理論 ・看護の概念	学修教育目標	看護理論とは何か等、それぞれの看護理論家が提唱している看護の諸概念および構造について具体的に学ぶことで、今後看護実践していく上で必要な理論的基盤を築くとともに、看護の本質について深く考え、自己の看護観の発展につなげる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
看護理論とは何かについて、様々な看護の概念や定義に加え、代表的理論家の提唱する看護理論について学習します。 実際の看護場面において活用し、看護を展開していくための重要なものです。講義形式だけでなく、グループディスカッションや発表も行いながら理論の活用についての体験も計画しています。予習・復習しながらしっかりと学びましょう。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
春学期の「基礎看護学概論Ⅰ」で学んできた看護理論家に加え、さらに多くの理論家が提唱してきた看護の概念などの触れる科目です。 実践場面でどのように理論を活用するのかを学びますので、春学期科目の知識を活用できるよう復習しましょう。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：看護学基礎テキスト第1巻 看護学の概念と理論的基盤 著者名：野嶋佐由美 出版社：日本看護協会出版会				書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 著者名：茂野香おる、長谷川万希子 他 出版社：医学書院 書 名：看護の基本となるもの 著者名：ヴァージニアヘンダーソン 訳：湯槇ます、小玉香津子 出版社：日本看護協会出版会				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		人間のもつ生理的ニードをはじめとする欲求やセルフケアへの欲求などを理解しその活用について学ぶ。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		人間の成長発達に関する理論を理解し、その活用について学ぶ。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		環境やその場の状況に応じた人間の心理社会的反応などを理解しその活用について学ぶ。					○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	看護理論の理解に向けて積極的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力	グループメンバ・教員に積極的に働きかけ、疑問点などを解決しながら学修に取り組める。					◎
		③ 実行力	授業に前向きに取り組み、グループワークや『授業記録』で自身の考えを表現できる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	授業に対する予習・復習等、自分のペースで計画し取り組むことができる。					○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	様々な理論を学び、実践場面での活用の仕方についてグループで検討し、対象理解につなげる。					◎
		② 傾聴力	メンバーの意見に耳を傾け、理論の活用についての意見交換し学びを深めることができる。					◎
		③ 柔軟性	グループワークや発表の場において他の意見、自分とは異なる考えを理解し受け入れることができる。					○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性	授業におけるルールを守り、メンバーと強調して行動することができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15					30	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		20	5					10	35
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		20	5					15	40
	特定の健康課題に対応する実践能力		15	5					5	25
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
代表的な看護理論について理解ができ、「実際場面での活用」というグループディスカッションでの体験において、活発に意見交換しながら活用の仕方を理解し自分の言葉で表現することができる。					代表的な看護理論について何とか理解することができ、「実際場面での活用という場面においては、試行錯誤しながら模索することで活用ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス・看護理論とは何か 看護のメタパラダイム：看護学を構成する主要概念	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読 んでおく。	40
第 2 回 ／	看護理論の発展過程、看護理論の全体像	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読 んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する	
第 3 回 ／	看護理論を実践に活かすプロセス（１） 《ナイチンゲール看護理論》 ※春学期で学んだナイチンゲール看護論を基に、看護理論を 学ぶためのステップを意識しながら学修を進める。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読 んでおく。 ・授業終了後、ナイチンゲール看護論の要点をまとめ 復習する	30
第 4 回 ／	看護理論を実践に活かすプロセス（２） 《ヘンダーソン看護理論 ニード論》 ※春学期で学んだナイチンゲール看護論を基に、看護理論を学ぶため のステップを意識しながら学修を進める。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読 んでおく。 ・授業終了後、ヘンダーソン 14 の基本的ニードにつ いて要点をまとめ復習する。	30
第 5 回 ／	看護理論を実践に活かすプロセス（２）－② 《ヘンダーソン看護理論 ニード論》 ※上記看護論を基に、事例を用いて対象の生活に焦点を当て、状況を とらえるための学修をする。	講義・演習（面接授業）	小テスト①	60
第 6 回 ／	看護理論を実践に活かすプロセス（３） 《オレム セルフケア理論》 ※オレムのセルフケア理論などを実際に使って、対象の状況を考えて みる体験をする。	講義・演習（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読 んでおく。 ・授業終了後、オレム看護理論について要点をまとめ 復習する。	90
第 7 回 ／	看護理論を実践に活かすプロセス（３）－② 《オレム セルフケア理論》 ※上記看護論を基に、事例を用いて対象の生活に焦点を当て、状況 をとらえるための学修をする。	講義・演習（面接授業）		90
第 8 回 ／	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（４）－① 看護における技術とは	講義・演習（面接授業）	看護における技術について（予習・復習）	
第 9 回 ／	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（４）－② 看護実践能力とは	講義・演習（面接授業）	看護実践能力について（予習・復習）	
第 10 回 ／	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（４）－③ 援助的人間関係の構築（対象の理解）とは	講義・演習（面接授業）	対象の理解について（予習・復習）	
第 11 回 ／	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（４）－④ 看護技術の倫理性とは	講義・演習（面接授業）	看護技術の倫理性について（予習・復習）	
第 12 回 ／	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（４）－⑤ 科学的な思考とは	講義・演習（面接授業）	科学的思考について（予習・復習） 小テスト②	90
第 13 回 ／	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（４）－⑥ 看護実践の展開について	講義・演習（面接授業）	各自、事例について内容を深められるように検討して くる。	90
第 14 回 ／	まとめ	（面接授業）	振り返り・まとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SFN11S053S		専門教育科目 基礎看護学領域		看護方法論 Nursing Methodology Research		2 単位	必 修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		本科目においては、あらゆる看護実践に必要となる基礎的な共通技術を学修する。看護技術は人間を対象にした専門技術であることから、対象者の安全を守る技術、コミュニケーション技術、療養環境を整える技術などを学修する。また、これらの看護技術の学修を通して看護技術とは何かという概念を学ぶ。								
キーワード		基礎看護技術 コミュニケーション 環境 安全	学修教育目標	この科目で学修する看護技術の原理・原則を理解し実施することができる。また、看護技術の概念および特徴を理解することができる。さらに、演習においては、患者や看護者の体験により学生相互の尊重や協力的態度、看護者としての基本的な姿勢や態度を養うことができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
本科目では、患者との信頼関係を構築するためのかわりについて学んだ後、安全・安楽な看護技術を提供するための基盤となる知識・技術を習得します。講義・演習に際してはテキストを熟読し、動画の視聴等の予習をした上で臨みましょう。講義で配布する資料には書き込みを多く入れ、理解を深めていってください。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「解剖学」、「生理学」、「基礎看護学概論Ⅰ」における学修内容を活かし、根拠に基づいた技術の理解、実施に繋げてください。本科目で学修する内容は、「生活援助技術論」「ヘルスアセスメント」「臨床技術論」等、看護援助にかかわる科目に直結します。わかりづらい箇所は放置せず、調べる、教員に確認する等して解決してから進んでいきましょう。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 著者名：茂野 香おる 他 出版社：医学書院 書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 著者名：任 和子 他 出版社：医学書院 書 名：根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 著者名：任 和子 他 出版社：医学書院				授業の中で適宜紹介する。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			対象者（個人）を中心に、その背景を捉え、援助に活かすことができる。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			患者の年代にみられる基本的特性を捉え、援助に活かすことができる。						○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践									
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践									
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		授業や演習、事前学習など、主体的に取り組むことができる。						○
		② 働きかけ力		グループメンバーや教員に積極的に働きかけながら、協力して学修を進めることができる。						○
		③ 実行力		基本的な看護技術に対象の個性を反映させ、安全に援助を実施することができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力		対象の状況を理解し、必要な援助について気付くことができる。						△
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力		対象または周囲の意見を聞くための環境を整え、関心を寄せ、丁寧に聴くことができる。						○
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性		マナー・ルールを守り、チームや全体の学びが円滑に進むよう自覚を持って動くことができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性		対象が苦痛や不利益が生じないよう、対象の立場になって考え、行動できる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	30				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10			10				20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		30		10	20				60
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10		5					15
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				5					5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
基本的な看護技術の原理・原則を十分理解し、確実に実施できている。 患者の背景や基本的特性を理解し、援助に十分活用できている。 看護技術の概念および特徴を十分理解できている。 看護者としての基本的な姿勢や態度が十分養われている。					基本的な看護技術の原理・原則を理解し、実施できている。 患者の基本的特性を理解し、援助に活用できている。 看護技術の概念および特徴を理解できている。 看護者としての基本的な姿勢や態度が養われている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンス 看護技術を学ぶにあたって（1） ・看護技術とは何か ・看護技術の基礎知識 ・看護技術の特徴と範囲	講義（面接授業）	- 基礎看護技術 I（序章）を読んでおく。 - 授業内容について、要点を中心に復習する。	40
第 2 回 ／	看護技術を学ぶにあたって（2） ・看護技術を適切に実践するための要素 ・安全、安楽	講義（面接授業）	- 基礎看護技術 I（序章）を読んでおく。 - 授業内容について、要点を中心に復習する。	40
第 3 回 ／	コミュニケーション（1） ・コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	40
第 4 回 ／	コミュニケーション（2） ・関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	40
第 5 回 ／	感染防止の技術（1） ・感染防止の基礎知識 ・標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 - 動画テキスト（感染防止の技術）を視聴し、予習・復習する - 授業終了後、要点を中心に復習する。	50
第 6 回 ／	感染防止の技術（2） ・感染経路別予防策 ・洗浄、消毒、滅菌 ・感染性廃棄物の取り扱い	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 - 動画テキスト（感染防止の技術）を視聴し、予習・復習する - 授業終了後、要点を中心に復習する。	50
第 7 回 ／	感染防止の技術（3） ・衛生的手洗い ・個人防護具の着脱	演習（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - 動画テキスト（衛生的手洗い・個人防護具の着脱）を視聴し、予習・復習する。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	技術チェックリスト・演習記録			
第 8 回 ／	感染防止の技術（4） ・衛生的手洗い ・個人防護具の着脱	演習（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - 動画テキスト（衛生的手洗い・個人防護具の着脱）を視聴し、予習・復習する。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	技術チェックリスト・演習記録			
第 9 回 ／	活動・休息援助技術（1） ・基本的活動の援助 ・ボディメカニクス	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - 今回の授業内容に該当するテキストページを読む。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	50
第 10 回 ／	活動・休息援助技術（2） ・体位保持 ・体位変換 ・移動	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - 今回の授業内容に該当するテキストページを読む。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	50
第 11 回 ／	活動・休息援助技術（3） ・体位変換	演習（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - 今回の授業内容に該当するテキストページを読む。 - 動画テキスト（ポジショニング、体位変換・移動）を視聴し、予習・復習する - 授業終了後、要点を中心に復習する。	40
	演習記録			
第 12 回 ／	活動・休息援助技術（4） ・体位変換	演習（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - 今回の授業内容に該当するテキストページを読む。 - 動画テキスト（ポジショニング、体位変換・移動）を視聴し、予習・復習する - 授業終了後、要点を中心に復習する。	40
	演習記録			
第 13 回 ／	活動・休息援助技術（5） ・移乗、移送	演習（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - 動画テキスト（移動・移乗）を視聴し、予習・復習する。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	演習記録			
第 14 回 ／	環境調整技術（1） ・療養生活の環境 ・病室環境のアセスメントと調整	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 - 動画テキスト（環境調整技術）を視聴し、予習・復習する。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	40
第 15 回 ／	環境調整技術（2） ・リネンの扱い方 ・ベッドメイキング	講義（面接授業）	- 前回の授業内容を振り返る。 - テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 - 動画テキスト（環境調整技術）を視聴し、予習・復習する。 - 授業終了後、要点を中心に復習する。	40

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	活動・休息援助技術（6） ・移乗、移送	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・動画テキスト（移動・移乗）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	演習記録			
第 17 回 ／	環境調整技術（3） ・ベッドメイキング	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・動画テキスト（環境調整技術）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	演習記録			
第 18 回 ／	環境調整技術（4） ・ベッドメイキング	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・動画テキスト（環境調整技術）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	演習記録			
第 19 回 ／	環境調整技術（5） ・臥床患者のリネン交換①	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・動画テキスト（リネン交換）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	演習記録・グループワークシート			
第 20 回 ／	環境調整技術（6） ・臥床患者のリネン交換①	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・動画テキスト（リネン交換）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	技術チェックリスト・演習記録・グループワークシート			
第 21 回 ／	環境調整技術（7） ・臥床患者のリネン交換②	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・動画テキスト（リネン交換）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	技術チェックリスト・演習記録・グループワークシート			
第 22 回 ／	環境調整技術（8） ・臥床患者のリネン交換②	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・動画テキスト（リネン交換）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	技術チェックリスト・演習記録・グループワークシート			
第 23 回 ／	看護における観察（1） ・看護における観察 ・観察の視点	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	40
	復習シート			
第 24 回 ／	看護における観察（2） ・情報収集とアセスメント ・看護記録	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	40
	復習シート			
第 25 回 ／	看護における情報伝達 ・報告・連絡・相談	講義・演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	グループワークシート			
第 26 回 ／	看護カンファレンス ・カンファレンスの意義と実際	講義・演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	50
	グループワークシート			
第 27 回 ／	技術チェック ・臥床患者のリネン交換を実施、評価	演習（面接授業）	・既習の知識（リネン交換、清潔、安全・安楽、環境、患者への配慮等）を考えたリネン交換の技術を反復練習する。 ・実施後、良かった点、改善が必要な点について具体的に振り返る。	50
	課題・技術評価シート			
第 28 回 ／	技術チェック ・臥床患者のリネン交換を実施、評価	演習（面接授業）	・既習の知識（リネン交換、清潔、安全・安楽、環境、患者への配慮等）を考えたリネン交換の技術を反復練習する。 ・実施後、良かった点、改善が必要な点について具体的に振り返る。	50
	課題・技術評価シート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SFN11F054S		専門教育科目 基礎看護学領域		生活援助技術論 Nursing Skills for Assisting Daily Living		2 単位	必 修	演 習	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	生活援助技術論は、病気や障害、加齢や幼弱などの理由から自力では日常生活に支障をきたす対象に対して、その必要度に応じた支援を行うための知識や技術である。日常生活行動の意義を理解したうえで、看護の対象となる人々の基本的ニーズを査定し、それを満たすための看護技術を修得する。										
	日常生活行動、基本的ニーズ			学修教育目標	①日常生活行動の意義を理解し、安全に技術を提供するための方法について説明できる。 ②対象者にとって適切な方法を選択し、実施できる。 ③対象者を尊重できる姿勢を学ぶために、実施を通して対象者の気持ちを示ことができる。 ④実施を客観的に評価し、安全・安楽な援助の提供について述べることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
みなさんが自分で行っている日常生活行動のなかの、睡眠・休息、清潔・衣生活、食事・栄養、排泄について、看護の対象になる人々にどのように提供したらよいかを修得する科目である。看護の対象者に行うためには、日常生活行動の意義を理解し、安全・安楽に、確実に提供する方法を身につけなければならない。基礎的な知識を土台に、グループワーク等で確認しながら進めるが、常に対象者の気持ちを考察する態度や、皮膚の構造や機能、食物の消化吸収、排泄の機序などの解剖学・生理学に基づいた知識が必要である。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
対象者の必要度に応じた支援を行うためには、1 年次春学期の「基礎看護学概論Ⅰ」「看護方法論」で修得した知識・技術が必要。夏季休業中に復習しておくこと。また、1 年次秋学期に配当されている「基礎看護学概論Ⅱ」で習う理論も、患者理解に必要なので、平行して学習を進め、得た知識を基本的ニーズの査定に活用すること。 「生活援助技術論」での知識・技術は「基礎看護学実践実習Ⅰ」の実際の臨床場面で活用できるよう学修すること。 また、2 年次秋学期に配当されている「臨床技術論」での学修の基礎になる。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
書 名：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学[3]） 著者名：藤崎 郁 出版社：医学書院					書 名：根拠と事故防止からみた基礎臨床看護技術 著者名：任 和子 出版社：医学書院						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践										
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			生活での援助技術とは何か。日常生活行動の意義に基づき、対象者の基本的ニーズを満たすことができる看護技術を習得する。						◎	
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践										
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践										
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			授業準備、課題、演習に主体的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力			看護を必要とする対象者に、協同して日常生活行動の維持に取り組めるよう声をかけることができる。						○
		③ 実行力			看護を必要とする対象者の基本出来ニーズに合ったケアを提供できる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 問題発見力			対象者の基本的ニーズを明らかにすることができる。						○
		② 計画力			対象者の基本的ニーズに合った方法を計画できる。						○
		③ 創造力			対象者のケアについて、感性を生かした新たな介入方法を提案できる。						◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の意見を筋道を立てて伝えることができる。						○
		② 傾聴力			相手の意見や考えを引き出すような雰囲気（相槌や表情）をつくることができる。						○
		③ 柔軟性			意見の違いを理解し、最終的には決まった方向に従うことができる。						○
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々との関係性を理解できる。						○
		⑤ 規律性			ルールを守った、模範となる行動をとることができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを感じるような事態になったときに、適切な人に支援を求めることができる。						△
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って考え、内省を繰り返しながら行動することができる。						△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			59	10	11	20				100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	2	1	5				18
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		19	2	4	5				30
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	2	1	2				15
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10	2	1	3				16
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	2	4	5				21
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
日常生活行動とは何か、その意義と性質を十分に理解している。 生活援助に関する知識・技術を十分に習得している。					日常生活行動とは何か、その意義と性質を理解している。 生活援助に関する知識・技術を習得している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 衣生活援助 2) 身体清潔 (1) 身体清潔の意義 (2) 清潔援助の実際	講義（面接授業）	・皮膚の構造と働きを復習する。 ・清潔・衣生活援助： 基礎看護技術ⅡP153～P210 を読む。	60
第 2 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 衣生活援助 2) 身体清潔 (1) 身体清潔の意義 (2) 清潔援助の実際	講義（面接授業）	・皮膚の構造と働きを復習する。 ・清潔・衣生活援助： 基礎看護技術ⅡP153～P210 を読む。	
第 3 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 衣生活援助技術 (1) 寝衣交換	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 4 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 衣生活援助技術 (1) 寝衣交換	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	
第 5 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 身体清潔 (1) 全身清拭	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 6 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 身体清潔 (1) 全身清拭	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	
第 7 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 演習 (1) 部分清拭・寝衣交換	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 8 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 演習 (1) 部分清拭・寝衣交換	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	
第 9 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 身体清潔 (1) 洗髪 (2) 部分浴	講義（面接授業）	・頭皮の構造・毛髪のサイクル ・皮膚の構造と働き ・基礎看護技術Ⅱ（清潔・衣生活援助技術：清潔援助の実際）を読む	60
第 10 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 身体清潔 (1) 洗髪 (2) 部分浴	講義（面接授業）	・頭皮の構造・毛髪のサイクル ・皮膚の構造と働き ・基礎看護技術Ⅱ（清潔・衣生活援助技術：清潔援助の実際）を読む	
第 11 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 演習 (1) 洗髪/部分浴	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 12 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 演習 (1) 洗髪/部分浴	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	
第 13 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 演習 (1) 洗髪/部分浴	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 14 回 ／	清潔・衣生活援助技術 1) 演習 (1) 洗髪/部分浴	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 15 回 ／	小テスト 睡眠と休息の援助 1) 睡眠への援助 (1) 睡眠・休息の意義 (2) 睡眠の具体的援助	講義（面接授業）	・小テスト出題範囲：第 14 回までの講義・演習内容 ・脳の解剖生理を復習する。 ・基礎看護技術Ⅱ（活動・休息援助技術：睡眠・休息の援助）を読む	60
第 16 回 ／	食事援助技術、清潔援助技術 1) 栄養の援助 (1) 栄養の意義・評価、食事摂取援助 2) 口腔ケア	講義（面接授業）	・栄養と消化吸収を復習する。 ・基礎看護技術Ⅱ（食事援助技術）を読む。 ・基礎看護技術Ⅱ（清潔・衣生活援助技術：口腔ケア）を読む。	
第 17 回 ／	食事援助技術 1) 栄養摂取援助 2) 口腔ケア	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 18 回 ／	食事援助技術、清潔援助技術 1) 栄養の援助 (1) 栄養の意義・評価、食事摂取援助 2) 口腔ケア	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	
第 19 回 ／	技術チェック 清潔援助技術の到達度確認	演習（面接授業）	・臥床患者の清拭と寝衣交換について技術チェックリストをもとに自己練習をする。	60
第 20 回 ／	技術チェック 清潔援助技術の到達度確認	演習（面接授業）	・臥床患者の清拭と寝衣交換について技術チェックリストをもとに自己練習をする。	
第 21 回 ／	排泄を整える技術、清潔援助技術 1) 排泄援助 (1) 排泄の意義・援助 2) 陰部の清潔	講義（面接授業）	・腸の解剖生理と排泄のメカニズムの復習をする。 ・基礎看護技術Ⅱ（排泄援助技術）を読む。 ・基礎看護技術Ⅱ（清潔・衣生活援助技術：陰部洗浄）を読む。	60
第 22 回 ／	排泄を整える技術、清潔援助技術 1) 排泄援助 (1) 排泄の意義・援助 2) 陰部の清潔	講義（面接授業）	・腸の解剖生理と排泄のメカニズムの復習をする。 ・基礎看護技術Ⅱ（排泄援助技術）を読む。 ・基礎看護技術Ⅱ（清潔・衣生活援助技術：陰部洗浄）を読む。	
第 23 回 ／	排泄を整える技術、清潔援助技術 1) 排泄援助 (1) 排泄援助 (2) 陰部洗浄	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 24 回 ／	排泄を整える技術、清潔援助技術 1) 排泄援助 (1) 排泄援助 (2) 陰部洗浄	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	
第 25 回 ／	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 罨法の意義 2) 罨法援助	講義（面接授業）	・体温調節のメカニズムについて復習をする。 ・基礎看護技術Ⅱ（苦痛の緩和・安楽確保の技術）を読む。	60
第 26 回 ／	総合演習① 1) 事例の理解 2) 援助計画の作成	講義・演習（面接授業）	・既習の知識・技術（解剖生理学、生活援助技術）を復習する。	
第 27 回 ／	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 罨法援助の実際 (1) 湯たんぽ (2) 氷枕	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	60
第 28 回 ／	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 罨法援助の実際 (1) 湯たんぽ (2) 氷枕	演習（面接授業）	・演習前課題で予習をする。 ・演習後課題で振り返りを行う。	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SFN11F055S	専門教育科目 基礎看護学領域	ヘルスアセスメント Health Assessment		2 単位	必 修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	看護は、さまざまな健康レベルにある人々の健康を客観的に査定し、看護ケアの根拠を明らかにする役割がある。そこで、この科目では、専門基礎教育科目で学修した内容をさらに臨床的に活用できるようアセスメントをする上での理論を学び、看護で行う実際的なアセスメント技法について学修する。							
	ヘルスアセスメント、フィジカルイグザミネーション 看護ケアの根拠		学修教育目標	この科目の達成目標は、人間の生理的側面、心理的側面、社会的側面の関係をふまえながら解剖生理、病態理論の基本的知識に基づき必要な情報が収集でき、その情報の意味を理解し、基本的なヘルスアセスメントが正確・安全・的確に実施できることである。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
看護の対象者を看護学的視点から理解できるように基本的なヘルスアセスメントができる能力を身につけていきます。 ヘルスインタビューや観察技法によって身体を系統的に観察していきます。 これらの技術によって、さまざまな異常を発見し、早期の対応につなげていくことができるので、意義の大きい科目と言えます。 細かい観察項目や観察する上でのポイントなど学ぶ点が多くあり、また正確な技術が要求されますので、必ず予習復習、そして繰り返しの技術練習を大事にしましょう。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
身体 の 構 造 が 分 か っ た 上 で の 観 察 が 重 要 と な る た め 「 解 剖 学 」 「 生 理 学 」 と の 関 連 が 大 き い と い え ま す 。 ま た 、 イ ン タ ビ ュー や 観 察 の た め に は 「 オ ー ラ ル コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 」、 「 人 間 の 心 」 な ど と の 関 連 も 深 く 、 わ か り 難 い 点 も 多 い で す が 曖 昧 な ま ま に せ ず 、 学 修 を 深 め ま た 技 術 に つ い て は 練 習 を 重 な て 身 に つ け る よ う 努 り す る こ と が 求 め ら れ ま す 。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 著者名：茂野 香おる 他 出版社：医学書院				書 名：根拠と急変対応からみた フィジカルアセスメント 著者名：清村 紀子 出版社：医学書院				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践							
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践							
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		知識の習得と根拠に基づいた看護実践					○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		人間の身体的、生理的健康問題につながる兆候を観察、インタビューによって把握する。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	授業や演習、課題などに主体的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	基本的な技術の修得に努力することができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	学修すべき内容について、事前学習・事後学習を計画的に取り組むことができる。					○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の考え・意見を周囲に分かりやすく伝え、学びを共有することができる。					○
		② 傾聴力	授業、演習での指導・助言、あるいはメンバーの意見に耳を傾けることができる。					◎
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性	ルールやマナーを守りグループでの学びが円滑に進むよう行動できる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10	30				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力			5		10				15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		50		5	20				75
	特定の健康課題に対応する実践能力			5						5
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				5					5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
身体を系統的に把握する観察点が十分に理解できヘルスインタビューやフィジカルイグザミネーションが正確・安全・的確に実施できる。 バイタルサインの測定技術は、相手に苦痛を与えることなく手技も的確で正確な値を得ることができる。					身体を系統的に把握する観察点がわかりヘルスインタビューやフィジカルイグザミネーションが正確、安全に実施できる。 バイタルサインの測定技術は、相手に苦痛を与えることなく正確な値を得ることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンスヘルスアセスメントとは 科目の目的や目標、進め方をガイダンスし、ヘルスアセスメントの定義や重要性を教授する。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションについて復習する。	20
第 2 回 ／	授業ガイダンスヘルスアセスメントとは 科目の目的や目標、進め方をガイダンスし、ヘルスアセスメントの定義や重要性を教授する。	講義（面接授業）		
第 3 回 ／	バイタルサイン ヘルスアセスメントの基本的技術である、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベルの確認と技術について学ぶ。	講義・演習・グループワーク（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、バイタルサイン、バイタルサインの正常と異常測定の方法について復習する。	60
第 4 回 ／	バイタルサイン ヘルスアセスメントの基本的技術である、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベルの確認と技術について学ぶ。	講義・演習・グループワーク（面接授業）		
第 5 回 ／	バイタルサイン ヘルスアセスメントの基本的技術である、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベルの確認と技術について演習を通して学ぶ。	講義・演習・グループワーク（面接授業）	・授業終了後、バイタルサイン測定について復習する。	60
第 6 回 ／	バイタルサイン ヘルスアセスメントの基本的技術である、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベルの確認と技術について演習を通して学ぶ。	講義・演習・グループワーク（面接授業）		
第 7 回 ／	系統別アセスメント 1（呼吸器系） 呼吸器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、呼吸器系の基礎知識とフィジカルアセスメント、呼吸器の解剖生理学 呼吸の正常と異常呼吸音聴取の方法、呼吸音の正常と異常について復習する。	60
第 8 回 ／	系統別アセスメント 1（呼吸器系） 呼吸器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義（面接授業）		
第 9 回 ／	系統別アセスメント 1（呼吸器系） 呼吸器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について演習をとおして学ぶ。	講義・演習・グループワーク（面接授業）	・授業終了後、呼吸器系フィジカルアセスメントの方法について演習する。	60
第 10 回 ／	系統別アセスメント 1（呼吸器系） 呼吸器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について演習をとおして学ぶ。	講義・演習・グループワーク（面接授業）		
第 11 回 ／	バイタルサイン（技術チェック） ― 成果発表 バイタルサイン測定の基本技術習得を確認する。	講義・演習・グループワーク（面接授業）	・バイタルサイン測定の基本技術を復習する。	60
第 12 回 ／	バイタルサイン（技術チェック） ― 成果発表 バイタルサイン測定の基本技術習得を確認する。	講義・演習・グループワーク（面接授業）		
第 13 回 ／	系統別アセスメント 2（循環器系） 循環器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、循環器系の基礎知識とフィジカルアセスメント循環器の解剖生理学 循環器系の正常と異常循環器系の聴診について復習する。	60
第 14 回 ／	系統別アセスメント 2（循環器系） 循環器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義（面接授業）		

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 15 回 ／	系統別アセスメント 2（循環器系） 循環器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について演習をとおして学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）	・授業終了後、循環器系フィジカルアセスメントの方法について演習する。	60
第 16 回 ／	系統別アセスメント 2（循環器系） 循環器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について演習をとおして学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）		
第 17 回 ／	水分と電解質に関するアセスメント 水分と出納の仕組みとデータから水と電解質に関するアセスメントについて学ぶ。	演習（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、電解質データの正常と異常について復習する。	60
第 18 回 ／	水分と電解質に関するアセスメント 水分と出納の仕組みとデータから水と電解質に関するアセスメントについて学ぶ。	演習（面接授業）		
第 19 回 ／	系統別アセスメント 3（消化器系）― 腹部 消化器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、消化器系の基礎知識とフィジカルアセスメント、消化器系の解剖生理学、消化器系の特徴腹部の聴診について復習する。	60
第 20 回 ／	系統別アセスメント 3（消化器系）― 腹部 消化器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義（面接授業）		
第 21 回 ／	系統別アセスメント 3（消化器系）― 腹部 消化器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について演習をとおして学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）	・演習終了子、腹部のフィジカルアセスメントの方法について復習する。	60
第 22 回 ／	系統別アセスメント 3（消化器系）― 腹部 消化器系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について演習をとおして学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）		
第 23 回 ／	系統別アセスメント 4（中枢神経系） 中枢神経系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、脳神経の解剖生理学、中枢神経系の機能評価、反射と観察のアセスメントについて復習する。	60
第 24 回 ／	系統別アセスメント 4（中枢神経系） 中枢神経系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法について学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）		
第 25 回 ／	系統別アセスメント 5（感覚器、筋・骨格系） 感覚器系、筋骨格系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業後、脊髄神経系の構造と機能、頭頸部、眼、耳、鼻のアセスメント、運動器（関節可動域など）について復習する。	60
第 26 回 ／	系統別アセスメント 5（感覚器、筋・骨格系） 感覚器系、筋骨格系の構造と機能をふまえながらそれらのフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）		
第 27 回 ／	事例学習 ヘルスアセスメントの基本的技術であるバイタルサイン測定とフィジカルアセスメントのテクニックを用いた観察。演習を通して学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）	バイタルサイン測定 フィジカルアセスメントのテクニック	60
第 28 回 ／	事例学習 ヘルスアセスメントの基本的技術であるバイタルサイン測定とフィジカルアセスメントのテクニックを用いた観察。演習を通して学ぶ。	講義・演習・グループワーク （面接授業）		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SFN12S056S		専門教育科目 基礎看護学領域		看護過程論Ⅰ Nursing Process TheoryⅠ		2単位	必 修	演 習	2年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的		看護過程は看護を展開するための思考技術であり、看護を科学的に実践するために誰もが身につけていなければならない基本技術である。臨床現場では看護の共通言語としてNANDA-Iの看護診断が用いられているが、これは単独に存在するものではなく看護過程のアセスメントに続く第2のステップであり、看護過程と切り離して理解されるべきものではない。したがって、看護を的確に行うためには、看護過程の各プロセスをしっかりと理解し、それぞれのステップで必要なクリティカルシンキングができる必要がある。本講義ではこれらのことを習得できることを目的とする。									
キーワード		・看護過程 ・アセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価 ・クリティカルシンキング		学修教育目標		看護展開するための思考である看護過程の目的および看護過程の各プロセスを理解し、紙上事例の情報を分析解釈しながら必要な援助を展開していくための基礎的能力を身に付ける。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
1年次に学んだ知識・技術を活用しながら事例の理解をしていく必要がある。そのためにまず、看護のプロセスに則って提示された課題を個人ワークしてすることが求められる。課題の個人的取り組みが主体的にできているか、さらにグループでのディスカッションに前向きに取り組んでいるのかなどの姿勢についても評価する。また、看護展開について必要な知識を問うペーパー試験の評価と合わせて科目の評価とする。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
看護の対象である人を理解しその人が抱えている問題を捉えるためには、「基礎看護学概論Ⅰ」「基礎看護学概論Ⅱ」で学んだ知識の活用が必要になってくる。また、人の身体の構造や機能を学ぶ「解剖学」「生理学」「生物学」など、さらに対象が抱える問題の解決に向けた計画の立案や看護を実施していくには「看護方法論」「生活援助技術論」「ヘルスアセスメント」で学んだ看護技術が必要になる。 対象の状況と関連させ、根拠づけて活用するためにはそれらの知識・技術を復習をしながら活用できるようにしましょう。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 著者名：茂野 香おる 他 出版社：医学書院 書 名：NANDA－Ⅰ 看護診断 定義と分類 2012-2014 著者名：NANDA インターナショナル、日本看護診断学会監訳 出版社：医学書院					授業内で適宜示す。 iPad（デジタル教科書）使用予定。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			紙上事例について、「個」としてその状態を理解する。						◎	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			紙上事例の年令についてその発達を理解する。						◎	
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践										
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践										
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			紙上事例の身体的・心理的・社会的状況を理解し、必要な看護を見出すことができる。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			対象理解に向けて、必要な学習に主体的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力			グループメンバー、教員に積極的に働きかけ、疑問点などの解決に努めることができる。						◎
		③ 実行力			授業・演習に積極的に取り組み、看護過程の各ステップに沿って進めることができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			対象の抱える問題を発見するために検討ことができる。						○
		② 計画力			授業の進行、課題への取り組みに合わせて計画的に自己学修を進めることができる。						○
		③ 創造力			対象の情報をもとにその状況を推理推察しながら考えることができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			グループディスカッションしながら、対象の状況について自身の考えを発信することができる。						◎
		② 傾聴力			グループメンバーの意見をよく聞き、対象理解の参考にすることができる。						◎
		③ 柔軟性			グループメンバーの意見を柔軟に受け止め、価値観の違い・別の角度からの意見として取り入れる。						◎
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性			授業内でのルールを守り周囲と協調して取り組むことができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力			周囲の支援を受けながら感情のコントロールを図り、調整に努めることができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性			対象の情報（記録物）管理の重要性を認識し、丁寧に整理しながら扱うことができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45			15			40	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10						5	15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15			5			15	35
	特定の健康課題に対応する実践能力		10			5			15	30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10			5			5	20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
紙上事例（対象）の病気や病状、日常生活上の未充足部分などの理解について、個人でワークした内容にグループでの検討内容や成果発表における他グループの内容なども参考に追加修正し、より対象にあったものになるよう積極的に検討を加えることができる。指導・助言を積極的に受け入れ、視野を広げより発展的内容に深めていくことができる。					紙上事例（対象）の病気や病状、日常生活上の未充足部分などの理解について、個人ワークの内容にグループでの検討内容を加えることはできるが、根拠づけや疑問点への解決に消極的な部分がある。一通りの理解および看護展開はできる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス：看護過程の目的・意義、構成要素 クリティカルシンキング 《看護過程》 1. 情報収集 2. 情報の分析：①相手への関心 ②基準値との比較 ③理論の活用 ※プチレッスン①	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。	30
第 2 回 ／	ガイダンス：看護過程の目的・意義、構成要素 クリティカルシンキング 《看護過程》 1. 情報収集 2. 情報の分析：①相手への関心 ②基準値との比較 ③理論の活用 ※プチレッスン①	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・1年次の既習科目の資料をもとに、肺の解剖生理に ついて復習する。	90
第 3 回 ／	《看護過程》 1. 情報収集 2. 肺の解剖生理、呼吸機能についての理解	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。	90
第 4 回 ／	《看護過程》 1. 情報収集 2. 肺の解剖生理、呼吸機能についての理解	講義・演習（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・1年次の既習科目をもとに肺の解剖生理、肺炎につ いて復習する。	60
第 5 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：呼吸・循環 2. 肺炎の病態理解	講義・演習（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・1年次の既習科目をもとに肺炎の病態生理について 復習する。	60
第 6 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：呼吸・循環 2. 肺炎の病態理解	講義・演習（面接授業）	紙上事例のアセスメント（呼吸・循環）	90
第 7 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：呼吸・循環	講義・演習（面接授業）		60
第 8 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：呼吸・循環	講義・演習（面接授業）	紙上事例のアセスメント（排泄・清潔）	90
第 9 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：排泄・清潔	講義・演習（面接授業）		60
第 10 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：排泄・清潔	講義・演習（面接授業）	紙上事例のアセスメント（活動・学修活動）	90
第 11 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：活動・学習活動	演習（面接授業）		60
第 12 回 ／	《看護過程》 1. 情報の分析：活動・学習活動	演習（面接授業）	紙上事例の関連図作成	90
第 13 回 ／	《看護過程》 2. 関連図の作成 3. 看護診断とは(看護問題の明確化)	講義・演習（面接授業）		60
第 14 回 ／	《看護過程》 2. 関連図の作成 3. 看護診断とは(看護問題の明確化)	講義・演習（面接授業）	紙上事例の看護診断・優先順位	90

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 15 回 ／	《看護過程》 3. 看護診断 4. 看護計画の立案	講義（面接授業）		
第 16 回 ／	《看護過程》 3. 看護診断 4. 看護計画の立案	演習（面接授業）	紙上事例の看護計画立案・目標設定	60
第 17 回 ／	《看護過程》 3. 看護問題の明確化、優先順位の決定、目標設定 4. 看護計画の立案	演習（面接授業）		
第 18 回 ／	《看護過程》 3. 看護問題の明確化、優先順位の決定、目標設定 4. 看護計画の立案	演習（面接授業）	看護計画の追加修正	60
第 19 回 ／	《看護過程》 4. 看護計画の立案	演習（面接授業）		
第 20 回 ／	《看護過程》 4. 看護計画の立案	演習（面接授業）	演習に向けての準備、技術のシミュレーション	60
第 21 回 ／	《看護過程展開の実際》 5. 看護計画に沿った援助の実施	演習（面接授業）		
第 22 回 ／	《看護過程展開の実際》 5. 看護計画に沿った援助の実施	演習（面接授業）	演習を振り返っての評価・考察	90
第 23 回 ／	《看護過程》 6. 評価・考察	演習（面接授業）		
第 24 回 ／	《看護過程》 6. 評価・考察	演習（面接授業）	演習を振り返っての評価・考察	60
第 25 回 ／	《看護過程》 6. 評価・考察	演習（面接授業）		
第 26 回 ／	《看護過程》 6. 評価・考察	演習（面接授業）	成果発表に向けた準備	60
第 27 回 ／	まとめ・振り返りに向けた準備	演習（面接授業）		
第 28 回 ／	まとめ・振り返りに向けた準備	演習（面接授業）		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
SFN12F056A		専門教育科目 基礎看護学領域		看護過程論Ⅱ Nursing Process Theory Ⅱ		1 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期		
授業科目の学修教育目的・目標												
学修教育目的	看護過程は看護を展開するための思考技術であり、対象に合った看護を科学的に実践するために重要なスキルである。 看護過程論Ⅰでは、看護過程の目的、各プロセスを理解し、事例をもとに看護過程の展開を実施している。 看護過程論Ⅱでは、それらの知識・技術をもとに、さらに事例を用いた看護過程の展開を行い、臨地実習に向けた思考の定着を目指す。 P B L（problem based leaning）およびポートフォリオ、模擬患者による看護演習を取り入れ、主体的・計画的に学習する能力、問題解決能力、状況判断能力を身につける。											
	キーワード	・看護過程の展開 ・臨地実習 ・ポートフォリオ ・模擬患者		学修教育目標	看護過程の各プロセスに沿って紙上事例の状況を理解し看護展開の基本技術習得を目指す。 臨地実習での実際の看護展開を視野に入れ、紙上事例の抱える問題解決に向け、具体的な検討ができる。							
授業科目の概要及び学修上の助言												
春学期に学んだ「看護過程論Ⅰ」で学んだ知識技術を活用し、新たな紙上事例についての病気やその状態、それらが生活に及ぼす影響などから、どんな問題を抱えているのかを具体的に考え、解決に向けているいろいろな視点で検討することができるように、より実践的な学修をしていく。 興味関心をもって主体的に取り組んでほしい。												
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能												
看護の対象である人を理解しその人が抱えている問題を捉えるためには、「基礎看護学概論Ⅰ」「基礎看護学概論Ⅱ」で学んだ知識の活用が必要になってくる。また、人の身体の構造や機能を学ぶ「解剖学」「生理学」「生物学」など、さらに対象が抱える問題の解決に向けた計画の立案や看護を実施していくには「看護方法論」「生活援助技術論」「ヘルスアセスメント」で学んだ看護技術が必要になる。 対象の状況と関連させ、根拠づけて活用するためにはそれらの知識・技術を復習をしながら活用できるようにしましょう。												
教 科 書					参考書・リザーブドブック							
書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 著者名：茂野 香おる 他 出版社：医学書院 書 名：NANDA－Ⅰ 看護診断 定義と分類 2012-2014 著者名：NANDA インターナショナル、日本看護診断学会監訳 出版社：医学書院					授業内で適宜指示する。 iPad（デジタル教科書）使用予定。							
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）								
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			紙上事例について「個」の状態を色々な角度から理解する。						◎		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			紙上事例の年齢・発達について理解する。						◎		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践											
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践											
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			紙上事例の身体的・心理的・社会的状況を検討・理解し、必要な看護を見出す。						◎		
授業科目における社会人基礎力の育成目標												
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）							
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	対象理解に向けて、必要な学習に主体的に取り組むことができる。							◎		
		② 働きかけ力	グループメンバー、教員に積極的に働きかけ、疑問点などの解決に努めることができる。							○		
		③ 実行力	授業・演習に積極的に取り組み、看護過程の各ステップに沿って進めることができる。							◎		
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	対象の抱える問題を発見するために検討することができる。							○		
		② 計画力	授業の進行、課題への取り組みに合わせて計画的に自己学修を進めることができる。							◎		
		③ 創造力	対象の情報をもとにその状況を推理推察しながら考えることができる。							◎		
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	グループディスカッションしながら、対象の状況について自身の考えを発信することができる。							○		
		② 傾聴力	グループメンバーの意見をよく聞き、対象理解の参考にすることができる。							◎		
		③ 柔軟性	グループメンバーの意見を柔軟に受け止め、価値観の違い・別の角度からの意見として取り入れる。							○		
		④ 状況把握力	グループメンバーとの関係性を理解した行動がとれる。							○		
		⑤ 規律性	授業内でのルールを守り周囲と協調して取り組むことができる。							◎		
		⑥ ストレスコントロール力	周囲の支援を受けながら感情のコントロールを図り、調整に努めることができる。							○		
4. 倫理観		① 倫理性	対象の情報（記録物）管理の重要性を認識し、丁寧に整理しながら扱うことができる。							○		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45			15			40	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		15						5	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15			5			15	35
	特定の健康課題に対応する実践能力		10			5			15	30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5			5			5	15
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
紙上事例（対象）の病気や病状、日常生活上の未充足部分などの理解について、個人でワークした内容にグループでの検討内容や成果発表における他グループの内容なども参考に追加修正し、より対象にあったものになるよう積極的に検討を加えることができる。指導・助言を積極的に受け入れ、視野を広げより発展的内容に深めていくことができる。					紙上事例（対象）の病気や病状、日常生活上の未充足部分などの理解について、個人ワークの内容にグループでの検討内容を加えることはできるが、根拠づけや疑問点への解決に消極的な部分がある。一通りの理解および看護展開はできる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	学習のガイダンス 看護過程論Ⅰの振り返り、自己・個人の学習目標 事例紹介：脳梗塞、右不全麻痺	講義（面接授業）	過程論Ⅰを振り返り、自己目標を検討（予習）	30
第 2 回 ／	《対象の理解》 脳神経系の解剖生理の理解① 脳の仕組み、脳血管など	講義・演習（面接授業）	脳神経の解剖生理（予習・復習）	90
第 3 回 ／	《対象の理解》 脳梗塞の理解① 原因、症状、障害など	講義・演習（面接授業）	脳梗塞の理解（予習・復習）	90
第 4 回 ／	《対象の理解》 脳梗塞の理解② 検査、看護など	講義・演習（面接授業）	脳梗塞の理解（予習・復習） 事例情報のアセスメント	各 90
第 5 回 ／	《対象の理解》 事例情報のアセスメント①	演習（面接授業）	事例情報のアセスメント	90
第 6 回 ／	《対象の理解》 事例情報のアセスメント②	講義・演習（面接授業）	事例情報のアセスメント	90
第 7 回 ／	《対象の理解》 事例情報のアセスメント③	講義・演習（面接授業）	学修成果のまとめ	90
第 8 回 ／	学修成果のまとめ・振り返り	講義・演習（面接授業）	事例情報の関連図作成	60
第 9 回 ／	《対象の理解》 関連図作成② 看護問題の抽出①	講義・演習（面接授業）	事例情報の関連図作成、看護問題の抽出	
第 10 回 ／	《対象の理解》 看護問題の抽出② 優先度の決定① 計画立案①	講義・演習（面接授業）	事例情報の看護問題の抽出、優先順位、看護計画立案	120
第 11 回 ／	《対象の理解》 計画立案②	講義・演習（面接授業）	事例の看護計画立案、追加修正 看護援助の実施に向けての準備	90
第 12 回 ／	《対象の理解》 援助の実施（演習）① 援助の評価・修正①	演習（面接授業）	看護援助に対する評価・考察	90
第 13 回 ／	《対象の理解》 援助の評価・修正②	演習（面接授業）	援助の評価・修正 看護の振り返り・まとめ	90
第 14 回 ／	看護の振り返り まとめ	演習（面接授業）	看護の振り返り・まとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SFN12F057S	専門教育科目 基礎看護学領域	臨床技術論 Clinical Skill Theory		2 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	治療を受ける人々のニーズを理解し、患者が安全・安楽に治療を受け、最大の治療効果が得られるようにするための援助（診療の補助技術）について、講義および演習で習得する。							
	診療の補助 根拠に基づく技術 安全・安楽	学修教育目標	診療の補助技術の原理・原則を理解し、根拠に基づいた技術を習得できる。演習においては、患者体験を通して治療を受ける患者の苦痛やニードを理解し、安全・安楽な援助を実施することができる。また、看護者としての倫理的な姿勢や態度を身に付けることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
本科目では、薬物療法や酸素吸入療法、採血など、患者に行われる基本的な治療および検査実施時の援助について、順に学修を進めます。講義・演習に際してはテキストを熟読し、動画の視聴等の予習をした上で臨みましょう。講義で配布する資料には書き込みを多く入れ、理解を深めていってください。また、治療を受ける患者の苦痛を最小限にできるよう、常に考えを巡らせながら学修してください。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
本科目では、「看護方法論」「生活援助技術論」で習得した基礎的な理解を基に、緻密な技術を習得していきます。また、感染予防・無菌操作については徹底、強化します。「解剖学」、「生理学」、「疾病論」等で学修した内容を活用し、根拠に基づいた技術の理解、実施に繋げてください。「ヘルスアセスメント」「看護過程」および臨床実習にも繋がる科目でもあるため、わかりづらい箇所は放置せず、調べる、教員に確認する、練習を重ねる等して解決してから進んでいきましょう。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 著者名：任 和子 出版社：医学書院 書 名：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 著者名：任 和子、秋山 智弥 編集 出版社：医学書院				授業の中で適宜紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		対象者（個人）を中心に、その背景を捉え、援助に活かすことができる。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		患者の年代にみられる基本的特性を捉え、援助に活かすことができる。					○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践							
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業や演習、事前学習など、主体的に取り組むことができる。					◎	
	② 働きかけ力	グループメンバーや教員に積極的に働きかけながら、協力して学修を進めることができる。					◎	
	③ 実行力	基本的な看護技術に対象の個性を反映させ、安全に援助を実施することができる。					○	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 問題発見力	対象の状況を理解し、必要な援助について気付くことができる。					△	
	② 計画力							
	③ 創造力	対象の状況を理解し、苦痛を最小限にするために必要な配慮について考えることができる。					△	
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を整理し、わかりやすく相手に伝えることができる。					○	
	② 傾聴力	対象または周囲の意見を聞くための環境を整え、関心を寄せ、丁寧に聴くことができる。					○	
	③ 柔軟性	対象または周囲の意見に冷静に耳を傾け、より良い結果を導くことができる。					△	
	④ 状況把握力							
	⑤ 規律性	マナー・ルールを守り、チームや全体の学びが円滑に進むよう自覚を持って動くことができる。					◎	
	⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観	① 倫理性	対象が苦痛や不利益が生じないよう、対象の立場になって考え、行動できる。					○	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	10	15	20				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		5			5				10
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		40	10	10	10				70
	特定の健康課題に対応する実践能力					5				5
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10		5					15
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
診療の補助技術の原理・原則を十分理解し、確実に実施できている。 患者の背景や基本的特性を理解し、援助に十分活用できている。 患者の苦痛を最小限にする配慮について深く考え、実施できている。 看護者としての基本的な姿勢や態度が十分養われている。					診療の補助技術の原理・原則を理解し、実施できている。 患者の背景や基本的特性を理解し、援助に活用できている。 患者の苦痛を最小限にする配慮について考え、実施できている。 看護者としての基本的な姿勢や態度が養われている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	感染防止の技術（1） スタンダードプリコーション 洗浄・消毒・滅菌	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 2 回 ／	感染防止の技術（2） 無菌操作 個人用防護具の着脱 感染性廃棄物の取り扱い	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 3 回 ／	感染防止の技術（3） 無菌操作 滅菌手袋の着脱	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（感染防止の技術）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 4 回 ／	感染防止の技術（4） 無菌操作 滅菌手袋の着脱	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（感染防止の技術）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 5 回 ／	創傷管理技術（1） 創傷管理の基礎知識 創傷処置 ドレッシング・包帯法	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 6 回 ／	創傷管理技術（2） 褥瘡予防	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 7 回 ／	創傷管理技術（3） 創傷処置 包帯法	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（創傷管理技術）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 8 回 ／	創傷管理技術（4） 創傷処置 包帯法	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（創傷管理技術）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 9 回 ／	呼吸・循環を整える技術（1） 酸素吸入療法 排痰ケア	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 10 回 ／	呼吸・循環を整える技術（2） 吸引 吸入	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 11 回 ／	呼吸・循環を整える技術（3） 1) 酸素吸入療法 2) 一時的吸引	演習・グループワーク（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（酸素吸入、一時的吸引）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 12 回 ／	呼吸・循環を整える技術（4） 1) 酸素吸入療法 2) 一時的吸引	演習・グループワーク（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（酸素吸入、一時的吸引）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 13 回 ／	排泄援助技術（1） 1) 導尿 2) 浣腸	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 14 回 ／	排泄援助技術（2） 1) 導尿 2) 浣腸	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 15 回 ／	排泄援助技術（3） 一時的導尿	演習・グループワーク（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（導尿）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	排泄援助技術（4） 一時的導尿	演習・グループワーク（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（導尿）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 17 回 ／	排泄援助技術（6） 1) 浣腸	演習・グループワーク（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（浣腸）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 18 回 ／	排泄援助技術（6） 1) 浣腸	演習・グループワーク（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（浣腸）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 19 回 ／	与薬（1） 与薬の基礎的知識 経口与薬・口腔内与薬 点眼・点鼻	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 20 回 ／	与薬（2） 経皮的与薬 直腸内与薬 注射	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 21 回 ／	与薬（3） 皮下注射、筋肉内注射	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（与薬）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 22 回 ／	与薬（4） 皮下注射、筋肉内注射	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（与薬）を視聴し、予習・復習する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 23 回 ／	症状・生体機能管理技術（1） 症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査 生体情報のモニタリング	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 24 回 ／	症状・生体機能管理技術（2） 採血	講義（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 25 回 ／	症状・生体機能管理技術（3） 静脈血採血	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（静脈血採血）を視聴し、予習・復習 する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	60
第 26 回 ／	症状・生体機能管理技術（4） 静脈血採血	演習（面接授業）	・前回の授業内容を振り返る。 ・演習課題を記載する。 ・動画テキスト（静脈血採血）を視聴し、予習・復習 する。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	
第 27 回 ／	技術チェック	演習（面接授業）	・既習の知識・技術を復習し、課題の技術内容に 反映させ、反復練習する。 ・実施後、良かった点、改善が必要な点について 具体的に振り返る。	60
第 28 回 ／	技術チェック	演習（面接授業）	・既習の知識・技術を復習し、課題の技術内容に 反映させ、反復練習する。 ・実施後、良かった点、改善が必要な点について 具体的に振り返る。	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SFN11F058S	専門教育科目 基礎看護学領域	基礎看護学実践実習Ⅰ Basics Nursing Practice TrainingⅠ		1 単位	必 修	実 習	1 年次	秋学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	基礎看護学実習Ⅰは、初めて病院で行なう実習である。 看護活動の場の1つである病院・病棟の構造や機能を知り、入院を余儀なくされた対象者とのコミュニケーションを通して療養環境や日常生活行動の変化および心理的な変化を学ぶ。また、看護師による看護場面の実際を見学することにより看護師の役割について学ぶことを目的とする。							
	キーワード ・病院の構造・機能 ・コミュニケーション ・療養環境 ・日常生活行動 ・看護師の役割		学修教育目標	病院・病棟の見学、看護場面の見学および受け持ち患者とのコミュニケーションやケアの体験、見学を通して、看護に対する基礎的知識および態度について学ぶ。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
初めての病院実習であるが、受け持ち患者をもち一人の患者とゆっくりコミュニケーションを図り、関係性を築くことに主眼を置き、患者がどのような環境で療養し、どのような看護を受け、どんなことを考えたりしているのかについて感じ、学んで欲しい。 また、看護師が患者にどのように関わり援助しているのか、その役割についても感じ、考えてほしい。 初めての体験なので緊張もするが、教員や指導者がつねに身近で支援する環境であるので、安心していろいろなことを見て・聞いて・学んで欲しい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
1 年生で学ぶ「基礎看護学概論Ⅰ」「基礎看護学概論Ⅱ」「看護方法論」「生活援助技術論」「ヘルスアセスメント」などで学んだ知識や看護とは何か―について考えてもらいたい。とくに、療養環境や病床環境のあり方、整え方、コミュニケーションの図り方など看護の基本となる点について予習して臨んでもらいたい。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
基礎看護学概論Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト 看護方法論、生活援助技術論、ヘルスアセスメントで使用したテキスト				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		入院している受け持ち患者の生活の状態について理解する					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		受け持ち患者の年代とその影響について理解する					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		受け持ち患者がどのようなケアを受けているのかを理解する					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	臨地における看護の知識や技術を学ぶために積極的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	受け持ち患者にコミュニケーションを通して働きかけ、関係性を築くことができる。					◎
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	毎日の実習での行動について主体的に計画することができる。					○
		③ 創造力	対象の生活や心理状態についてその人の立場に立って考えることができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	受け持ち患者について、実習についての疑問点など自分から確認したり、相談することができる。					○
		② 傾聴力	受け持ち患者の言動、指導者・教員の助言に耳を傾け聴くことができる。					◎
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性	集合時間や提出時間など実習の規律、グループでのマナーを守り行動することができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力	周囲との関係性を築くうえで必要な支援を求めることができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	患者の個人情報を遵守することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合									100	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								30	30
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								30	30
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								20	20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								20	20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
病院という環境や患者が療養している病棟・病床環境、患者とのコミュニケーションを図り患者がどのようなことを感じているのか、看護師の役割など実習の目標とする内容について、根拠づけも含めて十分な理解ができている。					病院という環境や患者が療養している病棟・病床環境、患者とのコミュニケーションを図り患者がどのようなことを感じているのか、看護師の役割など実習の目標とする内容について、なんとか一通りの理解・表現ができている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	＜実習準備＞ 1. 基礎看護技術の実技試験 注) 実習準備の一環として実技試験合格を目指す	演習	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎・臨床看護技術（動画参照）	90 分×5 回 以上 エビデンスに 基づいた正確 な実施を目指 す
第 2 回 ／	2. 実習ガイダンス（11 月初～12 月末） ＊ 実習のねらいを説明し実習に向けて必要な学習 および整理 （事前学習課題の提示） ＊ 基礎看護技術の学内演習 既習の看護技術について演習	演習	＊技術援助についての学習（知識の整理 ：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ） ＊基礎・臨床看護技術（動画参照）：技術実施	90 分×5 回 以上 スムーズに 安全で確実な 実施を目指す
第 3 回 ／	3. 実習オリエンテーション（1 月中旬：実習開始前 1 週間） ＊ 全体オリエンテーション 実習目的・目標、実習の進め方、記録の仕方などについ て 実習に臨む姿勢・態度、看護者としての倫理観など、 ＊ 事前学習内容（知識）の整理、技術演習	演習	＊技術援助についての学習（知識の整理 ：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ） ＊基礎・臨床看護技術（動画参照）：技術実施	60
第 4 回 ／	＜臨地実習＞ 初日：学内日：実習計画の点検、看護技術の確認など	学内実習	＊技術援助についての学習（知識の整理 ：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ） ＊基礎・臨床看護技術（動画参照）：技術実施	60
第 5 回 ／	2 日目：臨地初日 病院オリエンテーション 病院の概要、看護部の概要、院内見学 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の紹介 カルテから情報収集、指導者・教員からの説明 患者とのコミュニケーション	実習	＊実習した内容や考察を実習記録に記載する	
第 6 回 ／	3 日目：臨地 2 日目 情報収集、コミュニケーション 看護師に就いて看護場面の見学や体験をする 療養環境を理解する	実習	＊実習した内容や考察を実習記録に記載する ＊前日の記録についての指導内容をもとに修正追加す る ＊必要に応じて、基礎・臨床看護技術（動画）で 技術確認する	
第 7 回 ／	4 日目：臨地 3 日目 コミュニケーション 看護師に就いて看護場面の見学や体験をする 最終カンファレンス	実習	＊実習した内容や考察を実習記録に記載する ＊前日の記録についての指導内容をもとに修正追加す る ＊必要に応じて、基礎・臨床看護技術（動画）で 技術確認する	
第 8 回 ／	5 日目最終日：学内日：実習のまとめ・振り返り 実習の学びについてグループ毎にまとめ発表する 他グループの発表を聞き、学びの共有を図る 記録の最終整理、提出 個人面接 ※詳細については実習要項参照	学内実習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業
 ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SFN12F058A		専門教育科目 基礎看護学領域		基礎看護学実践実習Ⅱ Basics Nursing Practice TrainingⅡ		2単位	必 修	実 習	2年次	秋学期 （ 集 中 講 義 ）
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	健康問題を持ち入院を余儀なくされた対象者とのかかわりを通し、看護過程を用いて対象者を理解し、解決すべき問題を判断した上で対象者の日常生活を整えるための援助の実際を学ぶ。また生命の尊厳と看護者としての倫理観を養う。									
	キーワード			学修教育目標	受け持ち患者を1名担当して看護過程を展開する。 したがって、患者の疾病（病態生理）を理解し、日常生活に及ぼしている問題点を明らかにしていくことで、その生活過程を安全で快適なものに整えることを目指し、援助を提供できるようにする。 看護を実践する上で看護過程の展開というスキルが重要かつ欠かせないものであることを学ぶ。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
受け持ち患者とのコミュニケーションや看護ケアを通して、患者が抱えている生活上の問題をとらえ、その問題の解決に向けて必要な援助を実施し、評価するという一連のプロセスを実際に臨地実習の中で辿っていくことになる。患者の状態は日々変化して行くため、把握することは難しく緊張するが、教員・指導者が近くで学生個々に必要な指導や助言をしながら支援していくため、解らないことなど積極的に解決していけるよう一緒に頑張りましょう。 初めは解らなくても、一つずつ理解できるよう努力していくことが「解る」という実感と楽しさにつながり、それが患者との信頼関係構築に結びつきます。 初めから解る人はいません。一步一步頑張り有意義な臨地実習にしましょう。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
1年生で学んだ基礎看護学関係の科目だけでなく、「解剖学」「生理学」「倫理学」「心理学」など等、すべての科目が活用されます。 特に日常生活援助技術は、本実習において援助の中心になる技術を学んだ科目なので、しっかりと振り返り再度練習して臨むことが重要です。										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
基礎看護学概論Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト 看護方法論、生活援助技術論、ヘルスアセスメントで使用したテキスト 看護過程論、臨床技術論で使用したテキスト					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			患者の入院前の日常生活、身体面、社会面などの状態について観察し分析することができる。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			患者の発達段階・課題について考え、何が阻害されているのかを考えることができる。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践									
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			患者の疾患がどのような原因で発症したのか、今後何が予測されるのか検討することができる。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			患者に必要な看護を見出し、現状の改善・悪化予防など必要な看護について検討することができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		臨地実習に積極的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力		受け持ち患者にコミュニケーションを通して働きかけ、関係性を築くことができる。						◎
		③ 実行力		必要と考える援助の実施、疑問点に対する解決の取り組みができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		患者の抱えている問題に気付くことができる。						◎
		② 計画力		毎日の実習での行動について主体的に計画することができる。						○
		③ 創造力		収集した情報を元に患者の状況について事実に基づいて推理推察し、対象像に近づくことができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		患者について、実習につての疑問点など自分から確認したり、相談することができる。						◎
		② 傾聴力		患者の言動、指導者・教員の助言に耳を傾け聴くことができる。						◎
		③ 柔軟性		他者の意見を柔軟に受け止め、活用することができる。						○
		④ 状況把握力		患者の日々の情報をつかみ、その日の状況を把握・理解することができる。						◎
		⑤ 規律性		集合時間や提出時間など実習の規律、グループでのマナーを守り行動することができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力		周囲との関係性を築く上で必要な支援を求めることができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性		患者の個人情報を順守することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合									100	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								20	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								20	20
	特定の健康課題に対応する実践能力								20	20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								10	10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								30	30
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
看護過程のプロセスに沿って対象を理解し、看護援助を提供するという実習の目標について、受け持ち患者の理解が8割以上できているかどうかを判断する。対象理解については優先的に理解把握が必要な内容に対する展開が出来ており、個別性を十分に踏まえた内容であり、優先する問題の解決に向けた実践ができている。(優先順位を踏まえた取り組みになっている)					看護過程のプロセスに沿って対象を理解し、看護援助を提供するという実習の目標について、受け持ち患者の理解が6割以上できているかどうかを判断する。看護過程のプロセスは一通り踏めているが、優先順位に沿った取り組みになっていない部分がある。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	<実習準備>（11月初旬～12月中旬） 1. 実習ガイダンス ＊実習のねらいを理解し実習に向けて必要な知識を整理する。 ＊基礎看護技術演習：特に1年次に学習した日常生活援助について演習、手技・留意点などを確認する。	講義・演習	＊事前学習として、必要な日常生活援助のについての学修（知識の整理）を自主的に進める。（予習）	90分×6回
第2回 ／	<実習準備> 2. 実習ガイダンス ＊看護倫理、医療安全についての認識を深める。 講義、事例に沿って何が問題なのかを検討する。	講義・演習	知識を想起し、ディスカッションに向け各自で何が問題なのか、何をどうすれば解決に迎えるのかーなどについて考え準備する。	90
第3回 ／	<実習準備> 3. 実習ガイダンス（11月初） ＊カンファレンスについての実施体験 ロールプレイなどによるディスカッション ＊テーマに沿って主体的に自身の考えを述べる。 相手の意見に耳を傾ける。		カンファレンスによって検討した点、及び自身の参加状況・取組みを振り返り、実習に向け改善する点などをまとめる。	90
第4回 ／	<実習オリエンテーション>（2月初：実習開始前週） 1. 全体オリエンテーション 実習目的・目標、実習の進め方、記録の仕方、実習に臨む姿勢・態度、看護者としての倫理観などについて理解する。 ＊知識の整理、技術演習 （秋学期定期試験、臨時再試験、補習講義などを除く）実習までの期間を活用し、実習に向けて個々に主体的に計画し進めていく。	学内	＊事前学習として、必要な日常生活援助のについての学修（知識の整理）を自主的に進める。（予習） ＊技術についての学修　：動画活用	180
第5回 ／	<実習オリエンテーション>（2月初：実習開始前週） 2. 病院・病棟別オリエンテーション 病棟の特徴について、入院患者に多い疾患、実習の進め方、初日の行動などについて説明 ＊知識の整理、技術演習	学内実習	＊事前学習内容の追加、必要な日常生活援助のについての学修（知識の整理）を自主的に進める。（予習） ＊技術についての学修　：動画活用	180
第6回 ／	<臨地実習> 2週間の詳細は実習要項参照 1週目 初日 病院オリエンテーション 病院の概要、看護部の概要、院内見学 病棟オリエンテーション 受け持ち患者の紹介、情報収集、アセスメント 受け持ち患者の援助見学	臨地実習	＊日常生活援助各々の根拠、技術手順、観察点 対象の疾患についての学修など（予習） ＊翌日の行動計画 ＊実習した内容や考察を実習記録に記載する。（復習）	180
第7回 ／	2日目 援助の実施、評価、報告 ＊受け持ち患者の情報収集、アセスメント	臨地実習	＊実施した援助内容、患者の反応や考察を実習記録に記載する。 ＊上記について翌日の援助計画へ反映させ、計画 ＊情報のアセスメントを進める。	180
第8回 ／	3日目 臨地で得た情報を元に対象理解を図る ＊アセスメントの追加・修正、関連図の作成	学内実習	＊情報のアセスメント、関連図作成	180
第9回 ／	4日目 受け持ち患者の不足情報の収集 援助の実施、評価、報告 ＊患者のもつ問題について考える アセスメント、関連図の作成、看護診断	臨地実習	＊情報のアセスメント、関連図作成、看護診断	
第10回 ／	5日目 対象理解に必要な情報の収集 ＊対象の状況とアセスメントの一致を確認 ＊週末に取り組むべき課題の確認	学内実習	＊情報のアセスメント、関連図作成、看護診断 優先順位の検討 ※1週目は、対象の理解を進めることが中心	
第11回 ／	2週目 援助の実施、評価、報告 6日目 対象像および看護問題を発表する。 今後の看護提供に向けての方向性を明確にする。	臨地実習	＊関連図、看護診断、優先順位についての発表	
第12回 ／	7日目 問題解決に向けて看護計画を立案する。 計画に沿って援助を実施し、その成果について評価する。	臨地実習	＊看護診断に沿って看護計画を立案	
第13回 ／	8日目 計画に沿って援助を実施し、その成果について評価する。	臨地実習		
第14回 ／	9日目 看護計画に沿って援助を実施する。 またその成果について（臨地最終日）評価する。	臨地実習	＊最終日に向け、看護要約・看護過程の振り返り 自己の課題についてまとめる。	
第15回 ／	最終日（学内日） 記録の整理、教員からの指導をもとに追加・修正 の必要な点について確認する。 個人面接	学内実習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL12F059S	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	母性看護学概論 Introduction to Maternity Nursing		2単位	必 修	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	女性 女性のライフサイクルの各ライフステージに焦点を当て、女性の健康維持・増進、疾病予防・健康の回復を図るといった、女性の一生を通じた援助について理解し、健全な母性看護機能を遂行するための看護活動について判断できる力を養うことができる。							
	キーワード 母性看護 母子保健 人間の性と生殖 生命倫理 ライフサイクル	学修教育目標	1）母性看護の主な概念を説明できる。 2）母子保健の現状と動向について説明できる。その際、統計指標に現れない人工妊娠中絶の現状にも言及できる。 3）母子保健に関する法律・制度（施策）について概要が説明できる。 4）世界の母子保健の現状・国際化について説明できる。 5）人間の性と生殖についての概要が説明できる。 6）生命倫理について自己の考えを述べることができる。 7）女性のライフサイクル各期の健康課題と看護について説明できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
母性看護学概論では、リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の視点に立ち、母性看護の現状や動向さらに母性看護の役割りと機能について学んでいく。母性が尊重され保護されるためには、女性の生涯を通じての健康支援が看護として重要な役割を担う。女性の健康に関する状況をまず自分と自身の家族のこととして捉え、「いのちを育む環境」をまもるために必要な看護のあり方を学んで行ってほしい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「人間の心・人間関係論」「社会福祉・保障論」「公衆衛生学」「看護職のための関係法規」「生命・医療倫理学」「解剖・生理学」「疾病論」「遺伝学・免疫学」等を基盤に他看護学とも相互に関連している。また、母性看護学概論は母性看護援助論へと発展していく。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：系統看護学講座 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 著者名：森恵美ほか編 出版社：医学書院				講義の中で紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		母性看護の基盤となる理念が理解できる。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		母性看護の現況や活動のあり方を理解できる。					◎
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践		母性看護活動の場や継続的なケア提供の必要性について理解できる。					○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		母性看護が健康の維持増進、疾病の予防、健康の回復を図るための援助であることを理解できる。					○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		女性のライフサイクル各期の健康課題と看護について理解できる。					△
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	学修課題（予習・復習）にすすんで取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	わからないことを放置せず、講義内外に質問できる。					○
		③ 実行力	会話したことのないメンバーであっても、グループワークを活用し話しかけることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	レポート課題は、自らの成長の機会と捉え、あきらめずに考えることができる。					○
		② 計画力	学修課題（予習・復習）を計画的に取り組むことができる。					○
		③ 創造力	学んだ内容を自己と自身の家族のこととして捉えることができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自己の考えや疑問に対する回答を、口頭や文書で相手に伝えることができる。					○
		② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解することができる。					◎
		③ 柔軟性	他者の助言を素直に受け入れることができる。					○
		④ 状況把握力	自分の置かれた状況や役割りを理解して行動に結びつけることができる。					○
		⑤ 規律性	挨拶ができる。遅刻・忘れ物をしない。提出期限を守る等、学生マナーを守ることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力	課題をためて自らストレス状態を作らないようにすることができる。					◎
4. 倫理観		① 倫理性	生命倫理に関して、わからないなりにわかろうと努力して考えることができる。					△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20	20	10				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				5					5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10	10						20
	特定の健康課題に対応する実践能力		30	10		5				45
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10		10					20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				5					5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力					5				5
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
母性看護の基盤となる概念を充分理解している。 母性看護の現況や活動のあり方を充分理解している。 母性看護活動の場や継続的なケア提供の必要性について充分理解している。 母性看護が健康の維持増進、疾病の予防、健康の回復を図るための援助であることを充分理解している。 女性のライフサイクル各期の健康課題と看護について充分理解している。					母性看護の基盤となる概念を理解している。 母性看護の現況や活動のあり方を理解している。 母性看護活動の場や継続的なケア提供の必要性について理解している。 母性看護が健康の維持増進、疾病の予防、健康の回復を図るための援助であることを理解している。 女性のライフサイクル各期の健康課題と看護について理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	・母性看護学全体像と母性看護学概論および受講上の心構え Ⅰ. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性とは 一親になることと母性、母性の特性― 2. リプロダクティブヘルス/ライツ 3. ヘルスプロモーションと看護の実際	講義 面接授業	* WHO の「健康の定義」既習学習を質問するので準備をして臨むこと	10
第 2 回 ／	Ⅱ. 母性看護の対象理解 1 1. 女性のライフサイクルと生涯発達 2. 母性・父性・親性 3. 母性の発達・成熟・継承―ジェンダー／性同一性	講義 面接授業 DVD	* 看護理論家について既習学習を質問するのでどのような理論提唱者かを準備して臨むこと 1) オレム	10
第 3 回 ／	Ⅱ. 母性看護の対象理解 2 4. 母子関係と愛着、母子相互作用、父子相互作用 5. 母親役割獲得過程 6. 親になる過程および家族適応を促す看護技術	講義 面接授業	* 「母子相互作用」について 200 字程度に自分の言葉でまとめておく <キーワード>定義・意義、理論家名、出産後の母子早期接触の重要性など	30
第 4 回 ／	Ⅲ. 母子保健の現状動向 1. 母子保健統計の動向 ー出生・合計特殊出生率・死産死産率、妊産婦死亡率、周産期死亡率、乳児死亡率 2. 女性のリプロダクティブヘルスに関わる社会的要因	講義 面接授業	* e- Learning 復習：「母子保健統計の動向」確認テスト	10
第 5 回 ／	Ⅳ. 母子保健に関する法律・制度 1 1. 母性看護に関する法律：母子保健法・児童福祉法など 2. 勤労女性への法的保護：労働基準法・育児休業法など 3. 母子保健に関する施策 ー少子化対策など	講義 面接授業	* e- Learning 復習：「母子保健に関する法・制度 1」確認テスト	10
第 6 回 ／	Ⅳ. 母子保健に関する法律・制度 2 3. 母子保健に関する施策 ー子育て支援対策 4. 性暴力・児童虐待予防	講義 面接授業	* e- Learning 復習：「母子保健に関する法・制度 2」確認テスト	10
第 7 回 ／	Ⅴ. 世界における女性の権利と母子保健の動向 1. 開発途上国における女性の権利 2. 在日外国人の母子保健 3. 母子保健の国際化	講義 面接授業 動画		
	* 「世界における女性の権利」についてレポート課題			
第 8 回 ／	Ⅵ. 人間の性と生殖 1 1. 受胎のメカニズム(妊娠の成立)⇄受胎調節 2. ヒトの発生・性的分化のメカニズム 3. 性同一性障害と性分化疾患	講義 面接授業 DVD	* 「受胎・ヒトの発生・性分化のメカニズム」既習の解剖・生理学、遺伝学を想起しながら、母性テキスト p 110～121 を予習して講義に臨むこと	30
第 9 回 ／	Ⅵ. 人間の性と生殖 2 4. 性周期(月経周期) 5. 月経異常（無月経・月経困難症など）	講義 面接授業 DVD	* 「性周期(月経周期)」既習の解剖・生理学を想起しながら母性テキスト p 103～108 を熟読して講義に臨むこと	30
	* 「性周期」について小テストを実施			
第 10 回 ／	Ⅶ. 母性看護における倫理、医療安全・リスクマネジメント 1. 人間の性と生殖や医療における倫理 2. 自己決定権の尊重・プライバシーの保護 3. 母性看護における安全・事故予防	講義 面接授業		
	* 「生命倫理」に関するレポート課題			
第 11 回 ／	Ⅷ. 女性のライフステージ各期における看護 1 ー思春期・成熟期・更年期・老年期― * 第 11 回グループワーク （アクティブ・ラーニング） 第 12 回グループワーク （まとめ・資料作成） 第 13・14 回グループワーク発表会 （発表 15 分/G、質疑応答 5 分程度） <テーマ> 性感染症、不妊、家族計画、遺伝と出生前診断、DV、女性特有の癌とヘルスケア、更年期障害、老年期の性とトラブル	グループワーク 1 面接授業 （アクティブ・ラーニング）	* グループ毎にテーマにそった自己学習課題 * 自分の地域で発行されている“保健だより” 地域紙などから、相談窓口や健康教室など「女性の生涯を通じた健康支援」の実際を抜粋し、自己学習ノートに貼付しておく 注意）上記 2 つの自己学習提出期限：発表会 2 第 14 回講義終了時	30
	* グループワークへの参加態度を評価			
第 12 回 ／	Ⅷ. 女性のライフステージ各期における看護 2 ー思春期・成熟期・更年期・老年期― グループワーク （まとめ・資料作成）	グループワーク 2 面接授業 （アクティブ・ラーニング）	* グループ毎に発表に向けての資料の完成と発表原稿の準備等	30
	* グループワークの課題学習・参加態度を評価			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 13 回 ／	VIII. 女性のライフステージ各期における看護 3 —思春期・成熟期・更年期・老年期— グループワーク発表会 1	発表会 1 面接授業		15
	* グループワーク発表評価(自己評価・他者評価)			
第 14 回 ／	VIII. 女性のライフステージ各期における看護 3 —思春期・成熟期・更年期・老年期— グループワーク発表会 2	発表会 2 面接授業		15
	* グループワーク発表評価(自己評価・他者評価)			
	* 「看護師国家試験出題基準：母性看護学」と母性看護学概論講義プリントは、4 年次の「母性国師対策講義」時、必ず持参すること。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SNL13S060S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		母性看護学援助論 Maternity Nursing		2 単位	必 修	演 習	3 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的		母性看護学援助論では、母性看護学概論で学んだ母性看護学の基本的知識をもとに、妊娠、分娩、産褥および新生児期に焦点をあて、母子とその家族のウェルネス獲得に向けた援助方法を具体的に理解する能力を養う。									
キーワード		母性看護ケア 周産期看護：妊娠・分娩・産褥・新生児期 母性看護技術 母性看護過程 ウェルネス	学修教育目標	1）妊娠期の正常な経過と妊娠が母体に及ぼす影響、胎児の成長、さらに妊娠経過中の異常について説明できる。 2）妊婦の健康の保持・増進や異常を予防する（生活調整・マイナートラブルへの対処など）を説明できる。 3）妊娠期の母児の健康状態をアセスメントするために必要な諸検査（尿、血液検査、超音波検査、胎児心拍モニタリングなど）を説明できる。 4）分娩期の正常な経過と分娩が母児に与える心身の影響を説明できる。 5）分娩期の健康をアセスメントし、安全安楽を促進する援助方法を実践できる。 6）母児の愛着形成促進への援助方法について説明できる。 7）産褥期の母児の健康状態をアセスメントし、看護を提供するために必要な母体の正常な退行性変化・進行性変化とそれを促進する援助について説明できる。 8）新生児の生理的特徴と胎外生活適応への援助について、根拠付けて説明できる。 9）産後の母子事例を用い、ウェルネスの視点から看護過程を展開できる。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
母性看護学援助論では、母性看護学概論で学んだ広義の母性から、狭義の母性つまり周産期看護：母子の健康と看護を中心に学んでいく。「母性看護学援助論」は「母性看護学実践実習」へと直結しているので、実習をイメージしやすいよう講義・演習に工夫を加えている。各看護学援助論で実習準備等の課題が重なるが、空き時間を活用し集中して進めて行なって欲しい。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「母性看護学概論」「基礎看護学：アセスメント」「疾病論：母性領域」など、また母性看護技術の沐浴については「専門看護学基礎演習」と連携した内容である。											
教 科 書				参考書・リザーブブック							
書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 著者名：森恵美他編 出版社：医学書院 書 名：母性看護技術 著者名：石村由利子 編集 出版社：医学書院 書 名：ウェルネスからみた「母性看護過程」 著者名：佐世正勝 編集 出版社：医学書院				書 名：病気が見える 10 産科 著者名：医療情報科学研究所 出版社：メディックメディア 書 名：ナーシンググラフィカ 30 母性看護実践の基本 著者名：横尾京子他編 出版社：メディカ出版 書 名：母性看護学2 産褥・新生児 著者名：今津ひとみ 加藤尚美 出版社：医歯薬出版株式会社							
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			妊産褥婦および新生児の正常経過が理解できる。						◎	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			妊産褥婦および新生児とその家族を視野に入れた、母性看護の必要性を理解できる。						○	
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			対象のセルフケア能力・ライフスタイルの考慮や、母子の愛着形成促進への援助が理解できる。						○	
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			正常経過の看護アセスメントと、異常の早期発見・予防のための基礎知識が理解できる。						◎	
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			産後の母子事例を用い、ウェルネスの視点から看護過程を展開できる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	学修課題（予習・復習）や授業（講義・演習）にすすんで取り組むことができる								◎
		② 働きかけ力	わからないことを放置せず、講義内外に質問できる								◎
		③ 実行力	困ったことがあったら、必要時他者に援助を求めることができる（ノートコピー不可）								◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	課題は、自らの成長の機会と捉え、あきらめずに取り組むことができる								◎
		② 計画力	学修課題（予習・復習）を計画的に取り組むことができる								◎
		③ 創造力	実習をイメージしながら聴講できる								◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自己の考えや疑問に対する回答を、口頭や文書で相手に伝えることができる								◎
		② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解することができる								◎
		③ 柔軟性	他者の助言を素直に受け入れることができる								◎
		④ 状況把握力	自分の置かれた状況や役割りを理解して行動に結びつけることができる								◎
		⑤ 規律性	挨拶ができる。遅刻・忘れ物をしない。提出期限を守る等、学生マナーを守ることができる。								◎
		⑥ ストレスコントロール力	課題をためて自らストレス状態を作らないようにすることができる								◎
4. 倫理観		① 倫理性	羞恥心へ配慮した看護援助について考えることができる								◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		5	10	25		10	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		5							5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15						10	25
	特定の健康課題に対応する実践能力		25		5	10	20			60
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5							5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力						5			5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
妊産褥婦および新生児の正常経過が充分理解できている。 妊産褥婦および新生児とその家族を視野に入れた、母性看護の必要性を充分に理解できている。 対象のセルフケア能力・ライフスタイルの考慮や、母子の愛着形成促進への援助が具体的に理解できている。 正常経過の看護アセスメントができている。また、異常の早期発見・予防のための基礎知識が充分理解できている。 産後の母子事例を用い、ウェルネスの視点から看護過程を展開できている。					妊産褥婦および新生児の正常経過が理解できている。 妊産褥婦および新生児とその家族を視野に入れた、母性看護の必要性を理解できている。 対象のセルフケア能力・ライフスタイルの考慮や、母子の愛着形成促進への援助が理解できている。 正常経過の看護アセスメントと、異常の早期発見・予防のための基礎知識が理解できている。 産後の母子事例を用い、ウェルネスの視点から看護過程を展開しようとしている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	・母性看護学援助論の受講上の注意点と妊婦体験レポート(妊婦体験)について ・母性看護学実践実習：事前学習内容の配布 Ⅰ 妊娠期にある母子の理解と看護 1 1. 妊婦の心理的・社会的特性	講義 面接授業		
第 2 回 ／	Ⅰ 妊娠期にある母子の理解と看護 2 1. 妊婦の心理的・社会的特性 2. 妊婦と胎児のアセスメント	講義 面接授業	・実習用事前学習の開始：講義で配布された内容を各期単元終了後に提出できるよう計画的に進める ＜妊娠期：1・2＞	30
第 3 回 ／	Ⅰ 妊娠期にある母子の理解と看護 3 1. 妊婦の心理的・社会的特性 2. 妊婦と胎児のアセスメント	講義 面接授業		
第 4 回 ／	Ⅰ 妊娠期にある母子の理解と看護 4 2. 妊婦と胎児のアセスメント 3. 妊婦の看護に関わる技術 (レオボルド触診法)	講義 面接授業	・実習用事前学習：妊娠期3・4 分娩期3・4・5	30
第 5 回 ／	Ⅰ 妊娠期にある母子の理解と看護 5 3. 妊婦の看護に関わる技術 (NST・胎児モニタリング)	講義 面接授業		
第 6 回 ／	Ⅰ 妊娠期にある母子の理解と看護 6 1. 妊婦の心理的・社会的特性 2. 妊婦と胎児のアセスメント 3. 妊婦の看護に関わる技術	講義 面接授業	・実習用事前学習：妊娠期5・6	30
第 7 回 ／	Ⅱ 分娩期にある母子の理解と看護 1 1. 正常な分娩経過 *実習用事前学習 妊娠期提出	講義 面接授業		
第 8 回 ／	Ⅱ 分娩期にある母子の理解と看護 2 1. 正常な分娩経過 2. 産婦と家族の心理	講義 面接授業	・実習用事前学習：分娩期1・2	30
第 9 回 ／	Ⅱ 分娩期にある母子の理解と看護 3 1. 正常な分娩経過 2. 産婦と家族の心理 3. 分娩期の看護	講義 面接授業		
第 10 回 ／	Ⅱ 分娩期にある母子の理解と看護 4 1. 正常な分娩経過 2. 産婦と家族の心理 3. 分娩期の看護 (分娩監視装置・CTG 胎児モニタリング) 4. 産婦と胎児のリスク	講義 面接授業	・実習用事前学習：分娩期6・7・8	30
第 11 回 ／	Ⅱ 分娩期にある母子の理解と看護 5 1. 正常な分娩経過 2. 産婦と家族の心理 3. 分娩期の看護 (産痛緩和・補助動作) 4. 産婦と胎児のリスク	講義 面接授業		
第 12 回 ／	Ⅱ 分娩期にある母子の理解と看護 6 5. 正常な分娩経過アセスメント 6. 産婦と家族の心理アセスメント 7. 分娩期の標準看護計画の立案 (産婦と胎児のリスク予防と早期発見含)	講義 面接授業	・実習用事前学習：分娩期9・10・12 ・分娩期の標準看護計画のつづき	40
第 13 回 ／	Ⅲ. 新生児の理解と看護 1 1. 正常な早期新生児期の経過 2. 新生児の観察とアセスメント *実習用事前学習 分娩期提出	講義 面接授業		
第 14 回 ／	Ⅲ. 新生児の理解と看護 2 1. 正常な早期新生児期の経過 2. 新生児の観察とアセスメント	講義 面接授業	・実習用事前学習：新生児期1・2・3	30
第 15 回 ／	Ⅲ. 新生児の理解と看護 3 1. 正常な早期新生児期の経過 2. 新生児の観察とアセスメント 3. 新生児の日常生活へのケア 4. 新生児の看護に関わる技術 (バイタルサインの測定・フィジカルアセスメント)	講義 面接授業		

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	Ⅲ. 新生児の理解と看護 4 1. 正常な早期新生児期の経過 2. 新生児の観察とアセスメント 3. 新生児の日常生活へのケア 4. 新生児の看護に関わる技術 (バイタルサインの測定・フィジカルアセスメント)	講義 面接授業	・実習用事前学習：新生児期 4・5・6	30
第 17 回 ／	Ⅲ. 新生児の理解と看護 5 3. 新生児の日常生活へのケア 4. 新生児の看護に関わる技術	講義 面接授業		
第 18 回 ／	Ⅲ. 新生児の理解と看護 6 3. 新生児の日常生活へのケア 4. 新生児の看護に関わる技術	講義 面接授業	実習用事前学習：新生児期 7・8・10	30
第 19 回 ／	Ⅳ. 演習：沐浴 （専門看護学演習：母性へ連動） 新生児のバイタルサイン測定と全身の観察および衣類の着脱おむつ交換、抱き方・寝かせ方を含む。	演習 面接授業		
第 20 回 ／	Ⅳ. 演習：沐浴 （専門看護学演習：母性へ連動） 新生児のバイタルサイン測定と全身の観察および衣類の着脱おむつ交換、抱き方・寝かせ方を含む。	演習 面接授業	・実習用事前学習：新生児期 11・12	30
第 21 回 ／	V. 産褥期にある褥婦の理解と看護 1 1. 産期の身体的変化と適応 2. 産褥期のアセスメントとケア ①生殖器の復古とケア ②全身の回復状態とセルフケア	講義 面接授業		
	*実習用事前学習 新生児期提出			
第 22 回 ／	V. 産褥期にある褥婦の理解と看護 2 2. 産褥期のアセスメントとケア ①生殖器の復古とケア (子宮復古の観察) ②全身の回復状態とセルフケア ③進行性変化と母乳哺育確立への援助 (乳房の観察・授乳)	講義 面接授業	・実習用事前学習：産褥期 1・2・4・5	30
第 23 回 ／	V. 産褥期にある褥婦の理解と看護 3 2. 産褥期のアセスメントとケア ④母親役割行動と育児技術の獲得 ⑤母子・家族関係の確立とケア	講義 面接授業		
第 24 回 ／	V. 産褥期にある褥婦の理解と看護 4 2. 産褥期のアセスメントとケア ④母親役割行動と育児技術の獲得 ⑤母子・家族関係の確立とケア	講義 面接授業	・実習用事前学習：産褥期 6・7・8	30
第 25 回 ／	V. 産褥期にある褥婦の理解と看護 5 3. 褥婦の看護に関わる技術 4. 帝王切開後の褥婦の看護	講義 面接授業		
第 26 回 ／	V. 産褥期にある褥婦の理解と看護 6 3. 褥婦の看護に関わる技術 4. 帝王切開後の褥婦の看護	講義 面接授業	・実習用事前学習：産褥期 9	30
第 27 回 ／	Ⅵ. 看護過程の展開 1 1. 母子の事例の理解 2. 経過アセスメント（褥婦・新生児）	演習 面接授業 看護過程の展開	*看護過程の展開：経過アセスメントの続き	30
第 28 回 ／	Ⅵ. 看護過程の展開 2 2. 経過アセスメント（退行性変化・進行性変化） 3. 経過診断と日常生活診断	演習 面接授業 看護過程の展開	・実習用事前学習：産褥期 10・11	
	Ⅵ. 看護過程の展開 3 3. 経過診断と日常生活診断(看護診断) 4. 看護目標・看護計画立案(褥婦・新生児) *看護過程の展開提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL13F061S	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	母性看護学実践実習 Maternity Nursing practice		2単位	必 修	実 習	3年次	秋学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	妊産褥婦および新生児とその家族機能について理解し、健康の保持・増進、異常の早期発見などウェルネス思考で、対象の日常生活を視野入れた看護過程が展開できる。 対象者とその家族の健康課題解決に向けて、他職種と連携しながら育児支援を中心とした継続的な看護の役割を理解できる。							
	母性看護ケア実践 周産期看護・医療 母子保健システム 母性看護技術 母性看護過程の展開 ウェルネス セルフケア	学修教育目標	1）周産期にある対象の経過から、各期の特徴を述べることができる。 2）周産期を通して、母子関係確立への援助の重要性について述べることができる。 3）新生児の生理的特徴を理解し、母体外生活への適応を促すことができる。 4）妊婦、産婦、褥婦および新生児の異常の予防および早期発見の観察項目を述べることができる。 5）周産期における継続看護の意義と重要性を説明できる。 6）母子保健システム・周産期医療のネットワークを理解しチームの一員としての看護職の役割や課題を述べる ことができる。 7）対象をライフサイクルの中に位置づけ、一般性・特殊性・個別性を考慮した上で援助計画を立案できる。 8）セルフケア能力やライフスタイルを考慮し、対象を尊重した援助ができる。 9）自己の母性や親性について考えを述べることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
母性看護学実践実習要項を参照。 特に事前学習は、援助論の講義・演習の中でも実施してきたが、忘れていることも多いので再度熟読・イメージトレーニングしておくこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「母性看護学概論」「母性看護学援助論」で学んだことを実際に、対象の日常生活にあわせて実践していく。 「母性看護学実践実習」で学びを深めた点は、看護師国家試験対策（母性看護学領域）としても有効となる。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
母性看護学概論・母性看護学援助論で使用したテキスト				1．病が見える⑩ 産科 ：木村 正他 監修 メデックメディア発行 2．新観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ・Ⅱ：前原澄子編集 中央法規出版発行 3．女性のからだのケアガイド - 妊産褥婦の不安と疑問の解消にそのまま使えるQ＆A－：シャラン山内由紀他訳 メディカ出版発行 4．産後の保健指導マニュアル：本多 洋編集 メディカ出版発行 5．新生児の診察・ケアQ＆A （正期産編）：佐藤和夫編著 メディカ出版発行 6．母性看護実習クイックノート：池西静江監修 照林社発行				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		妊産褥婦および新生児の経過を通して、正常な経過理解を深めることができる。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		妊産褥婦および新生児とその家族を視野に入れた、対象理解のための情報収集ができる。					◎
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践		対象のセルフケア能力やライフスタイルを考慮した看護過程が展開できる。					○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		ウェルネスの視点で、受け持ち母子への援助計画を立案できる。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		母子相互作用や母親役割獲得過程がスムーズに進行できるよう、対象への看護ケアが実践できる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	事前学習を再確認して実習に臨み、実習中も進んで学習を深めることができる。					◎	
	② 働きかけ力	教員や指導者から助言を受けることができる。					◎	
	③ 実行力	対象のベッドサイドへ行き、関係性を築くことができる。					◎	
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	対象の健康上の問題を明らかにできる。					◎	
	② 計画力	明らかになった問題を解決すべく看護計画が立案できる。					◎	
	③ 創造力	対象の個性を活かした援助計画を取り入れることができる。					◎	
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	他者へ自分の計画や考えを伝えることができる。					◎	
	② 傾聴力	他者の意見や助言を最後まで聞くことができる。					◎	
	③ 柔軟性	他者のアドバイスを素直に受け止め、納得した上で自己の考えを修正できる。					◎	
	④ 状況把握力	他者の動きを察知しながら行動できる。					◎	
	⑤ 規律性	学生としてのマナーを守ることができる。（挨拶ができる、遅刻しない、忘れ物をしない）					◎	
	⑥ ストレスコントロール力	強いストレス状態を作らないよう人間関係の維持や、実習記録をためない。					◎	
4. 倫理観	① 倫理性	対象へのプライバシーに配慮したケアができる。					◎	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					10				90	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								5	5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力				5				30	35
	特定の健康課題に対応する実践能力				5				45	50
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								5	5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								5	5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
妊産褥婦および新生児の経過を通して、正常な経過理解を深めている。 妊産褥婦および新生児とその家族を視野に入れた、対象理解のための情報収集が意図的にできている。 対象のセルフケア能力やライフスタイルを考慮した、看護が展開できている。 ウェルネスの視点で、受け持ち母子への援助計画を立案できる。 母子相互作用や母親役割獲得過程がスムーズに進行できるよう、対象への看護ケアが実践できている。					妊産褥婦および新生児の経過を通して、正常な経過理解はできている。 妊産褥婦および新生児とその家族を視野に入れた、対象理解のための情報収集が受け持ち終了時までになできている。 標準（テキスト・資料の丸写し）的な看護過程を展開している。 ウェルネスの視点で、受け持ち母子への援助計画を考えている。 母子相互作用や母親役割獲得過程がスムーズに進行できるよう、対象への看護ケアを考えている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 2 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 3 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 4 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 5 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 6 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 7 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 8 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 9 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 10 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 11 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 12 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 13 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 14 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL12F062S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		小児看護学概論 Introduction to Child Health Nursing		2 単位	必 修	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	子どもをとりまくすべての環境は、人間形成に大きな影響を与える。子どもたちが健やかに成長し、将来、自らの力で自身の健康の保持・増進ができるよう支援することは、小児看護の重要な役割である。 本科目では、子ども観や小児看護の歴史的変遷、小児看護の機能と役割の理解を踏まえて、常に社会の情勢や家族機能の変化を把握し、小児各期における成長・発達の特徴、発達課題、子どもの健康を維持するための理論、小児保健の動向と対策、小児保健活動の実際や健康評価の方法を修得することを目的としている。									
	キーワード	子どもの権利の尊重、子どもの発達の理解と発達段階に応じた看護、家族への看護、医療の現状と小児看護の課題、子どもを守る法律と制度			学修教育目標	1) 小児看護の理念を理解し、家族とともに子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を習得する。 2) 子どもの成長発達理論を理解し、理論を活用し、子どもを理解する能力を修得する。 3) 子どもの成長・発達を支援する看護について理解する。 4) 子どもの健康問題、子どもを取り巻く社会・医療の現状をとらえ、小児看護の課題について理解する。 5) 子どもを守る法律と制度を理解する。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
小児期は、成長・発達が最も著しい時期であり、生涯に渡る人間形成の基礎を育む時期として重要である。しかし、近年子どもを取り巻く社会は、急激に変化している。育児に不安をもつ親や、子どもへの暴力、育児放棄など子どもへの虐待が、毎日のようにメディアで取沙汰されている。子どもの権利条約の批准と発効をはじめ、児童福祉法・母子保健法・予防接種法・児童虐待防止法などの法律が社会の変化に合わせて改正されはじめたのも、これらの現状を鑑みての結果であろう。また、教育現場では、いじめ、家庭内暴力、不登校、自殺が増加するなど、子どもに関する様々な問題が顕在化している。医療現場では、親のニーズに応えられない小児救急医療が大きな問題となっている。一方で、生殖医療や周産期医療の発展など小児医療の高度化に伴い、障がい児、慢性疾患児の増加により、在宅療養する子どもとその家族が、医療の一端を引き受けることを当たり前のようになってきている。これらのことから、子どもが健全な成長・発達を遂げることが、以前よりはるかに困難な状況になっている。このような社会の中で、子どもの基本的な人権を守り、子どもと家族の置かれている状況を的確に判断し、成長・発達、さまざまな健康レベルに応じた看護を、全人的に捉えることを学んでほしい。さらに、子どもの健康と家族の健康は、密接に相互に関連している。家族を子どもの重要な存在として位置づけ、家族全体を1つのシステムとしてアプローチすること、子どもと家族の相互作用を促進し、関係を築けるよう支えることが、看護の役割であることを学んでもらいたい。 小児看護学概論では、小児看護の歴史的変遷や概念、諸理論、子どもの権利の尊重、成長発達における知識の習得、小児の各発達段階（乳児期・幼児期・学童期・思春期）に応じた看護、社会・医療の現状と小児看護の課題、子どもを守る法律と制度を学習し、子どもと家族に対する援助を考えていく。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・専門分野である基礎看護学概論、看護理論、看護過程演習、フィジカルアセスメント、生活援助技術、臨床看護技術（看護とは何かといった本質的な理解と看護を実践していくときの考え方、そして実際の援助方法としての看護技術）、母性看護学概論、精神看護学概論の専門知識 ・看護の対象をかけがえのない一人の人として大切に関わっていける倫理観、生命観を培うために基盤となる看護倫理の知識 ・教育学、心理学、生物学、物理学、行動科学、情報科学、論理学、人間関係論といったような幅広い視野から多角的な視点で人間をとらえ、看護の土台となる人間と人間理解につなげる基礎分野の知識 ・解剖生理学、生化学、病理学、微生物学、薬理学、栄養学などの専門基礎分野の知識										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 著者名：奈良間美保他 出版社：医学書院				書 名：新体系看護学 30 小児看護学① 小児看護概論・小児保健 著者名：松尾宣武・濱中喜代 出版社：メヂカルフレンド社 書 名：小児看護学 1 小児と家族への系統的アプローチ 第2版 著者名：岡田洋子 他 出版社：医歯薬出版株式会社 書 名：ナーシング・グラフィカ 28 小児看護学 小児の発達と看護 著者名：中野綾美 出版社：MC メディカ出版 書 名：厚生指標 国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			・看護の対象となる子どもの尊厳と権利を擁護する能力を養う。 ・実施する看護について発達段階に応じて説明し同意を得る能力を養う。 ・子どもを含む家族を看護の対象として位置づけ家族に対して看護を提供するとともに家族と援助的関係を形成する能力を養う。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			・小児期の成長・発達の基本的な特性・小児各期の形態的・機能的・社会的側面のさまざまな特徴的発達を理解し、健康レベルを成長発達に応じて査定 (Assessment) するための知識を修得できる。 ・小児各期の発達段階における特徴について発達理論を用いて理解し、健康レベルを成長発達に応じて査定 (Assessment) するための知識を修得できる。 ・現代の家族の状況を見極め、子どもと家族の健康増進を図るための看護者の役割について理解し個人と家族の生活を査定 (Assessment) するための知識を修得できる。 ・小児期の成長・発達の基本的な特性・小児各期の形態的・機能的・社会的側面のさまざまな特徴的発達を理解し、子どもにとっての安全なケア環境について理解できる。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			・小児とその家族を取り巻く社会・環境を知り、社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力を養う。 ・地域ケアの構築と看護機能の充実を図るための小児の保健・医療・福祉の動向と制度について理解できる。 ・子どもの幸福と健全な育成を推進していくための保健医療福祉における協働と連携をするシステムを理解できる。						○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			・小児各期の形態的・機能的・社会的側面のさまざまな特徴的発達を理解し、子どもの健康レベルを成長発達に応じて査定 (Assessment) するための知識を修得できる。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			・小児とその家族を取り巻く社会・環境を知り、社会の動向を踏まえて健康の保持増進と疾病を予防する看護につながる知識を修得する。 ・小児各期の子どもの健康な生活の特徴を理解できる発達に応じた日常生活の世話と健康増進のための看護を理解し、子どもと家族に対し効果的な日常生活指導を考えられる。 ・子どもと家族に関する日本と世界の保健の動向を知る。						○

授業科目における社会人基礎力の育成目標			
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。	○
	③ 実行力	対象の個別状況に応じて目標や計画を変化させ、安全（事故・感染防止）、安楽、自立（対象の強み）に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。	△
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	対象の常在条件や病理的状態が基本的欲求に与える影響を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにし基本的な看護を考えることができる。	◎
	② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に応じた具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を研ぎ澄ませ、新たな看護介入方法を様々な文献を活用し検索し、懸命に探求し提案することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違い、価値観の違いを理解し受け入れ、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	△
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動をとることができる。	△
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を内省し自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	対象をかけがえのない一人の人として大切にに関わり、絶えずその対象の立場にたって、不利益や苦痛が生じないように、対象の尊厳や権利養護を遵守し患者の意思決定を支えることができる。自己批判を繰り返し葛藤しながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		評価方法							
		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンシート等)	合計
総合評価割合		59		21		20			100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	29		5		4			38
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	10		4		4			18
	特定の健康課題に対応する実践能力	10		4		4			18
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	10		4		4			18
	専門職者として研鑽し続ける基本能力			4		4			8
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
常に意欲的に学習内容に深い関心と興味をもち主体的に課題を追求し、子どもの権利の尊重、子どもの発達の理解と発達段階に応じた看護、家族への看護についての理解を深め知識を全般的に修得し、さらにこれらを踏まえ様々な健康レベルにある子どもへの看護実践を思考判断・技能とするために活用できる。 小児観を深められる。子どもと家族の特徴およびその環境をより広い視点から捉え、小児看護の果たすべき役割をのべられる。				学習内容に関心をもち、課題に取り組み、子どもの権利の尊重、子どもの発達の理解と発達段階に応じた看護、家族への看護についての理解しある程度、知識を修得できる。 小児観を見出し子どもと家族の特徴およびその環境から小児看護の果たすべき役割を考えられる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	小児看護の特徴と理念 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の役割	面接授業	※このシラバスをもとに講義は実施しますが、具体的には配布する細案を参照のこと	
第 2 回 ／	小児看護における子どもと家族 1) 子どもが育つ場としての家族 2) 家族理論・家族システム論・親子関係論 3) 小児看護における家族の意義	面接授業		
第 3 回 ／	小児看護の変遷 1) 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2) わが国の児童観・育児観の変遷 3) わが国の小児医療の変遷 4) 小児看護の変遷 5) 現代の小児看護	面接授業		
第 4 回 ／	小児看護の課題と倫理 1) 疾病構造の変化と小児看護 2) 社会の変化と小児看護 3) 小児看護の専門分化 4) 子どもの権利について 5) 医療現場で起こりやすい問題点と看護	面接授業		
第 5 回 ／	子どもの成長・発達（1）発達の基礎	面接授業	予習：成人期、老年期の発達課題を述べることができる。	15
第 6 回 ／	子どもの成長・発達（2）乳児期	面接授業		
第 7 回 ／	子どもの成長・発達（3）幼児期	面接授業		
第 8 回 ／	子どもの成長・発達（4）学童期・思春期	面接授業		
第 9 回 ／	子どもの栄養 1) 子どもにとっての栄養の意義 2) 食事摂取基準 3) 発達段階別の小児の栄養の特徴と看護	面接授業		
第 10 回 ／	子どもと遊びと学習 1) 子どもにとっての遊びの意義 2) 成長発達と遊びの関係 3) 子どもにとっての学習の意義	面接授業		
第 11 回 ／	子どもの健康と保健統計 1) 子どもと家族を取り巻く社会環境の変化と健康問題の特徴 2) 子どもと家族にまつわる保健統計	面接授業		
第 12 回 ／	子どもの健康と保健施策 1) 小児保健施策 ①児童福祉 ②母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 2) 小児保健に関する法律	面接授業		

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 13 回 ／	子どもの健康と保健施策 1) 小児保健施策 ① 児童福祉 ② 母子保健 ③ 医療費の支援 ④ 予防接種 2) 小児保健に関する法律	面接授業		
第 14 回 ／	小児と家族を取り巻く社会 1) 学校保健 2) 特別支援教育 3) 臓器移植法について	面接授業		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期		
SNL13S063S	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	小児看護学援助論 Pediatric Nursing Care		2単位	必 修	演 習	3年次	春学期		
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	生活環境の変化に伴い慢性疾患が増加し、また医療の進歩や高度化は、疾病の予防や不治の病からの救命と健康回復を導く一方、侵襲的な処置や治療環境によるストレスを強め、長期の治療を要する病とともに生きる子どもを増加させている。 本科目では、子どもに特有の健康問題を理解し、病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響を考え、家庭的・地域社会的背景をふまえた小児看護の実践方法について学修することを目的としている。									
	さまざまな状況下にある子どもと家族への看護 症状別の子どもと家族への看護 経過別にみた子どもと家族への看護 小児看護技術 小児看護過程展開	学修教育目標	1) 小児期に特有の健康問題や小児期の健康問題を理解することができる。 2) 病気や入院が小児と家族に及ぼす影響を考え、家庭的・地域社会的背景を踏まえた小児看護を実践する方法について理解することができる。 3) 症状を呈する子どもの病態生理を理解し、検査や治療と関連させ、援助方法を考えることができる。 4) ヘンダーソンの看護理論をもとにして、倫理的判断に基づいて看護計画を立案することができる。							
授業科目の概要及び学修上の助言										
小児看護学援助論では、小児看護学概論の講義内容を基盤とし、さまざまな健康障害が子どもと家族に与える影響について考察を深めるため、小児の症状別（発熱・発疹・痛み・嘔吐・下痢・脱水・浮腫・呼吸困難・けいれん等）の看護、外来における子どもと家族の看護、入院している子どもと家族の看護について学習し、子どもと家族に対する援助を導き出す。また子どもの経過別（急性期・慢性期・周手術期・終末期）、さまざまな環境（災害・先天性疾患と障がい・虐待等）における特徴と状況、それらに応じた看護について学習し、さまざまな健康障害が子どもと家族に与える影響について考察を深める。さらに、小児看護の実践に不可欠な基本的知識・技術・態度について教授する。小児看護技術については成人との違いを中心に演習をおこなう。1つの事例をもとに看護過程を展開する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・専門分野である基礎看護学看護学概論、看護理論、看護過程演習、フィジカルアセスメント、生活援助技術、臨床看護技術（看護とは何かといった本質的な理解と看護を実践していくときの考え方、そして実際の援助方法としての看護技術）、小児看護学概論の知識（シラバス参照） ・在宅看護論概論・援助論、母性看護学概論・援助論、精神看護学概論・援助論 ・看護の対象をかけがえのない一人の人として大切に関わっていける倫理観、生命観を培うために基盤となる看護倫理の知識 ・教育学、心理学、生物学、物理学、行動科学、情報科学、論理学、人間関係論といったような幅広い視野から多角的な視点で人間をとらえ、看護の土台となる人間と人間理解につなげる基礎分野の知識 ・解剖生理学、生化学、病理学、微生物学、薬理学、栄養学、疾病論など専門基礎分野の知識										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 著者名：奈良間美保 他 出版社：医学書院 書 名：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 著者名：奈良間美保 他 出版社：医学書院				書 名：新体系看護学 30 小児看護学① 小児看護概論・小児保健 著者名：松尾宣武・濱中喜代 出版社：メヂカルフレンド社 書 名：小児看護学 1 小児と家族への系統的アプローチ 第2版 著者名：岡田洋子 他 出版社：医歯薬出版株式会社 書 名：ナーシング・グラフィカ 28 小児看護学 小児の発達と看護 著者名：中野綾美 出版社：MC メディカ出版 書 名：根拠と事故防止から見た小児看護技術 著者名：浅野みどり 出版社：医学書院 書 名：発達段階からみた小児看護過程 著者名：石黒彩子 出版社：医学書院						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		・看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護するための小児看護における倫理について考える。 ・各発達段階にある子どもの病気の理解を発達理論から考え、説明し同意を得る能力を養う。						◎	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		・生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力を養う。 ・看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力を養う。						△	
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		・急激な健康破綻と回復過程にある（消化吸収機能障害・呼吸機能障害・神経学的疾患）子どもと家族への援助が説明できる。 ・慢性的疾患（腎機能障害・内分泌疾患のある）の子どもと家族の看護が理解できる。 ・子どものケアに必要な技術を修得できる。 ・周手術期にある子どもと家族の看護について説明できる。 ・終末期にある子どもと家族の看護について説明できる。 ・社会の動向を踏まえて小児の虐待の現状を理解し求められる看護の役割を説明できる。 ・在宅療養を受ける子どもと家族の看護について説明できる。 ・障害を持つ子どもと家族の看護について説明できる。 ・保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力を備えることができる。 ・保健医療福祉における協働と連携をする能力を備えることができる。 ・安全なケア環境を提供する能力を備えることができる。 ・災害における子どもと家族の看護について説明できる。						◎	
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		・子どもの発達特性を踏まえて症状に合わせた看護が説明できる。 ・根拠に基づいた看護を提供する能力を備えることができる。 ・健康レベルを成長発達に応じて査定 (Assessment) する能力を備えることができる。 ・個人と家族の生活を査定 (Assessment) する能力を備えることができる。 ・地域の特性と健康課題を査定 (Assessment) する能力を備えることができる。 ・看護援助技術を適切に実施する能力を備えることができる。						○	
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		・慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する子どもと家族を援助する能力を備えることができる。						○	

授業科目における社会人基礎力の育成目標			
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。	◎
	③ 実行力	対象の個別状況に応じて目標や計画を変化させ、安全（事故・感染防止）、安楽、自立（対象の強み）に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる	◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	対象の常在条件や病理的状態が基本的欲求に与える影響を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにし基本的な看護を考えることができる。	◎
	② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に応じた具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を研ぎ澄ませ、新たな看護介入方法を様々な文献を活用し検索し、懸命に探求し提案することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の発言を促す質問をして、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違い、価値観の違いを理解し受け入れ、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	◎
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動をとることができる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を内省し自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	対象をかけがえのない一人の人として大切にに関わり、絶えずその対象の立場にたって、不利益や苦痛が生じないように、対象の尊厳や権利養護を遵守し患者の意思決定を支えることができる。自己批判を繰り返し葛藤しながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59		21	20				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		20		5	4				29
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10		4	4				18
	特定の健康課題に対応する実践能力		15		4	4				23
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10		4	4				18
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		4		4	4				12
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
常に意欲的に学習内容に深い関心と興味をもち主体的に課題を追求し、経過・疾患・症状別に、小児期特有の健康問題、小児期の健康問題を全般的に理解することができる。 病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響を考え、家庭・地域社会的背景を踏まえた小児看護の援助方法について、理解することができる。 看護理論を基に、倫理的判断に基づいて情報を収集・分析・統合し問題点を抽出し、看護計画を、個別性を考慮し、立案することができる。これらを看護学実践実習で思考判断・技能とするために活用できる。					学習内容に関心をもち、与えられた課題に取組み、経過・疾患・症状別に、小児期に特有の健康問題について、理解することができる。 病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響を考え、家庭・地域社会的背景を踏まえ、小児看護の援助方法について、理解することができる。 看護理論を基に、倫理的判断に基づき、情報収集と分析・統合をし、問題点を抽出し、看護計画を立案することができる。これらを看護学実践実習で思考判断・技能とするためにある程度活用できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	入院する子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 3) 小児看護の役割と倫理的課題	面接授業	※このシラバスをもとに講義は実施するが、具体的には初回配布時の細案を参照のこと	
第 2 回 ／	健康障害をもち入院する子どもと家族の看護 1) 健康問題をもつ子どもと家族の特徴 2) 健康障害に影響を及ぼす要因 3) 健康問題をもつ子どもと家族の看護	面接授業		
第 3 回 ／	子どもとのコミュニケーション 1) 子どもとのコミュニケーションとは 2) 子どもとのコミュニケーションの具体的方法	面接授業		
第 4 回 ／	外来における子どもと家族の看護 1) 外来を受診する子どもと家族 2) 小児外来における看護の役割	面接授業		
第 5 回 ／	1. 小児看護に特有な看護理論 2. 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期における子どもの特徴 2) 急性期における子どもと家族の反応	面接授業		
第 6 回 ／	子どもによくみられる症状と援助① 1) 嘔吐 2) 下痢 3) 脱水 4) 浮腫	面接授業		
第 7 回 ／	子どもによくみられる症状と援助② 1) 発熱 2) 発疹 3) 痙攣 4) 意識障害	面接授業		
第 8 回 ／	子どもによくみられる症状と援助③ 1) 呼吸困難	面接授業		
第 9 回 ／	小児看護における看護過程① 情報収集	面接授業	復習：フェイスシートの作成	60
第 10 回 ／	小児看護における看護過程② アセスメント	面接授業	復習：アセスメントシートの作成	60
第 11 回 ／	小児看護における看護過程③ 関連図作成と看護問題抽出	面接授業	予習：指定された疾患の病態関連図作成 復習：関連図の作成	60 60
第 12 回 ／	小児看護における看護過程④ 看護計画立案	面接授業	復習：看護計画の立案	60
第 13 回 ／	子どものフィジカル・アセスメントの特徴と方法	面接授業	予習：ワークブックの作成	60
第 14 回 ／	子どものフィジカル・アセスメント	面接授業		
第 15 回 ／	子どもによくみられる症状と援助④ 1) 子どもの苦痛の理解と援助	面接授業		

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 1) 発達各期の子どもや家族の苦痛の理解の仕方 2) 発達各期の子どもや家族の検査・処置の受けとめ方と思い	面接授業		
第 17 回 ／	手術を受ける子どもと家族の看護 1) 手術を受ける子どもの身体状況、子どもと家族の心理的反応 2) 手術を受ける子どもと家族の看護	面接授業		
第 18 回 ／	慢性期にある子どもと家族の看護 1) 慢性疾患をもつ子どもと家族の生活の変化 2) 慢性疾患を持つ子どもと家族の看護	面接授業		
第 19 回 ／	活動制限を受ける子どもと家族の看護 1) 活動制限を受けている子どもと家族の状況 2) 活動制限を受けている子どもと家族の看護	面接授業		
第 20 回 ／	障がいのある子どもと家族の看護 1) 子どもに起こりやすい障がいの種類と特徴 2) 障がいをもつ子どもと家族の看護	面接授業		
第 21 回 ／	終末期における子どもと家族の看護 1) 死に対する子どもの反応 2) 終末期における子どものおもな症状 3) 終末期にある子どもと家族の看護	面接授業		
第 22 回 ／	事故・救急状態にある子どもと家族の看護	面接授業		
第 23 回 ／	子どもの虐待と看護 1) 虐待の種類と具体的内容 2) 子どもの虐待の対策と現状 3) 虐待を受ける子どもに対する看護師の役割	面接授業		
第 24 回 ／	災害を受けた子どもと家族への看護 1) 災害各期の子どもの特徴 2) 災害を受けた子どもの心と身体 3) 災害時の子どもと家族への看護	面接授業		
第 25 回 ／	子どもの日常生活援助 点滴をした子どもの移送・移乗	面接授業	予習：移送・移乗の手順を調べておく	60
第 26 回 ／	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 1) 採血の固定と検査後の子どもへの関わり 2) 腰椎穿刺の固定と検査後の観察方法	面接授業	予習：採血固定・腰椎穿刺の手順と注意点を調べておく	60
第 27 回 ／	成果発表(看護過程)	面接授業	予習：発表準備	60
第 28 回 ／	成果発表(退院指導)	面接授業	予習：発表準備	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL13F064S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		小児看護学実践実習 Child Nursing Practice		2 単位	必 修	実 習	3 年次	秋学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	小児看護学概論、小児看護学援助論で学んだ知識・技術を基礎として、本科目では、健康な乳幼児に対しては適切な発達援助をおこなうために、小児の主体的な遊びや生活の様子を観察し、発達段階を評価し、安全な環境と生活援助、コミュニケーションの方法を学ぶ。 健康障害をもつ小児においては、患児の日常生活援助を中心に、発達段階・健康レベルにそった援助やかかわりを実践し、あらゆる健康レベルにある子ども及びその家族に対して、個別的な看護実践を展開する基礎的能力を習得する。									
	キーワード	子どもの人権・価値観を尊重した関わり 子どもにとっての最善の利益を考えたケア 子どもの特性と発達課題 子どもの自己決定を支える看護 成長発達の段階における自立(セルフケア)を伸ばすかかわり 家族を含めたかかわり	学修教育目標	健康な乳幼児に対しては適切な発達援助をおこなうために、小児の主体的な遊びや生活の様子を観察し、発達段階を評価し、安全な環境と生活援助、コミュニケーションを実践することができる。 健康障害をもつ小児においては、患児の日常生活援助を中心に、発達段階・健康レベルにそった援助やかかわりを実践し、あらゆる健康レベルにある子ども及びその家族に対して、基礎的な看護実践をすることができる。 様々な健康状態にある子どもを身体的、心理的、社会的、成長発達の側面から統合的に理解することができる。 健康障害を有する子どもの病気体験を理解し、看護過程を展開することができる。 子どもの権利を尊重し、子どもの日常性を取り入れながら、看護実践することができる。 小児看護の役割や課題を述べることができる。 小児看護を展開していく上で、他職種との協働関係形成の重要性を理解することができる。 小児看護を取り巻く看護倫理の現状を知り、看護者として必要な倫理的責務について検討することができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
小児看護学実践実習は、病棟、幼稚園で行います。幼稚園実習を通し、一般的な子どもの成長発達について理解し、発達段階の特徴に応じた支援の方法について学びます。さらに、病棟実習では、健康問題を抱えている小児とその家族に対し、必要な基礎的知識・技術・態度を修得する機会とする。病気や入院が小児とその家族に与える影響を考え、小児の権利を守りながら、より良い援助の方向性を導き、病気や入院している小児であっても成長発達や基本的生活習慣の状況を捉え、維持・促進への援助ができるようにします。最終的には、子どもが置かれている社会的背景を考察し、小児と家族が抱えている健康問題を捉え、子どもと関わる人々との協働により、個別性に応じた看護を実践できることを目指します。臨地 実習 は、これまで学んだ知識と技術を統合させる場です。乳児期から思春期まで、幅広い年齢の発達段階を捉え、ヘンダーソンの理論をもとに身体・心理・社会の側面から対象を理解し、子どもを支える家族と共に、それぞれの子どもに適した援助を行います。子どもの人権・価値観を尊重し、自己決定を支え子どもにとっての最善の利益を考えたケアを追求してください。また子どもを育む家族を看護の対象に位置づけ、家族とパートナーシップを形成し、子どもの発達を支援し子どもへの最善のケアを提供できるように家族とともに取り組んでください。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・基礎看護学分野として看護学概論・看護理論・看護過程演習・フィジカルアセスメント・生活援助技術・臨床看護技術（看護とは何かといった本質的な理解と看護を実践していくときの考え方、そして実際の援助方法としての看護技術） 看護の対象をかけがえのない一人の人として大切に関わっていける倫理観、生命観を培うために基盤となる看護倫理の知識 ・教育学、心理学、生物学、物理学、行動科学、情報科学、論理学、人間関係論といったような幅広い視野から多角的な視点で人間をとらえ、看護の土台となる人間と人間理解につなげる基礎分野の知識 ・解剖生理学、生化学、病理学、微生物学、薬理学、栄養学などの専門基礎分野の知識 ・小児看護学概論・援助論の知識（シラバス参照）										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
小児看護学援助論で使用したテキスト 小児看護学概論で活用したテキスト					別途、実習要項を参照のこと。					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			子どもの権利を尊重し、子どもの日常性を取り入れながら、看護実践することができる。小児看護を取り巻く看護倫理の現状を知り、看護者として必要な倫理的責務について検討することができる。						
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			健康障害をもつ小児においては、患児の日常生活援助を中心に、発達段階・健康レベルにそった援助やかかわりを実践し、あらゆる健康レベルにある子ども及びその家族に対して、基礎的な看護実践をすることができる。						
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			様々な健康状態にある子どもを身体的、心理的、社会的、成長発達の側面から統合的に理解することができる。健康障害をもつ小児においては、患児の日常生活援助を中心に、発達段階・健康レベルにそった援助やかかわりを実践し、あらゆる健康レベルにある子ども及びその家族に対して、基礎的な看護実践をすることができる。						
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			健康障害を有する子どもの病気体験を理解し、看護過程を展開することができる。						
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			小児看護の役割や課題を述べることができる。 小児看護を展開していく上で、他職種との協働関係形成の重要性を理解することができる。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。							
		② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。							
		③ 実行力	対象の個別状況に応じて目標や計画を変化させ、安全（事故・感染防止）、安楽、自立（対象の強み）に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。							
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	対象の常在条件や病理的状態が基本的欲求に与える影響を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにし基本的な看護を考えることができる。							
		② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に応じた具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。							
		③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を研ぎ澄ませ、新たな看護介入方法を様々な文献を活用し検索し、懸命に探求し提案することができる。							

3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の発言を促す質問をして、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違い、価値観の違いを理解し受け入れ、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	◎
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動をとることができる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を内省し自ら突き止めて取り除いて、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	対象をかけがえのない一人の人として大切に関わり、絶えずその対象の立場にたって、不利益や苦痛が生じないように、対象の尊厳や権利養護を遵守し患者の意思決定を支えることができる。自己批判を繰り返し葛藤しながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合						10			90	100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力					10			90	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習目標到達が実習評価 S ランク					実習目標到達が A～B ランク					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	別途、実習要項を参照のこと		※実習要項参照	
第 2 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 3 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 4 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 5 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 6 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 7 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 8 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 9 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 10 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 11 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 12 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 13 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 14 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL12S065S	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	成人看護学概論 An Introduction to Middle Age Nursing		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	成人看護学の対象は、ライフサイクルの中で身体的・精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割と責任を背負っている。複雑多様化した現代社会において、疾病構造の変化、保健医療政策の変革、価値観や健康観の捉え方、倫理的配慮など急速に進んでいる。このような成人の生活や健康に関する基本的知識を基盤として、成人看護学の対象を知るためには生涯発達レベルであることを理解し社会的や家族の中核を担う生活者を的確に判断できるようになる。							
	キーワード	成人期、生活と健康、社会・家族の中核、役割、責任、発達課題、健康維持・増進	学修教育目標	成人の多様な健康状態と健康の維持・回復に対応した看護実践を展開するために、看護アプローチの基本となる援助方法論や健康レベルに応じた看護の役割や方法が理解できるようになる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
成人期は社会の中核を担っており約 50 年にわたるライフサイクルを理解する。身近な大人と接することで具体的に理解する。 自然環境、人的環境によって影響を受けやすい障害について理解する。 健康維持増進するための基本的な方法や社会の仕組みを知る。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
人間関係論、家族看護論、環境学、社会福祉、予防医学								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：成人看護学概論 著者名：小松浩子 他 出版社：医学書院 書 名：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 著者名：鈴木志津枝 他 出版社：ヌーベルヒロカワ				書 名：国民衛生の動向 著者名： 出版社： 書 名：成人看護学概論 第2 版 著者名： 出版社：NOUVELLEHIROKAWA 書 名：成人看護学概論 著者名： 出版社：メディカ出版				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		個人・家族の発達課題、役割・責任を理解することができる。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		あらゆる年代の起こりやすい障害を理解し予防する知識を持つことができる。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		多様な場での影響受けやすい障害について予防的なケアを考えることができる。 成人期における地域での健康活動について考えることができる。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		健康から疾患の成り行きを理解しそれに応じた看護実践を考えることができる。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		個人・集団での健康増進について理解することができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	自ら発言することができる。						◎
	② 働きかけ力	メンバーへの働きかけをすることができる。						○
	③ 実行力	自主的に動くことができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	学習内容と実際大人との関わりを通して問題がわかる。						◎
	② 計画力	意識をしておかかわろうとする。						△
	③ 創造力	健康増進など考えられることが何なのか、自分でやってみる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	他者への理解を促がせるようわかりやすい言葉でいうことができる。						◎
	② 傾聴力	他者の話を聞き傾聴することが事ができる。						◎
	③ 柔軟性	自分の考えに固守することなく人の意見がきける。						○
	④ 状況把握力	文献検索、人の話を聞き必要な情報をあつめることができる。						○
	⑤ 規律性	指示された提出物や期限など守ることができる。						○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスコーピングを持ち自分で行う。						△
4. 倫理観	① 倫理性	人の嫌がることはせず、積極的に人のために役立つことをする。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	20	20	5			5	100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		6	4					5	15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		14	4	10	3				31
	特定の健康課題に対応する実践能力		14	4	10	2				30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		8	4						12
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		8	4						12
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学科教育目標が8割以上達成できることができる。成人援助論Ⅰ・Ⅱに結び付けられるようになる。					学科目標が6割から7割達成することができる。成人援助論Ⅰ・Ⅱに結び付けられるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	成人看護学の構造と構成 ライフサイクルにおける成人期 成人をとりまく生活と社会 成人期の発達と健康	対面授業 成人期とはグループディスカッション	①予習 大人について考えてくる ②復習 学んだことの相違を確認する	30
	グループディスカッション 発表			
第 2 回 ／	(1) 青年期 成人各期の特徴と健康問題	対面授業 青年期の特徴と健康問題についてグループディスカッションを行い発表する。	①予習 青年期について特徴を知る ②復習 学んだことの相違を確認する	30
	グループディスカッション 発表 レポート			
第 3 回 ／	(2) 壮年期・中年期 成人各期の特徴と健康問題	対面授業 壮年期・中年期の特徴と健康問題についてグループディスカッションを行い発表する。	①予習 壮年期・中年期について特徴を知る ②復習 学んだことの相違を確認する	30
	グループディスカッション 発表 レポート			
第 4 回 ／	(3) 向老期 成人各期の特徴と健康問題	対面授業 向老期の特徴と健康問題についてグループディスカッションを行い発表する。	①予習 向老期について特徴を知る ②復習 学んだことの相違を確認する	30
	グループディスカッション 発表 レポート			
第 5 回 ／	成人保健の動向と課題 現在社会の成人期の人々が置かれている現状(働いて生活を営む)	対面授業 現在社会におかれている成人期の人々の現状についてグループディスカッションを行い発表	①予習 保健・医療・福祉の動向、保健政策 ②復習 保険・医療の動向を確認する	30
	小テスト グループディスカッション 発表			
第 6 回 ／	成人への看護のアプローチと基本 (大人の健康行動と学習)	対面授業 グループディスカッション	①予習 大人の学習の特徴 ②復習 健康援助活動について確認する	30
	グループディスカッション 発表			
第 7 回 ／	健康問題と疾病予防活動 生活ストレスと健康問題 疾病予防と早期発見	対面授業 ストレスについてグループディスカッション	①予習 ストレスの発散方法を知る ②復習 ストレスが引き起こす疾患について確認する	30
	グループディスカッション 発表			
第 8 回 ／	ヘルス・プロモーション 健康活動に用いられる政策	対面授業 事例、ロールプレイ、グループディスカッション	①予習 ヘルスプロモーションとは何か ②復習 現在の動向について確認する	30
	グループディスカッション 発表			
第 9 回 ／	急性期・回復期看護論 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 回復期の看護	対面授業 事例、ロールプレイ、グループディスカッション	①予習 急性期とは ②復習 急性期の特徴について確認する	30
	グループディスカッション 発表			
第 10 回 ／	慢性期・リハビリ期看護論 慢性病と共存を支える看護 各定義と必要な看護	対面授業 事例 ロールプレイ、グループディスカッション	①予習 慢性期とは ②復習 慢性期の特徴について確認する	30
	グループディスカッション 発表			
第 11 回 ／	がん看護論Ⅰ ターミナルケアとは 人生の最期の時を支える看護 ターミナルケアとは 緩和ケアとは	対面授業 事例 グループディスカッション	①予習 がん看護について ②復習 がん看護の特徴について確認する ③予習 緩和ケアについて ④復習 チーム医療について確認する	30
	小テスト グループディスカッション 発表			
第 12 回 ／	がん看護論Ⅱ ターミナル期にある人の心理・社会・霊的特徴	対面授業 事例 グループディスカッション	①予習 心理・社会・霊的特徴とは ②復習 心理・社会・霊的特徴について確認する	30
	グループディスカッション 発表 レポート			
第 13 回 ／	ターミナル期にある人の家族 チームアプローチ	対面授業 事例 グループディスカッション	①予習 家族役割の変化について ②復習 家族へのアプローチについて確認する	30
	グループディスカッション 発表			
第 14 回 ／	死をめぐる倫理的課題 がん患者の倫理的側面の特徴	対面授業 事例 グループディスカッション	①予習 倫理の特徴について ②復習 がん患者の倫理的問題について確認する	30
	グループディスカッション 発表			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL13S066S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		成人看護学援助論Ⅰ Adult NursingⅠ		2単位	必 修	演 習	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	急激な健康破綻をきたした健康状態にある患者の身体面、精神面、社会面に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に必要な看護技術を修得することができる。主に、周手術期にある患者および家族への看護について焦点をあてた。周手術期の看護（総論）および各疾患・手術に特徴的なアセスメント・看護について、また事例を通して看護過程を展開する能力を養うことができる。									
	急性期 周手術期 術後合併症・予防 早期離床 患者教育 早期社会復帰 家族支援 心理的サポート			学修教育目標	1．周手術期における対象の生体反応を理解することができる。 2．周手術期における合併症と看護について理解することができる。 3．各疾患の術後経過と看護について理解することができる。 4．周手術期にある成人の特徴を理解し、事例展開ができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
成人期の患者が手術を受けることによって、急に社会生活を中断した患者の心理や手術による侵襲からの合併症を考え、早期の合併症予防を行う看護を学ぶ。周手術期の合併症を考える時に、観察に必要性、検査データ、情報からのアセスメント方法も学ぶ。 早期社会復帰を考えて、早期離床の重要性についても学ぶ。 全てにおいてアセスメント力は必要であり、基礎知識が重要となるため、既学した基礎知識の復習を行っておく。 学生参加型授業であり間違っても良いので、自主的に発言する努力も必要となってくる。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
情報リテラシー、倫理学、解剖生理学、病理学、生化学、栄養学、社会福祉・保障論、薬理学、人間関係論、心理学、疾病論、基礎看護学、看護過程論										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
書 名：系統看護学講座 成人看護学 専門分野Ⅱ [1]成人看護学総論、[2]呼吸器、[5]消化器、[7]脳・神経、 [8]腎・泌尿器、[9]女性生殖器、[10]運動器、 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論、臨床外科各論、リハビリテーション看護、 看護診断ハンドブック 第11版 著者名：リンダ J. カルペニート＝モイエ 出版社：医学書院					講義時に提示する。					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			患者の社会背景を理解し、患者、家族の理解を深めて個別性の看護を考える事が出来る。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			成人期である患者の年代を中心に考えて、その前後の発達段階を理解して、患者理解が出来る。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			急な入院生活を強いられる患者心理や、手術後の精神的・肉体的変化に対応できるケアの提供を考える事が出来る。 退院を見据えた地域連携や療養の場の移行支援について考えることができる。						◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			急性期の疾患の知識を深めて疾患別に手術後に起こり得る状況に対応する看護を考える事が出来る。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			急性期患者の情報から周手術期の合併症を予測し、合併症予防を行い早期回復が出来る看護を考える。 早期社会復帰が円滑に行える看護を考える事が出来る。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			主体的に発言が出来る。					◎
		② 働きかけ力			他の学生への声掛けし、みんなで授業参加が出来るように促すことが出来る。					◎
		③ 実行力			理解出来ない時もそのままにせず解決する行動が出来る。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			看護過程や授業中の事例患者の問題点が考える事が出来る。					◎
		② 計画力			看護過程や授業中の事例患者の問題解決の計画を考える事が出来る。					◎
		③ 創造力			看護過程や授業中の事例患者の新たな看護や自分自身で行いたいと思う看護を考える事が出来る。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			リーダーシップやメンバーシップとして意見をわかりやすく伝えることが出来る。					◎
		② 傾聴力			他者の意見を素直に聞くことが出来る。					◎
		③ 柔軟性			他者の意見や行動に対して、何故かを考えて、お互いに話し合えることが出来る。					◎
		④ 状況把握力			グループ間の雰囲気を理解して何が良くて修正しなければいけない所を考える事が出来る。					◎
		⑤ 規律性			教員やグループ間での約束事や期日を守ることが出来る。					◎
		⑥ ストレスコントロール力			自分のストレスに対して話すことができ、自分自身もストレスコーピングが出来る。					◎
4. 倫理観		① 倫理性			患者や友人や学校での道徳的行動が出来る。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20	5	5	0	10	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				5					5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		25		5				5	35
	特定の健康課題に対応する実践能力		25		5				5	35
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力			10	5	5	5			25
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
- 急性期の疾患の病態生理を修得し他者へも説明できるレベルに達する。 - 患者アセスメントを行い術後合併症の内容を修得し予防 早期離床の必要性を十分考えた看護を考えることが出来る。 - 退院指導についても疾患を理解して個別性を踏まえて、社会生活が円滑に行える内容のパンフレット作りができる。 - 看護師として、侵襲を受ける患者を理解して感性豊かな看護を考える事が出来る。					- 急性期の疾患の病態生理を修得することが出来る。 - 患者アセスメントを行い術後合併症の内容がわかり予防 早期離床の必要性を考えた看護を考えることが出来る。 - 退院指導についても疾患を理解して、社会生活を考えたパンフレット作りが出来る。 - 看護師として、侵襲を受ける患者を理解して感性を生かした看護を考える事が出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	周手術期の看護に必要な概念	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書周手術期看護・手術侵襲と生体反応・麻酔の影響などを熟読しておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
第 2 回 ／	手術侵襲と生体反応・麻酔の影響	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 3 回 ／	手術前の患者の看護① 術前アセスメント・検査からの予測 看護過程の概要の説明	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書の手術前看護を熟読しておく。 （わからない漢字や言葉や意味は調べる） ・看護過程について調べておく	60
	小テスト			
第 4 回 ／	手術前の患者の看護② 術前のオリエンテーション、術前処置・訓練	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。 ・事例に沿って患者の術前の情報をもとに調べてアセスメント記載する。	60
第 5 回 ／	手術中の患者の看護 手術当日、手術室入室・手術中の合併症	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書の手術中術直後看護を熟読しておく。 （わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
	小テスト			
第 6 回 ／	手術直後の看護① 手術直後の環境準備・観察・アセスメント	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。 ・事例に沿って患者の術中術直後の情報をもとに調べてアセスメント記載する。	60
第 7 回 ／	手術後の看護② 手術後の合併症予防の再検討	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書の手術後の看護術後合併症を熟読しておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
	小テスト			
第 8 回 ／	手術後の看護③ 術後 1 日目から退院 離床の促進 日常生活援助 心理的援助 地域連携や継続看護	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。 ・事例に沿って患者の術後の情報をもとに調べてアセスメント記載する。	60
	コメントシート①			
第 9 回 ／	演習 術後の看護援助[1] 術後ベッド作成 術後観察	アクティブ・ラーニング 演習・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・演習内容を教科書やなどで調べ、ノートにまとめておく、配布資料を熟読しておく。演習の重要ポイントが言えるようにしておく。	60
	実技・成果発表・課題レポート			
第 10 回 ／	演習 術後の看護援助[1] 術後ベッド作成 術後観察	アクティブ・ラーニング 演習・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・演習内容や担当教員からの指導内容をノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。 ・看護過程の術後のアセスメントに気づいたことを追加記載する。	60
	実技・成果発表・課題レポート			
第 11 回 ／	大腸がんで大腸切除術を受ける患者の看護 直腸がん：ストーマ造設術	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書の大腸・直腸がんでストーマ造設術を受ける患者の看護を熟読しておく （わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
	小テスト			
第 12 回 ／	直腸がん：ストーマ造設術患者の看護について 観察点・ケアを考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義・グループワークの大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。 ・事例検討で時間内に記入できていない箇所があれば記載しておく。看護過程にも追加する。	60
	成果発表・コメントシート②			
第 13 回 ／	胃がんで開腹術・腹腔鏡術で胃切除術を受ける患者の看護 胃がん：開腹術・腹腔鏡術	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書の胃がんで開腹術・腹腔鏡術で胃切除術を受ける患者の看護を熟読しておく （わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
	小テスト			
第 14 回 ／	胃がんで開腹胃切除術を受ける患者の看護について 観察点・ケアを考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義・グループワークの大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。 ・事例検討で時間内に記入できていない箇所があれば記載しておく。	60
	成果発表			
第 15 回 ／	開胸術を受ける患者の看護 肺がん：開胸術	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書の肺がんで開胸術・胸腔鏡術を受ける患者の看護を熟読しておく （わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
	小テスト			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	肺がんで開胸術を受ける患者の看護について 観察点・ケアを考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義・グループワークの大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備しておく。 ・事例検討で時間内に記入できていない箇所があれば記載しておく。	60
	成果発表			
第 17 回 ／	運動器の手術を受ける患者の看護 大腿骨頸部骨折で人工骨頭置換術を受ける患者の看護	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書の大腿骨頸部骨折で人工骨頭置換術を受ける患者の看護を熟読しておく。 （わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
	小テスト			
第 18 回 ／	大腿骨頸部骨折で人工骨頭置換術を受ける患者の看護について 観察点・ケアを考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義・グループワークの大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備しておく。 ・事例検討で時間内に記入できていない箇所があれば記載しておく。	60
	成果発表			
第 19 回 ／	開頭術・クリッピング術を受ける患者の看護 くも膜下出血：開頭クリッピング術	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・教科書のクモ膜下出血で開頭クリッピング術を受ける患者の看護を熟読しておく。 （わからない漢字や言葉や意味は調べる） ・演習内容を事前学習しておく。	60
第 20 回 ／	演習 脳神経外科 ―観察技術― JCS・MMT・瞳孔	アクティブ・ラーニング 演習・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備しておく。 ・演習を振り返り脳神経外科の観察ポイントを修得しておく。	60
	実技・成果発表・課題レポート			
第 21 回 ／	看護過程 事例患者の本診断・問題リスト	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・事例患者の情報収集・仮診断・関連図までを記載しておく。 ・看護過程の本診断の記載内容、方法を確認しておく。	60
	小テスト・課題レポート			
第 22 回 ／	看護過程 事例患者の本診断・問題リスト	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・事例患者の本診断・問題リストを時間内で出来なかった箇所を記入し仕上げる。不明な点は次回質問ができるように準備しておく。	60
	課題レポート・コメントシート③			
第 23 回 ／	看護過程 事例患者の看護計画	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・看護過程の看護計画の記載内容、方法を確認しておく。	60
	課題レポート			
第 24 回 ／	看護過程 事例患者の看護計画	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・事例患者の看護計画を時間内で出来なかった箇所を記入し仕上げる。不明な点は次回質問ができるように準備しておく。	60
	課題レポート			
第 25 回 ／	看護過程 事例患者の SOAP	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・看護過程の SOAP の記載内容、方法を確認しておく。SOAP 記載する術後 1 日目の情報を読んでおく。	60
	課題レポート			
第 26 回 ／	看護過程 事例患者の SOAP	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・事例患者の SOAP を時間内で出来なかった箇所を記入し仕上げる。不明な点は次回質問ができるように準備しておく。	60
	課題レポート			
第 27 回 ／	看護過程 事例患者の退院指導	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	予習・看護過程の退院指導の記載内容、方法を確認しておく。退院指導における成果物（パンフレット等）を作成しておく。 ・看護過程の今までの記載用紙を仕上げて提出できるように準備する。	60
	課題レポート・作品(成果物)			
第 28 回 ／	看護過程 事例患者の退院指導	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表 面接授業	復習・講義、グループワーク、演習、看護過程をノートや配布資料で振り返り学修する。	60
	課題レポート・作品(成果物)・コメントシート④			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL12F066A	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	成人看護学援助論Ⅱ Adult Nursing Ⅱ		2 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	社会・経済的に大きな役割と責任を背負っている、成人対象者の慢性的な健康障害に焦点を当て学ぶ。 慢性疾患患者（ターミナル期も含め）が、疾患と共存し経過の緩慢、増悪と援解を繰り返しながらも、セルフケア能力が充分に発揮した状態が維持して社会生活が送れるための援助方法・看護を学ぶことができる。またその患者家族に対する援助方法・看護も学ぶことができる。							
	慢性期 疾患と共存 患者主体 セルフケア能力 患者教育 家族支援 社会サポート 心理的サポート		学修教育目標	1. 慢性的な健康障害を持つ成人患者の疾患理解とセルフケア能力向上を目指した看護について理解することができる。 2. 各疾患事例を通して患者の持つ問題を発見する能力を養うことができる。 3. 事例を通してパフレット作成などを行い、指導能力を養うことができる。 4. 模擬事例を通して看護過程を展開し患者理解の能力を養うことができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
成人期の患者が疾患と共存し主体的の行動し、社会生活を円滑行っていける様に援助方法を考えて看護を学ぶ。 内容として、看護師として患者・家族を含めて人間関係を考える。精神的・肉体的の観察や患者自身が疾患を理解し主体的にセルフケアが出来るための看護や教育指導を行い、疾患と共存する患者の看護を考えていく授業内容となっている。そのため疾患の基本的知識が不可欠であり、事前学習が必要である。学生参加型授業であり間違っても良いので、自主的に発言する努力も必要となってくる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
情報リテラシー、倫理学、解剖生理学、病理学、生化学、栄養学、社会福祉・保障論、薬理学、人間関係論、心理学、疾病論、基礎看護学、看護過程論								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：系統看護学講座 成人看護学 専門分野Ⅱ [1]成人看護学総論、[2]呼吸器、[3]循環器、[4]血液・造血器、 [5]消化器、[6]内分泌・代謝、[8]腎・泌尿器、 [11]アレルギー 膠原病 感染症 著者名： 出版社：医学書院 書 名：看護診断ハンドブック 第11 版 著者名：リンダ J. カルペニート＝モイエ 出版社：医学書院								
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		患者の社会背景を理解し、患者、家族の理解を深めて個別性の看護を考える事が出来る。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		成人期である患者の年代を中心に考えて、その前後の発達段階を理解して、患者理解が出来る。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		病院生活、家庭生活、社会生活を繰り返す慢性期患者のケアの提供を考える事が出来る。 退院を見据えた地域連携や療養の場の移行支援について考える事が出来る。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		慢性期の疾患の知識を深めて疾患別にあった看護を考える事が出来る。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		慢性期の疾患を悪化させる要因の排除や患者が主体的に行えるセルフケアを考える事が出来る。 医療関係者との関係性の構築を考える事が出来る					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	主体的に発言が出来る。						◎
	② 働きかけ力	他の学生への声掛けし、みんなで授業参加が出来るように促す事が出来る。						◎
	③ 実行力	理解出来ない時もそのままにせず解決する行動が出来る。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	看護過程や授業中の事例患者の問題点が考える事が出来る。						◎
	② 計画力	看護過程や授業中の事例患者の問題解決の計画を考える事が出来る。						◎
	③ 創造力	看護過程や授業中の事例患者の新たな看護や自分自身で行いたいと思う看護を考える事が出来る。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	リーダーシップやメンバーシップとして意見をわかりやすく伝える事が出来る。						◎
	② 傾聴力	他者の意見を素直に聞く事が出来る。						◎
	③ 柔軟性	他者の意見や行動に対して、何故かを考えて、お互いに話し合える事が出来る。						◎
	④ 状況把握力	グループ間の雰囲気を理解して何が良くて修正しなければいけない所を考える事が出来る。						◎
	⑤ 規律性	教員やグループ間での約束事や期日を守ることが出来る。						◎
	⑥ ストレスコントロール力	自分のストレスに対して話すことができ、自分自身もストレスコーピングが出来る。						◎
4. 倫理観	① 倫理性	患者や友人や病院での道徳的行動が出来る。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20	10	10			100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				5					5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		25		5	5	5			40
	特定の健康課題に対応する実践能力		25		5					30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力			10	5	5	5			25
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
- 慢性期の疾患の病態生理を修得し他者へも説明できるレベルに達する。 - 慢性期看護について基本的な看護は考えられる。更に個別の看護も考えることが出来る。 - 患者指導についても個別性を考えて、患者がもらって喜ぶ内容で構成したパンフレット作りができる。 - 看護師として、疾患と共存する患者の精神面などの理解し感性豊かな看護を考える事が出来る。					- 慢性期の疾患の病態生理を修得することが出来る。 - 慢性期看護について基本的な看護は考えられ応用した看護を考えることが出来る。 - 患者指導についても一般的な内容で、患者が分かる内容のパンフレット作りができる。 - 看護師として、疾患と共存する患者の精神面などの理解し感性を生かした看護を考える事が出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	慢性期の看護に必要な概念	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書慢性期疾患・患者の特徴などを熟読しておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
第 2 回 ／	がん看護	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書のがん看護を熟読しておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
第 3 回 ／	身体防御機能障害のある成人の看護（悪性リンパ腫・白血病） 悪性リンパ腫の看護の視点を考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の身体防御機能障害のある成人の看護を熟読しておく。悪性リンパ腫を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
第 4 回 ／	身体防御吸収機能障害のある成人の看護（膠原病） SLE の看護の視点を考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の身体防御吸収機能障害のある成人の看護を熟読しておく。SLE を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
第 5 回 ／	身体防御機能障害のある成人の看護（自己免疫疾患：潰瘍性大腸炎・クローン病） クローン病の看護の視点を考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の身体防御機能障害のある成人の看護を熟読しておく。潰瘍性大腸炎、クローン病を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
第 6 回 ／	呼吸機能障害のある成人の看護（慢性閉塞性肺疾患：COPD） COPD の看護の視点を考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の呼吸機能障害のある成人の看護を熟読しておく。慢性閉塞性肺疾患：COPD を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
	小テスト			
第 7 回 ／	内部環境調整機能障害のある成人の看護（腎不全） 腎不全の看護の視点を考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の脳・神経機能障害のある成人の看護を熟読しておく。パーキンソン病・ALS を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
第 8 回 ／	脳・神経機能障害のある成人の看護（パーキンソン病・ALS） パーキンソン病の看護の視点を考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の内部環境調整機能障害のある成人の看護を熟読しておく。腎不全を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
第 9 回 ／	循環機能障害のある成人の看護（狭心症・心筋梗塞）	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の循環機能障害のある成人の看護を熟読しておく。狭心症・心筋梗塞を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
第 10 回 ／	循環機能障害のある成人の看護（心不全・不整脈） 心不全の看護の視点を考える	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の呼吸機能障害のある成人の看護循環機能障害のある成人の看護を熟読しておく。心不全・不整脈を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる） 復習・グループワークの内容の振り返り、ノートなどにまとめておく。	60
	小テスト			
第 11 回 ／	代謝障害のある患者の看護（糖尿病）	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の代謝障害のある患者の看護を熟読しておく。糖尿病を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
第 12 回 ／	代謝障害のある患者の看護（糖尿病） 演習（血糖測定・インスリン注射）について	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・講義内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 13 回 ／	代謝障害のある患者の看護（糖尿病）演習（血糖測定・インスリン注射）	演習・意見交換・面接授業	予習・演習内容を教科書などで調べ、ノートにまとめておく、配布資料を熟読しておく。 血糖測定・インスリン注射などの指導内容まとめておく。	60
	実技・課題レポート			
第 14 回 ／	代謝障害のある患者の看護（糖尿病）演習（血糖測定・インスリン注射）	演習・意見交換・面接授業	復習・演習内容や担当教員からの指導内容をノートなどにまとめる。	60
	実技・課題レポート			
第 15 回 ／	看護過程とは（成人期における看護過程の概要）	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・看護過程について調べておく。	60

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	ゴードンの機能的健康パターンを用いての看護展開について 事例紹介・フェイスシート	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・ゴードンの機能的健康パターについてノートなどにまとめる。不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 17 回 ／	看護過程 消化・吸収障害のある成人の看護（肝炎・肝硬変） データベース、説明・展開導入	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・教科書の消化・吸収障害のある成人の看護を熟読しておく。肝炎・肝硬変を調べておく。（わからない漢字や言葉や意味は調べる）	60
第 18 回 ／	看護過程 消化・吸収障害のある成人の看護（肝炎・肝硬変） 関連図、本診断、説明	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・看護過程内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 19 回 ／	看護過程 データベース	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・データベースについて調べておく。	60
第 20 回 ／	看護過程 データベース	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・看護過程内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 21 回 ／	看護過程 関連図	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・関連図について調べておく。	60
第 22 回 ／	看護過程 関連図	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・看護過程内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 23 回 ／	看護過程 本診断・問題リスト	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・看護診断について調べておく。	60
第 24 回 ／	看護過程 本診断・問題リスト	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・看護過程内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 25 回 ／	看護過程 看護計画	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・看護計画について調べておく。	60
第 26 回 ／	看護過程 看護計画	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・看護過程内容の大切な内容を確認し、ノートなどにまとめる。また不明瞭な箇所は次回質問ができるように準備をしておく。	60
第 27 回 ／	看護過程 SOAP	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	予習・SOAP について調べておく。	60
第 28 回 ／	看護過程 サマリー	アクティブ・ラーニング 講義・発問・意見交換・グループワーク・発表・面接授業	復習・講義、グループワーク、演習、看護過程をノートや配布資料で振り返り学修する。	60
	課題レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL13F067S	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	成人看護学実践実習Ⅰ（急性期） Adult Nursing PracticeⅠ (Acute Stage)		3単位	必 修	実 習	3年次	秋学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	本実習では、既習の成人看護学概論や成人看護学援助論（急性期）で学んだ知識・技術・態度を実践面で活用することを目的とする。主に、手術を受ける周手術期患者および家族への看護に焦点をあてる。							
	急性期 周手術期 術後合併症・予防 早期離床 患者教育 早期社会復帰 家族支援 心理的サポート 実習		学修教育目標	対象となる成人期の人々は、多様な社会的役割を有することから、治療としての手術療法に直面し、役割の変更や価値観の修正を余儀なくされる。このような対象を総合的に理解し、健康レベルを的確に判断した上で、個別的な健康問題を解決するための生活支援の具体的方法を学び看護実践に必要な能力および態度を養うことができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
成人期の患者が手術を受けることによって、急に社会生活を中断した患者の心理や手術による侵襲からの合併症を考え、早期の合併症予防を行う看護を学ぶ。周手術期の合併症を考える時に、観察に必要性、検査データ、情報からのアセスメント方法も学んだ内容を実践する。 早期社会復帰を考えて、早期離床の重要性についても学んだ内容を実践する。 講義で学んだ内容や既学した基礎知識の復習を行って習得しておく。 患者との関わりや実習の学びに積極的に行動し知識の習得をする。実習を楽しむ。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
情報リテラシー、倫理学、解剖生理学、病理学、生化学、栄養学、社会福祉・保障論、薬理学、人間関係論、心理学、疾病論、基礎看護学、看護過程論 老年看護学								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
成人看護学援助論Ⅰに使用したテキスト				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		患者の社会背景を理解し、患者、家族の理解を深めて個別性の看護を考え行動が出来、関係性を作る。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		成人期である患者の年代を中心に考えて、その前後の発達段階を理解して、患者理解が出来る。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		急な入院生活を強いられる患者心理や、手術後の精神的・肉体的変化に対応できるケアの提供を考え行動が出来る。 退院を見据えた地域連携や療養の場の移行支援について考えることができる。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		急性期の疾患の知識を深めて疾患別に手術後に起こり得る状況に対応する看護を考え行動が出来る。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		急性期患者の情報から周手術期の合併症を予測し、合併症予防を行い早期回復が出来る看護や早期社会復帰が円滑に行える看護を考え行動が出来る。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	主体的に発言や行動が出来、自主的に学び患者との関係性も積極的に作る。					◎
		② 働きかけ力	他の学生への声掛けし、みんなで実習参加が出来るように促すことが出来る。					◎
		③ 実行力	理解出来ない時もそのままにせず解決する行動が出来る。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	受け持ち患者の問題点が考える事が出来、自分自身の不足分にも気づける。					◎
		② 計画力	受け持ち患者の問題解決の計画を考える事が出来、自分自身の勉強の行動計画を立てることが出来る。					◎
		③ 創造力	受け持ち患者の新たな看護や患者が求める看護を考え行動が出来る。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	リーダーシップやメンバーシップとして意見をわかりやすく伝えることが出来る。					◎
		② 傾聴力	他者の意見を素直に聞くことが出来る。					◎
		③ 柔軟性	他者の意見や行動に対して、何故かを考えて、お互いに話し合えることが出来る。					◎
		④ 状況把握力	グループ間の雰囲気を理解して何が良くて修正しなければいけない所を考える事が出来る。					◎
		⑤ 規律性	病院、教員グループ間での約束事や期日を守ることが出来る。					◎
		⑥ ストレスコントロール力	自分のストレスに対して話すことができ、自分自身もストレスコーピングが出来る。					◎
4. 倫理観		① 倫理性	患者や友人や病院での道徳的行動が出来る。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合									100	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								10	10
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								40	40
	特定の健康課題に対応する実践能力								30	30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								10	10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								10	10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
- 急性期の看護を修得し、アセスメント能力を高め状況判断を行うことが出来る更に状況判断と共に対応策も考え行動を行うことが出来る。 - 急性期の看護を考えると共に、患者の個別性を考え、新たな看護方法を考える事が出来、患者の状況に良い変化を与えることが出来る。 - 実習が楽しく自己の成長を感じる事が出来た。					- 急性期の看護を修得し、アセスメントをした状況判断を行った看護が出来る。 - 急性期の看護を考えると共に、患者の個別性を考えた看護が出来る。 - 実習が楽しいと感じることが出来た。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 2 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 3 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 4 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 5 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 6 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 7 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 8 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 9 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 10 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 11 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 12 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 13 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 14 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SNL13F067A	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	成人看護学実践実習Ⅱ（慢性期） Adult Nursing PracticeⅡ（Chronic Stage）		3単位	必 修	実 習	3年次	秋学期 （ 集 中 講 義 ）	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的									
	本実習では、既習の成人看護学概論や成人看護援助論Ⅱ（慢性期）で学んだ知識・技術・態度を実践することで慢性期疾患患者を統合的にとらえた看護を修得することを目的とする。内容として、慢性的な健康障害をもつ成人対象者の身体的苦痛や疾患と共存しながら社会生活を送る患者心理などを理解した上で、個別性のある看護を考えていくことができる。 また看護過程を展開することで、根拠に基づいた看護展開と看護実践を行い、基本的能力を養うことができる。								
キーワード	慢性期 疾患と共存 患者主体 セルフケア能力 患者教育 家族支援 社会サポート 心理的サポート 実習	学修教育目標	1）成人期にある患者の発達段階や健康問題を総合的にアセスメントし、看護診断を行うことができる。 2）対象のもつセルフケア能力に応じた、個別的な看護計画を立案し、援助を展開することができる。 3）症状のコントロールについて、患者とその家族の生活やセルフケア能力を考慮した教育を行うことができる。 4）対象者との関わりの中から、対象者・家族の心理状況を理解することができる 5）保健医療福祉チームにおける看護の役割、チームメンバーとの連携を理解することができる。 6）自己の看護実践を振り返り、看護に対する考えを深めることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
成人期の慢性期患者が疾患と共存し主体的の行動し、社会生活を円滑行っていける様に援助方法を考えて看護を学び実践する。 内容として、看護師として患者・家族を含めて人間関係を考える。精神的・肉体的の観察や患者自身が疾患を理解し主体的にセルフケアが出来るための看護や教育指導を行い、疾患と共存する患者の看護を考えて実践する。 講義で学んだ内容や既学した基礎知識の復習を行って習得しておく。 患者との関わりや実習の学びに積極的に行動し知識の習得をする。実習を楽しむ。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
情報リテラシー、倫理学、解剖生理学、病理学、生化学、栄養学、社会福祉・保障論、薬理学、人間関係論、心理学、疾病論、基礎看護学、看護過程論 老年看護学									
教 科 書			参考書・リザーブドブック						
成人看護学援助論Ⅱで使用したテキスト			なし						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		患者の社会背景を理解し、患者、家族の理解を深めて個別性の看護を考える事が出来る。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		成人期である患者の年代を中心に考えて、その前後の発達段階を理解して、患者理解が出来る。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		病院生活→家庭生活→社会生活→病院生活→家庭生活→社会生活と繰り返す慢性期患者のケアの提供を考え行動が出来る。						◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		慢性期の疾患の知識を深めて疾患別にあった看護を考え行動が出来る。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		慢性期の疾患を悪化させる要因の排除や患者が主体的に行えるセルフケアを考え行動が出来る。 医療関係者との関係性の構築を考えた行動が出来る。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		主体的に発言や行動が出来、自主的に学び患者との関係性も積極的に作る。					◎
		② 働きかけ力		他の学生への声掛けし、みんなで実習参加が出来るように促すことが出来る。					◎
		③ 実行力		理解出来ない時もそのままにせず解決する行動が出来る。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		受け持ち患者の問題点が考える事が出来、自分自身の不足分にも気づける。					◎
		② 計画力		受け持ち患者の問題解決の計画を考える事が出来、自分自身の勉強の行動計画を立てることが出来る。					◎
		③ 創造力		受け持ち患者の新たな看護や患者が求める看護を考え行動が出来る。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		リーダーシップやメンバーシップとして意見をわかりやすく伝えることが出来る。					◎
		② 傾聴力		他者の意見を素直に聞くことが出来る。					◎
		③ 柔軟性		他者の意見や行動に対して、何故かを考えて、お互いに話し合えることが出来る。					◎
		④ 状況把握力		グループ間の雰囲気を理解して何が良くて修正しなければいけない所を考える事が出来る。					◎
		⑤ 規律性		病院、教員グループ間での約束事や期日を守ることが出来る。					◎
		⑥ ストレスコントロール力		自分のストレスに対して話すことができ、自分自身もストレスコーピングが出来る。					◎
4. 倫理観		① 倫理性		患者や友人や病院での道徳的行動が出来る。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合									100	100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								20	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								20	20
	特定の健康課題に対応する実践能力								20	20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								20	20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								20	20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
急性期の看護を修得し、アセスメント能力を高め状況判断を行うことが出来る。更に状況判断と共に対応策も考え行動を行うことが出来る。 慢性期の看護を考えると共に、患者の個別性を考え、新たな看護方法を考える事が出来、患者の状況に良い変化を与えることが出来る。 実習が楽しく自己の成長を感じる事が出来た。					慢性期の看護を修得し、アセスメントをした状況判断を行った看護が出来る。 慢性期の看護を考えると共に、患者の個別性を考えた看護が出来る。 実習が楽しいと感じることが出来た。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 2 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 3 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 4 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 5 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 6 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 7 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 8 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 9 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 10 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 11 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 12 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 13 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			
第 14 回 ／	別途、実習要項を参照のこと			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SNL12F068S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		老年看護学概論 Introduction Gerontological Nursing		2単位	必 修	講 義	2年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	老年期の理解、高齢者看護の基本、ヘルスプロモーション、生活を支える看護について、考え方を理解できるようになる。										
	老年期 高齢者 老化現象 高齢社会 他職種連携 老年期を生きる ヘルスプロモーション			学修教育目標	1) 生理的老化現象とそれに伴う高齢者の心理的および社会生活上の変化の説明ができる。 2) 高齢者の生活が健康と深い関わりのあることを理解し、生活に視点をおいた看護の意義を説明できる。 3) 健康時から健康障害時までの高齢者への支援活動を理解し、保健・医療・福祉サービスにおいて様々な職種が連携していることを説明できる。 4) 高齢者看護の基本的態度を説明できる。 5) 老年期を生きる高齢者に焦点をあて、現在の高齢社会の現状や老年看護の基本的な考え方を表現できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
ドキュメントやDVD、映画、小説などに描かれている高齢者の加齢に伴う生活の影響を学び、高齢者を看護するための基本的な態度を学習する。 身近な高齢者をイメージしながら、老化現象がある高齢者の生活を支える看護を学ぶ。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
解剖学・生理学・基礎看護学・倫理学などの学びと関連するので、復習し関連資料を持参すること。 基本的にはテキスト中心に進める。高齢社会の動向など、新聞やニュースを取り入れた授業なので、日常から意識して社会に目をむける習慣をつけること。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著者名：北川公子他 出版社：医学書院					書 名：系統学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著者名：佐々木英忠他 出版社：医学書院 書 名：国民衛生の動向 著者名：厚生労働統計協会編 出版社：厚生労働統計協会 書 名：高齢者の健康と障害 著者名：堀内ふき他 出版社：メディカ出版						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			高齢者看護の基本が理解できる。						◎	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			それぞれの発達段階と関連づけて、高齢者の発達段階について考えることができる。						◎	
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			保健医療福祉の制度を学ぶ。高齢者の看護実践の場を理解することができる。						○	
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			医療機関と福祉施設、在宅との連携が理解できる。						○	
⑤	ヘルスプロモーションや予防を促進する看護実践			加齢に伴う健康保持増進、疾病予防が理解できる。						△	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			授業準備、事前学習、課題に積極的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力			クラスメートや教員に自ら働きかけることができる。						○
		③ 実行力			授業や講義終了時に必要に応じて、自発的に質問や意見が言える。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			高齢者に関する社会の動向に関心がもてる。						◎
		② 計画力			授業計画に応じた準備ができる。						○
		③ 創造力			高齢者看護のイメージができる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の考えを述べることができる。						○
		② 傾聴力			他者の意見や教員の話を聴ける。						◎
		③ 柔軟性			他者の意見を丁寧に考えることができ尊重できる。						○
		④ 状況把握力			社会における高齢者の状況が理解できる。						○
		⑤ 規律性			授業での留意点や学ぶ姿勢を大切にでき、規則を守れる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			全体を考えた学習計画ができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性			他者を尊重した態度で接することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常的狀況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10		10		10	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5					5	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10	5						15
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	5	10		5			30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10				5			15
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		15						5	20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
提出物が全部できている。 科目の理解度が 80%以上である。					提出物が全部できている。 科目の理解度が 60～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	老年看護学の考え方 老いるということ、老いを生きるということ(1) ① 老年看護を学ぶ人口 ②「老いる」ということ	面接授業：講義	高齢化率、平均寿命の基礎データの復習 老いのイメージ（衰退と成熟） 自分の老いのイメージについて	60
	授業参加状況			
第 2 回 ／	老いるということ、老いを生きるということ(2) 「老いる」ということ ①加齢と老化 ②加齢に伴う身体的側面の変化 ③加齢に伴う心理的側面の変化 ④加齢に伴う社会的側面の変化	面接授業：講義	ストレラー（Strehler, B. L）老化の原則について 恒常性を維持するためのからだの中の変化について 結晶性知能・流動性知能について	60
	授業参加状況 課題			
第 3 回 ／	老いるということ、老いを生きるということ(3) 老いを生きるということ ① 高齢者の定義 ②発達と成熟	面接授業：講義 小テスト	老年期の発達課題について	60
	授業参加状況 課題 小テスト			
第 4 回 ／	超高齢社会と社会保障(1) 超高齢社会の統計的輪郭 ①超高齢社会の現況 ②高齢者と家族 ②高齢者の健康状態 ④高齢者の死亡 ⑤高齢者の暮らし	面接授業：講義	わが国の人口ピラミッド、人口割合について 高齢者の暮らしについて	60
	授業参加状況			
第 5 回 ／	高齢社会と社会保障(2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 高齢社会における権利擁護	面接授業：講義	身体拘束 高齢者虐待について	60
	授業参加状況			
第 6 回 ／	老年看護のなりたち（1） 老年看護のなりたち 老年看護の役割 老年看護における理論・概念の活用 老年看護に携わる者の責務	面接授業：講義	老年看護の定義、老年看護の特徴について 高齢者のための国連原則	60
	授業参加状況			
第 7 回 ／	高齢者と QOL（1） 高齢者看護における倫理 DVD を通して老年看護を考える	面接授業：講義・演習	身近なドキュメントから老年看護と向き合う。 生きるについて 高齢者看護における倫理について 他職種との連携について	60
	授業参加状況 レポート			
第 8 回 ／	第 1 回から第 7 回までのまとめ 事前学習課題 総論部分に関する国家試験問題について	課題による授業 小テスト	解剖学、生理学の復習 事前学習のまとめ	60
	授業参加状況 課題			
第 9 回 ／	認知機能障害のある高齢者の看護(1) 認知症とは 認知症の症状 認知症の事例を通して考える	面接授業：講義	身近な高齢者を意識的に観察し、成人との比較し、その理由について考える。 認知症ではなく「人」をみる 認知症が「その人」やその暮らしに及ぼす影響について	60
	授業参加状況 課題			
第 10 回 ／	認知機能障害のある高齢者の看護(2) 認知症の事例紹介 高齢者の代表的な疾病について	面接授業：講義 小テスト	認知症高齢者の理解について 高齢者の代表的な疾病論の特徴について	60
	授業参加状況 小テスト			
第 11 回 ／	エンドオブライフケア エンドオブライフケアの概念 「生きる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助	面接授業：講義	死生観 「生きる」について 住み慣れた場所で最期まで支えるについて	60
	授業参加状況			
第 12 回 ／	高齢者と QOL（2）高齢者の楽しみ（季節のイベント） レクリエーションの意義 社会情勢を考えて私たちにできる事	面接授業：講義・演習	高齢者の特徴について（機能の変化を理解） 高齢者の QOL について	60
	授業参加状況 課題			
第 13 回 ／	高齢者のリスクマネジメント(1) 事故事例を通して考える	面接授業：講義	高齢者に多い事故事例の原因とリスクについて	60
	授業参加状況 課題			
第 14 回 ／	高齢者社会の動向 高齢者に関する新聞記事から学ぶ 「生きる」 90 歳の私 100 歳の私	面接授業：講義	1 人 1 人の人生を念頭に健康レベルの多様性について エンドオブライフケアに関与する老年看護の役割について	60
	授業参加状況 課題			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL13S069S	専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）	老年看護学援助論 Theory of Gerontological Nursing Assist		2 単位	必 修	演 習	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	老年期は加齢とともに、疾患に罹患しやすく、複数の疾患を持ち慢性的な経過を伴うことが多い。このような老年期の特徴を踏まえ、健康上の諸問題を理解したうえで、生活の質を高める具体的な援助方法を理解することができる。							
	キーワード 高齢者 老化現象 複数疾患 生活支援 他職連携	学修教育目標	1) 老化現象とそれに伴う高齢者の心理的及び社会生活上の変化を説明できる。 2) 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を説明できる。 3) 高齢者の生活に視点をおいた看護の基礎的知識を説明できる。 4) 老化現象による機能低下や障害に対する日常生活援助を説明できる。 5) 老年期に多い疾病と看護の基礎的知識を説明できる。 6) 治療を受けている高齢者の看護に必要な知識を説明できる。 7) 老化現象と疾患により療養生活を送っている高齢者の生活を支える看護に必要な基礎的技術ができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
授業前半では高齢者の生活を整えるための看護の基本を学び、後半では、事例を用いて老化現象や複数疾患を持ち様々な治療を受けている高齢者の看護過程、さらには施設で生活する高齢者の看護を学んでいく。事前に授業内容や自己学習項目を公開するので各自確認し必要な学習をして授業に臨むこと。この科目は毎時間の学習を積み重ねて理解を深めていくため、わからないことはそのままにせず、自己学習や質問などにより早期に解決することを心がけてほしい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
老年看護学概論での学習ノート・資料は常に持参しておくこと。下記の教科書の他、解剖学、生理学、脳・神経、腎・泌尿器、内分泌・代謝などの教科書を使用する。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著者名：北川 公子 他 出版社：医学書院				書 名：ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 著者名：大淵 律子 他 出版社：メディカ出版 書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著者名：佐々木 英忠 他 出版社：医学書院				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		高齢者及び家族に対する看護が理解できる。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		高齢者とその家族のそれぞれの発達段階と現在の状況の理解ができる。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		医療施設・療養施設・介護施設における看護師の役割が理解できる。					○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		疾患や老化現象だけに着目するのではなく一人高齢者の生活に焦点を当てた看護が理解できる。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		健康の維持のための看護が理解できる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	授業準備、課題、演習などに積極的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力	教員、グループメンバーに働きけることができる。					◎
		③ 実行力	理解できるまで取り組み続けることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	対象を全体的に理解し、必要な援助を見出すことができる。					◎
		② 計画力	必要な援助を実施するための方法を明らかにできる。					◎
		③ 創造力	高齢者やその家族の立場に立って対象者のニーズを考えることができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の考えを表現することができる。					◎
		② 傾聴力	グループメンバーの話を丁寧に聞くことができる。					◎
		③ 柔軟性	自分と異なる意見も聞き建設的なグループワークができる。					◎
		④ 状況把握力	全体的な視野で状況を理解し、グループメンバーとして必要な行動ができる。					◎
		⑤ 規律性	ルールを守ることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力	早めの取り組みや気分転換など、自己にあったストレスコントロール法を見出すことができる。					◎
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場や状況を考えて行動ができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	35	10				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10		10					20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		20	5	10					35
	特定の健康課題に対応する実践能力		20		10	5				35
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力					5				5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				5					5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
高齢者の身体的・社会的・心理的特徴、高齢者を取り巻く家族の一般的な状況を理解しており、それを踏まえて事例の高齢者への看護を考えることができる。 科目の理解度が80%以上である。					高齢者の一般的な状況を事例の高齢者と関連づけて考えるには支援が必要だが、事例の高齢者の状況と必要な看護については理解している。 科目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	老年看護学援助の位置づけと進め方 既習知識の確認（社会保障・加齢現象）	面接授業：講義	社会保障・老化現象についての復習	30
	授業への参加状況・課題			
第 2 回 ／	高齢者の看護過程 1 老年看護学領域の看護過程について	面接授業：講義・演習	事例理解のための学習 情報の整理	30
	授業への参加状況・課題			
第 3 回 ／	4 章 高齢者のヘルスアセスメントの基本	面接授業：講義	授業の復習	30
	授業への参加状況・課題・レポート			
第 4 回 ／	4 章 高齢者のヘルスアセスメントの基本	面接授業：講義	授業の復習	30
	授業への参加状況・課題・レポート			
第 5 回 ／	5 章 高齢者の生活機能を支える看護	面接授業：講義・演習	廃用症候群・摂食嚥下・栄養状態のアセスメント・高齢者とのコミュニケーション	30
	授業への参加状況・課題			
第 6 回 ／	5 章 高齢者の生活機能を支える看護	面接授業：講義・演習	廃用症候群・摂食嚥下・栄養状態のアセスメント・高齢者とのコミュニケーション	30
	授業への参加状況・課題			
第 7 回 ／	6 章 健康逸脱からの回復を促す看護 A：発熱，スキントラブル，脱水と浮腫	面接授業：講義	脱水のアセスメントと看護、浮腫のアセスメントと看護	30
	授業への参加状況・課題			
第 8 回 ／	6 章 健康逸脱からの回復を促す看護 B：高齢者の糖尿病、心不全 COPD 感染症と看護	面接授業：講義	高齢者の糖尿病、高齢者の心不全と看護	30
	授業への参加状況・課題			
第 9 回 ／	6 章 健康逸脱からの回復を促す看護 B：骨粗鬆症と転倒、パーキンソン病、高次脳機能障害	面接授業：講義	パーキンソン病、高次脳機能障害と看護	30
	授業への参加状況・課題			
第 10 回 ／	6 章 健康逸脱からの回復を促す看護 C：認知機能障害	面接授業：講義	認知症の病態と治療	30
	授業への参加状況・課題・レポート			
第 11 回 ／	6 章 健康逸脱からの回復を促す看護 C：認知機能障害	面接授業：講義・演習、小テスト	認知症の看護	30
	授業への参加状況・課題			
第 12 回 ／	看護過程 2	面接授業：講義・演習	事例の情報整理 事例に関する学習	30
	授業への参加状況・課題			
第 13 回 ／	看護過程 3	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・課題			
第 14 回 ／	看護過程 4	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・課題・			
第 15 回 ／	看護過程 5	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・看護過程記録			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	看護過程 6	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・看護過程記録			
第 17 回 ／	看護過程 7	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・課題・看護過程記録			
第 18 回 ／	看護過程 8	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・課題・看護過程記録			
第 19 回 ／	看護過程 9	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・課題			
第 20 回 ／	看護過程 10	面接授業：講義・演習	看護過程に関する学習	30
	授業への参加状況・課題			
第 21 回 ／	高齢者の QOL とレクリエーション	面接授業：講義・演習	高齢者へのリクリエーションについて	30
	授業への参加状況・課題			
第 22 回 ／	事例高齢者へのレクリエーション（企画案の検討と企画書作成）	面接授業：講義・演習	レクリエーション企画書作成	30
	授業への参加状況・課題			
第 23 回 ／	高齢者の事故とリスクマネジメント	面接授業：講義・演習	授業の復習	30
	授業への参加状況・課題			
第 24 回 ／	高齢者の事故とリスクマネジメント	面接授業：講義・演習	授業の復習	30
	授業への参加状況・課題			
第 25 回 ／	エンドオブライフケア	面接授業：講義・演習	授業の復習	30
	授業への参加状況・課題			
第 26 回 ／	エンドオブライフケア	面接授業：講義・演習	授業の復習	30
	授業への参加状況・課題			
第 27 回 ／	レクリエーションの発表	面接授業：講義・演習	レクリエーションの準備	30
	授業への参加状況・課題・発表内容			
第 28 回 ／	授業のまとめ	面接授業：講義	授業の復習	30
	授業への参加状況・課題・発表内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SNL13F070S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		老年看護学実践実習Ⅰ Practice Gerontological Nursing PracticalⅠ		2単位	必 修	実 習	3年次	秋学期 （集中講義）	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	老化の状態（身体的・精神・社会的特徴）が個人によって異なることを理解し、老年期にある人の健康上、生活上の要求を知る。また、高齢者の生活が健康に及ぼす影響を知り、健康の保持・増進、疾病の予防など日常生活援助に視点を置いた看護過程が展開できる。 健康障害のある高齢者の特徴を理解した上で、医療チーム内における看護の役割が理解できる。保健・医療・福祉の現状を知り、高齢者が抱える健康上の問題への看護の役割を理解できる。 ライフサイクルの最終段階である老年期における高齢者個人を尊重し、高齢者個々の生きがいや死生観などを考え、それらについて自分の考えを述べる事ができる。										
	キーワード	高齢者患者 老化現象 複数疾患 生活支援 他職種連携 実習	学修教育目標	1) 老化の状態が個人によって異なることを理解することができる。 2) 老化に伴って起こってくる問題を理解し、看護過程が展開できる。 3) 老年期にある人の特有の疾患、生活障害について理解し、生活の質を高め、自立に向けての支援ができる。 4) 老人福祉施設および、医療施設における看護の役割について理解することができる。 5) 高齢者個人、家族の気持ちを受け止め、尊重した態度がとれる。生きがいや死生観、終末期ケアについて自分の考えを述べる事ができる。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
老年看護学概論および老年看護学援助論で学んだことを基盤にし、医療施設に入院中の高齢者に対する看護の実践を学んでいく。カルテでの情報収集に偏らず高齢者と関わることで理解を進めていくこと。また、多くの高齢者は複数の疾患と老化現象が起きており、それらが生活に影響を及ぼしている。一見複雑に感じることも紐解いていくことで理解できるようになる。そのため、わからないこと、難しいと感じることについて、指導者や教員に自分の考えを持って相談し、またグループメンバーと協力して学習を深めていくこと。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
高齢者の看護には様々な科目で学習した知識を組み合わせる理解していく必要がある。面倒がらずに1つ1つの学習を積み重ねていくことが理解の近道である。 関連科目の例：基礎看護学・解剖生理学・薬理学・栄養学・疾病論・成人看護学											
教 科 書				参考書・リザーブドブック							
書 名：看護学生のための 実習の前に読む本 著者名：田中 美穂、蜂ヶ埜 令子 出版社：医学書院				書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著者名：北川 公子他 出版社：医学書院 書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著者名：佐々木 英忠 他 出版社：医学書院 書 名：ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 著者名：堀内 ふき 他 出版社：メディカ出版 書 名：ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 著者名：大淵 律子 他 出版社：メディカ出版							
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			助言を受けて、受け持ち患者に対する看護が実践できる。							◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			受け持ち患者とその家族の状況を考えることができる。							◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			急性期病棟・リハビリテーション病棟・療養病棟・高齢者施設における治療や看護、および生活の連続性を理解して情報を整理し、看護を考えることができる。							◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			疾患や老化現象だけに着目するのではなく一人の高齢者の生活に焦点をあてた看護を実践できる。							◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			指導を受けて、健康の維持・悪化防止・自立・心地よさのための看護が実践できる。							◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			受け持ち患者、指導者への関わり、自己学習が積極的にできる。						◎
		② 働きかけ力			実習で関わる様々な人（多くの高齢者、家族、他職種、指導者、グループメンバー、教員など）に自分から働きかけることができる。						◎
		③ 実行力			日々の行動を振り返り、修正を加えて実践を重ねることができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			受け持ち患者を全体的な視点で理解し、現在必要な援助や患者のニードを見出すことができる。						◎
		② 計画力			助言を受けて、必要な援助を安全・効果的に実施するために計画がたてられる。						◎
		③ 創造力			助言を受けて、必要な援助を安全・効果的におこなうための方法を考えることができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の考えを表現することができる。						◎
		② 傾聴力			他者の話や意見を丁寧に聞くことができる。						◎
		③ 柔軟性			自分とは異なる意見を受け留めることができる。						◎
		④ 状況把握力			全体的な視野で状況を把握し、助言を受けながら必要な行動がとれる。						◎
		⑤ 規律性			ルールを守れる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスコントロールのための行動を実践できる。						◎
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場や状況を考えた行動ができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					10	5			85	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								20	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								20	20
	特定の健康課題に対応する実践能力								20	20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				5				20	25
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				5	5			5	15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自ら既習科目で学んだ知識を関連させ、受け持ち患者や家族との関わりから、高齢者の身体的・社会的・心理的状況及び価値観を理解し、主体的に必要な看護見出し、看護展開ができる。					助言を受けながら、既習科目で学んだ知識を関連させ、かつ受け持ち患者との関わりから現在の高齢者に必要な看護を見出し、看護展開ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 2 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 3 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 4 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 5 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 6 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 7 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 8 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 9 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 10 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 11 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 12 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 13 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 14 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL14S070A		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		老年看護学実践実習Ⅱ Practice Gerontological Nursing PracticalⅡ	2単位	必 修	実 習	4 年次	春学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	老化の状態（身体的・精神・社会的特徴）が個人によって異なることを理解し、老年期にある人の健康上、生活上の要求を知る。また、高齢者の生活が健康に及ぼす影響を知り、健康の保持・増進、疾病の予防に向けた適切な援助を日常生活に視点をおき判断し、看護過程が展開できる能力を養う。 健康障害のある老年の特徴を理解し医療チーム内における看護の役割を理解できる。保健・医療・福祉の現状を知り、高齢者施設での生活の場を意識した看護が展開できる。 ライフサイクルの最終段階である老年期における高齢者個人を尊重し、高齢者個々のいきがよい、死生観を理解しながら、生活の質を高める看護が展開できる。								
キーワード	施設入所中の高齢者 老化現象 複数疾患 生活の質 死生観 他職種連携 実習	学修教育目標	1) 老化の状態が個人によって異なることを理解することができる。 2) 老化に伴って起こってくる問題を理解し、看護過程が展開できる。 3) 老年期にある人の特有の疾患、生活障害について理解し、生活の質を高め、自立に向けての支援ができる。 4) 老人福祉施設および、医療施設における看護の役割について理解しながら、他の専門職との連携と協働が理解できる。 5) 高齢者個人、家族の気持ちを受け止め、尊重した態度がとれる。高齢者の生きがいがよいや死生観、終末期ケアについて考えることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学実践実習Ⅰを基盤にし、施設入所中の高齢者の看護実践を学んでいく。ここでは他職種と連携しながら受け持ち高齢者やユニット（またはフロア）全体の高齢者に関わり、個人への看護に加えて、ユニット（またはフロア）全体に目を向ける練習をする。さらにユニット（またはフロア）を対象としたレクリエーションの企画・運営、さらには学んだことをプレゼンテーションすることで多重課題へ取り組む練習もする。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
老年看護学実践実習Ⅰの関連科目（倫理学・基礎看護学・解剖学・生理学・栄養学・薬理学・疾病論・成人看護学等）に加えて、関係法規など施策に関する知識を関連づけて学習していく。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：看護学生のための 実習の前に読む本 著者名：田中 美穂、蜂ヶ埼 令子 出版社：医学書院				書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著者名：北川 公子 他 出版社：医学書院 書 名：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著者名：佐々木 英忠 他 出版社：医学書院 書 名：ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 著者名：堀内 ふき 他 出版社：メディカ出版 書 名：ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 著者名：大淵 律子 他 出版社：メディカ出版					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			ユニット（フロア）全体に目を配りながら受け持ち高齢者に対する看護が実践できる。					◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			受け持ち高齢者とその家族の状況を踏まえた看護を考えることができる。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			生活の場を意識した看護を実践できる。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			高齢者のこれまでの人生や日常の言動から、対象者のこだわりや生きがいがよい、死生観を感じとり、援助に生かすことができる。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			高齢者の健康の維持、悪化防止、自立、心地よさのための看護が実践できる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	多くの高齢者、家族、他職種、指導者への関わり、および自己学習が積極的に行える。						◎
		② 働きかけ力	実習で関わる様々な人（多くの高齢者、家族、他職種、指導者、グループメンバー、教員など）に自分から働きかけることができる。						◎
		③ 実行力	日々の行動を振り返り、修正を加えて実践を重ねることができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	生活を整えるという視点で、高齢者や環境を観察し、必要な支援を見出すことができる。						◎
		② 計画力	必要な援助を安全・効果的に実施するための計画がたてられる。						◎
		③ 創造力	必要な援助を安全・効果的におこなうための方法を考えることができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の考えを表現することができる。						◎
		② 傾聴力	他者の話や意見を丁寧に聞くことができる						◎
		③ 柔軟性	自分とは異なる意見を受け留めることができる。						◎
		④ 状況把握力	全体的な視野で状況を把握し、助言を受けながら必要な行動がとれる。						◎
		⑤ 規律性	ルールを守れる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスコントロールのための行動を実践できる。						◎
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場や状況を考えた行動ができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					10	5			85	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								20	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								20	20
	特定の健康課題に対応する実践能力								20	20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				5				20	25
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				5	5			5	15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
主体的に周囲の人（他職種のスタッフ・グループメンバー・ユニットなどの利用者・家族）や環境面・身体面・精神面・社会面から働きかけ、高齢者の生活を心地よく整えることができる。					助言を受け、グループメンバーと協力して環境面・身体面・精神面・社会面から働きかけ、高齢者の生活を心地よく整えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 2 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 3 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 4 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 5 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 6 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 7 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 8 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 9 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 10 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 11 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 12 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 13 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		
第 14 回 ／	別途、実習要項を参照のこと	実習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL12S071S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		精神看護学概論 Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	精神看護学は、人間の精神の健康に関する仕組みを追及し、精神の健康の保持増進および疾病の予防を図るとともに、精神に障がいをもつ人々がその人らしい生き方ができるように援助活動を実践、開発する科学である。 本科目においては、精神看護の目的、機能と役割を理解し、社会状況の変化をとらえ、ライフサイクルにおける精神の健康問題の課題および看護の対象について理解し、精神看護に必要な基礎的知識を修得することができるようになる。									
	キーワード	・精神の健康の定義 ・精神障害の捉え方 ・心のしくみ ・人格形成 ・ストレスと危機反応 ・精神看護の変遷			学修教育目標	1）人間の心と社会の変化をとらえ、精神看護の目的、機能と役割について述べることができる。 2）人間の精神の機能と構造を理解して環境への適応、ストレスや危機とその対応を記述できる。 3）ライフサイクルにおける精神の健康問題について記述できる。 4）精神に障がいをもつ人の理解と家族の心理について記述できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
講義の前半は精神の健康とは何かということを軸に、著名な理論家を用いて精神分析の観点から心の仕組みと人格の発達について学修する。またストレスが精神の健康へ与える影響と対処方法(コーピング)、および予防の観点を学修していく。中盤に精神に障がいをもつ方の治療の歴史などを含め、精神障がいの方に対する偏見や人権擁護、家族との絆の再生などの理解を深めていく。家族看護の視点も含めて理解できるように講義を行う。 後半は近年の起こりやすい健康問題に焦点を当て、精神看護とは何か、対象にどのような援助が求められるのかなど、前半の内容を踏まえ、応用的な講義を展開し、精神看護学の概要を学修する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
パーソナリティーの形成、心の発達、発達段階については看護の対象理解として基本的な部分である。1 年次春学期において基本教養科目「人間のこころ」人間の健康生活と保健「発達心理学」を履修しており関連が深い。復習をかねて予備知識を持っておくとさらに理解しやすい。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：系統看護学講座 精神看護の基礎① 精神看護の展開② 著者名：武井麻子 出版社：医学書院 講義内容によってはプリントを利用する。					書 名：精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 著者名：田中美恵子 編著 出版社：医歯薬出版株式会社 書 名：看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 著者名：山本勝則ほか 編著 出版社：株式会社メデカルフレンド社					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団・域を対象とする看護実践			精神に障がいをもつ人および家族の包括的な理解が出来る。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			ライフサイクルにおける精神の健康問題について理解できる。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			精神看護の実践の場と継続看護について理解できる。						◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			パーソナリティーの形成と環境への適応―ストレスによる危機反応・ストレングスモデルを理解できる。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			ストレスの対処と予防について理解できる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。							◎
		② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。							◎
		③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。							○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。							◎
		② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。							○
		③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。							◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。							◎
		② 傾聴力	相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。							◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。							◎
		④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。							◎
		⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。							◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。							◎
4. 倫理観		① 倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。							◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30	8				3	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		39	10	2				1	52
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5	5						10
	特定の健康課題に対応する実践能力		5	5	2					12
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5	5					1	11
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5	5						10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力				2					2
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力				2					2
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力									1	1
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学修教育目標に対して 80%以上理解できる。					学修教育目標に対して 60%以上 80%未満理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	本科目のオリエンテーション ・精神看護学の位置づけ 精神の健康の定義(WHO、中井による) ・感想（感じたこと、気づいたこと、考えたこと発見したこと）をカードに 60 字以内記入して提出する。以後、毎時記入する。	講義（面接授業）	復習：学生自身の精神の健康状態について説明でき、成長するための課題を記述できる。	30
	試験			
第 2 回 ／	自我の構造、人間の基本的欲求、人間の基本的欲求 ・エゴグラムを記入する。	講義（面接授業）	復習：自我の防衛機制について記述できる。	30
	試験			
第 3 回 ／	ライフサイクルと心の発達	講義（面接授業）	復習：エリクソンによる漸成的発達(青年期)について説明できる。	30
	試験			
第 4 回 ／	ストレス、防衛機制、危機、喪失体験	講義（面接授業）	復習：ストレスについて説明できる。精神障がいの発症について関連しているか説明できる。	30
	試験			
第 5 回 ／	ストレスマネジメント、リエゾンナースの役割 （専門看護師による講義）	講義（面接授業）	復習：ストレスマネジメントについて記述できる。	30
	試験			
第 6 回 ／	ライフサイクルにおける不適応問題(成人期) ①燃え尽き症候群、ワーカーホリック、アパシー	講義（面接授業）	復習：不適応問題と精神保健との関連について記述できる。	30
	試験			
第 7 回 ／	②空の巣症候群、キッチンドリンカー、自我同一性の拡散	講義（面接授業）	復習：不適応問題と精神保健との関連について記述できる。	30
	試験			
第 8 回 ／	現代社会の変遷と人間の成長との関係 家族と精神の健康	講義（面接授業） 小テスト(30 分)	復習：社会の変化と精神保健の関連について記述できる。	30
	試験			
第 9 回 ／	精神看護の対象者の理解 入院患者の心理状態 精神障がいの体験 精神障がいのとらえ方 国際生活機能分類(ICF)	講義（面接授業）	復習：統合失調症の主な症状について記述できる。 「人は人ゆえに病む」を読み、レポートを提出する。	60
	試験、レポートの内容			
第 10 回 ／	地域で生活している精神障がい者の当事者を招き、病の体験 語ってもらう。	講義（当事者参加授業）	復習：当事者の語りを聴講し、レポートを提出する。	60
	レポートの内容			
第 11 回 ／	精神障がいと治療の歴史	講義（面接授業）	復習：日本の精神障がい者の処遇の歴史について記述できる。	30
	試験			
第 12 回 ／	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要 精神保健に関する法の概要 権利擁護 日本の精神科医療の現状と今後の動向	講義（面接授業）	復習：精神障がい者の人権を擁護する規定としてどのような内容があるか記述できる。	30
	試験			
第 13 回 ／	精神科看護倫理綱領、神看護の目的、機能と役割	講義（面接授業）	復習：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律において、入院形態、通信の自由について記述できる。	60
	試験			
第 14 回 ／	看護理論 ・オレム/アンダーウッド、ドロセア・オレム、 ジョイス・トラベルビー まとめ	講義（面接授業）	復習：セルフケアの定義について記述できる。	60
	学びのプロセスシートの作品とまとめ			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL12F072S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		精神看護学援助論 Methodology of Psychiatric and Mental Health Nursing		2単位	必 修	演 習	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		精神看護の対象者が、精神障がいから回復するために必要な専門的知識を理解し、患者－看護師関係を基盤にした看護の技術、方法、理論を修得できるようになる。								
キーワード		・コミュニケーション技術 ・人権擁護 ・患者－看護師関係 ・精神保健福祉法 ・セルフケア理論		学修教育目標		1）精神の健康問題を解決するための看護技術の基礎的知識を記述できる。 2）主な精神障がいの症状およびリハビリテーションと看護を記述できる。 3）患者－看護師関係の基本的要素と成立の重要性について記述できる。 4）精神に障がいをもつ人の人権擁護について記述できる。 5）セルフケア理論を適用して看護上の問題とその解決方法を記述できる。 6）精神医療と保健福祉をめぐる現状と課題、看護の展望が述べられる。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
講義の前半は患者－看護師関係の基本的要素と成立について、その重要性和関係性を構築するための専門的なコミュニケーション技術、法制度に基づいた治療的環境について学修する。さらに精神に障がいをもつ人の人権擁護についても十分な講義を行う。後半は精神看護で関わる主要な疾病の理解と近年の動向に即した健康問題に対する精神看護について、セルフケア理論を基に看護過程の展開を通して具体的な看護援助について学修する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
基礎看護学領域「看護方法論」での基本的なコミュニケーション技術をしっかり復習しておくこと。また専門領域科目「精神看護学概論」についても同等に復習をしっかりとすることが望ましい。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：系統看護学講座 精神看護の基礎① 精神看護の展開② 著者名：武井麻子 出版社：医学書院 講義内容は教科書を基に資料作成し配布する。配布した資料は保管し臨地実習で活用する。				書 名：精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 著者名：田中美恵子 編著 出版社：医歯薬出版株式会社 書 名：看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 著者名：山本勝則ほか 編著 出版社：株式会社メデカルフレンド社						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人－家族集団地域を対象とする看護実践			精神に障がいをもつ人および家族の包括的な理解ができ修得することが出来る。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			ライフサイクルにおける精神の健康問題について理解でき修得することが出来る。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			精神看護の実践の場と継続看護について理解でき修得できる。						◎
④	健康－疾患の連続性を踏まえた看護実践			パーソナリティーの形成と環境への適応－ストレスによる危機反応、ストレングスモデルを理解し修得できる。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			ストレスの対処と予防について理解でき修得できる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。							◎
		② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。							◎
		③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。							◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。							◎
		② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。							◎
		③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。							◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。							◎
		② 傾聴力	相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。							◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。							◎
		④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。							◎
		⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。							◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。							◎
4. 倫理観		① 倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。							◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合 計
総 合 評 価 割 合			59	10	11	10	10			100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		13	3	5	2	2			25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		13	3	1	2	2			21
	特定の健康課題に対応する実践能力		13	3	3	2	2			23
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10	1	2	2	2			17
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10			2	2			14
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学修教育目標に対して 80%以上理解できる。					学修教育目標に対して 60%以上 80%未満で理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	本科目のオリエンテーション ・精神看護学実践の特徴	講義（面接授業）	予習：概論で習った人間の心の構造論について復習する。	30
	試験			
第 2 回 ／	精神看護に必要な技術 ・観察、・コミュニケーション	講義（面接授業）	復習：観察とは、基礎看護学で習った内容を復習する。	30
	試験			
第 3 回 ／	精神に障がいをもつ人のコミュニケーションの特徴 ・専門的コミュニケーション技術	講義（面接授業）	復習：①専門的コミュニケーション技術について記述できる。②主な精神疾患をもつ人に対するコミュニケーションをとる際の注意すべき点について記述できる。	60
	試験			
第 4 回 ／)	患者－看護師関係の成立の重要性	講義（面接授業）	予習：転移感情、逆転移とはどのような現象か記述できる。 復習：共感とはどのような現象か記述できる。	30
	試験			
第 5 回 ／	患者－看護師関係の基本的要素	講義（面接授業）	復習：治療的関係とはどのような対応かを記述できる。患者-看護師関係を発展させる要素について記述できる。	60
	試験			
第 6 回 ／)	プロセスレコードの意義と実際①	講義（面接授業）	復習：学生自身の感情に着目し、対人関係の対処方法について記述できる。	60
	試験			
第 7 回 ／	プロセスレコードの意義と実際② 実習記録用紙を用い、場面（目の見えない人の歩行介助）の実際を記録し提出する。	講義（面接授業）	復習：プロセスレコードを記載する。	60
	プロセスレコードの記載内容			
第 8 回 ／)	プロセスレコードの意義と実際③	講義（面接授業）	復習：プロセスレコードより、看護者としての自己の課題を記述できる。	60
	試験			
第 9 回 ／	治療過程別看護① 外来、入院することの意味	講義（面接授業）	復習：心を病む人の受診行動を支えることとして学生自身にできることは何かを記述できる。	45
	試験			
第 10 回 ／)	治療過程別看護② 治療的環境	講義（面接授業）小テスト①	復習：施設症、ホスピタリズムについて記述し、その看護について記述できる。	60
	試験			
第 11 回 ／	治療過程別看護③ 安全を守る行動制限 保護室入室時の看護、地域で生活する人の理解	講義（面接授業）	復習：行動制限された人（隔離・拘束時）の看護について具体的に記述できる。	60
	試験			
第 12 回 ／	日常生活行動の看護、内発的動機づけ	講義（面接授業）	復習：精神障がい者のセルフケアレベルが低下する要因について記述できる。	60
	試験			
第 13 回 ／	精神障がいをもつ人の身体ケア、地域で生活する人の理解	講義（面接授業）	復習：地域で生活する精神障がい者のための施設と施設の目的（地域活動センター、グループホーム、福祉ホーム、援護寮）について記述できる。	90
	試験			
第 14 回 ／	治療を受ける人の看護 ①薬物療法 ②生活療法(生活指導、作業療法、レクリエーション療法)	講義（面接授業）	復習：①抗精神病薬の種類および副作用の観察、与薬方法、看護の留意点について記述できる。②作業療法、レクリエーション療法における看護師の役割を記述できる。	120
	試験			
第 15 回 ／	症状別看護 ①幻覚・妄想、攻撃、拒否をもつ人の看護	講義（面接授業）	復習：知覚、思考の障がいにはどのようなものがあるか記述できる。	30
	試験			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	②無為・自閉、不安、依存、強迫行為をもつ人の看護	講義（面接授業）	復習：幻覚・妄想、無為・自閉、不安の看護について記述できる。	120
	試験			
第 17 回 ／	統合失調症をもつ人の看護	講義（面接授業）	復習：①統合失調症の症状、治療について記述できる。②統合失調症をもつ人の「生きにくさ」についてどのようなことか記述できる。	90
	試験			
第 18 回 ／	精神科リハビリテーション オレム/アンダーウッドモデルに基づく ①精神看護の方法	講義（面接授業）	復習：無為・自閉、不安、依存、強迫行為をもつ人の看護を記述できる。	120
	試験			
第 19 回 ／	②精神看護の方法 看護過程演習の説明、演習の事前課題の提出をする。	講義（面接授業）小テスト②	復習：退院促進支事業について記述できる。	60
	試験			
第 20 回 ／	精神障がい者を家族にもつ人の参加授業 ・当事者家族を招き、家族の体験を語ってもらう。	講義（面接授業）（当事者家族の参加授業）	復習：当事者家族の体験を聴講して、レポートを提出する。	90
	レポートの内容			
第 21 回 ／	看護過程演習の説明	講義（面接授業）	復習：看護過程の演習、統合失調症（急性期）の事例に関する事前学習をおこなう。	120
	事前学習内容			
第 22 回 ／	気分障がいをもつ人の看護、認知行動療法	講義（面接授業）	復習：①SST の適応、目的について記述できる。 ②気分障害の症状（うつ状態・そう状態）と治療について記述できる。	60
	試験			
第 23 回 ／	水中毒をもつ人・摂食障がいをもつ人・アルコール依存症のある人の看護	講義（面接授業）	復習：VTR を視聴し、摂食障害からの回復には何が必要か記述できる。	30
	試験			
第 24 回 ／	精神科リスクマネジメント ・自殺、暴力、無断離院	講義（面接授業）	復習：自殺予防について記述できる。	60
	試験			
第 25 回 ／	看護過程の演習：情報収集	演習（面接授業）	予習：事例の情報の整理、アセスメントを記述できる（グループワークする内容について先に個人作業して提出する）。	120
	演習の記録物			
第 26 回 ／	看護過程の演習：セルフケアのアセスメント	演習（面接授業）	予習：事例の情報の整理、アセスメントを記述できる（グループワークする内容について先に個人作業して提出する）。	120
	演習の記録物			
第 27 回 ／	看護過程の演習：セルフケアのアセスメント、看護計画の立案	演習（面接授業）	予習：事例の情報のアセスメントを記述できる。 事例の看護計画の立案を記述できる。	120
	演習の記録物			
第 28 回 ／	看護過程の演習： 学びの共有	演習（面接授業）	予習： 看護過程をまとめておく。	120
	演習の記録物			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SNL13F073S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		精神看護学実践実習 Psychiatric and Mental Health Nursing Practicum		2単位	必 修	実 習	3年次	秋学期 （ 集 中 講 義 ）
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		精神に障がいをもつ人が回復するための看護の基礎的能力を修得するために、対象者を総合的に理解して、人権を擁護し、セルフケアレベルを高める看護の方法が身につくようになる。								
キーワード		・関係構築 ・治療的環境 ・多職種連携 ・社会資源の活用 ・自己・他者理解	学修教育目標	1) 精神に障がいをもつ人を医学的、心理的、社会的に理解して記述できる。 2) 精神の健康問題が生活におよぼす影響を理解して精神に障がいをもつ人のケアレベルに応じた看護を実施できる。 3) 患者－看護師(学生)関係の成立の過程の実際を理解して関わりを通して自己洞察したことを記述できる。 4) 精神科医療における治療的環境の特殊性を理解して看護の役割を述べることができる。 5) 他職種とのチームワークや地域社会との連携・社会資源の活用を理解し、精神に障がいをもつ人が地域で生活する現状と課題を記述できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
大阪府内の精神科病院において2週間の臨地実践実習を行う。精神に障がいをもつ入院患者を1名受け持ち、オレム・アンダーウッドセルフケア理論を基に看護過程を展開し、疾患に応じた個別性のある看護ケアを実践する。さらに医療サービスであるデイケアで1日実習を行い、地域で生活している精神に障がいを持つ人の地域支援のための社会資源について学修する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
専門科目「精神看護学概論」「精神看護学援助論」について復習をしておくこと。特に精神科領域に特徴的な法律(精神保健福祉法・障害者総合支援法)の予備知識、人権擁護における倫理的配慮において学修しておく。実習前に実習に必要な事前学修について課題を提示する。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：系統看護学講座 精神看護の基礎① 精神看護の展開② 著書名：武井 麻子 出版社：医学書院				書 名：精神看護学 第2版 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 編著名：田中美恵子 出版社：医歯薬出版株式会社 書 名：看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 著者名：山本勝則ほか 編著 出版社：株式会社メデカルフレンド社						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団・地域を対象とする看護実践			精神に障がいをもつ人の個人―家族・地域生活における現状をアセスメントし看護展開ができる。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			精神に障がいをもつ人の発達課題に応じた看護展開ができる。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			地域で生活する精神に障がいをもつ人に対して、社会資源の活用および、看護ケアについて理解できる。						◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			医学的・心理学的・社会学的側面から精神に障がいをもつ人を捉え、看護展開ができる。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			患者－看護師関係を通して自己洞察し、自己理解・他者理解を深めることができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。							◎
		② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。							◎
		③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。							◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。							◎
		② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。							◎
		③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。							◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。							◎
		② 傾聴力	相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。							◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。							◎
		④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。							◎
		⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。							◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。							◎
4. 倫理観		① 倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。							◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合計
総合評価割合					10	90				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				10	20				30
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力					20				20
	特定の健康課題に対応する実践能力					30				30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力					10				10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力					10				10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
指定している実習評価表に基づいて(学修教育目標を基盤にしている)80%以上理解できる。					指定している実習評価表に基づいて(学修教育目標を基盤にしている)60%以上 80%未満で理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	臨地実習オリエンテーション	臨地実習	予習：実習目的・目標、留意事項の理解と確認 復習：事前学習内容の理解を深める。	45
	受け持ち患者の看護の実際			
第 2 回 ／	受け持ち患者の情報収集（互いに知り合う時期） 受け持ち患者と学生との関係において違和感があった場面をプロセスレコードに記載する。	臨地実習	復習：実習内容の振り返りと明日の課題を明確にするために、文献を活用し実習記録を記載する（プロセスレコード含）。	120
	対象者への看護の実際、プロセスレコードの記載内容			
第 3 回 ／	帰校日 学生カンファレンスを生かした事例の看護についての意見交換をおこなう。	口頭発表	復習：実習内容の振り返りと明日の課題を明確にするために、文献を活用し実習記録を記載する。 発表会のコメントを参考に受け持ち患者の看護の方向性を修正する。	120
	受け持ち患者の看護の発表内容			
第 4 回 ／	看護展開（行動を共にし関係を深めていく時期）	臨地実習	復習：実習内容の振り返りと明日の課題を明確にするために、文献を活用し実習記録を記載する。	120
	受け持ち患者の看護の実際と実習記録			
第 5 回 ／	看護計画表の立案・修正	臨地実習	復習：実習内容の振り返りと明日の課題を明確にするために、文献を活用し実習記録を記載する。 看護計画の修正をする。	120
	受け持ち患者の看護の実際と実習記録			
第 6 回 ／	地域活動支援センターにおいて見学実習 地域で生活する精神に障がいをもつ人と行動を共にして生活の現状を知る。	見学実習	復習：見学実習の学びをまとめる。	120
	見学実習のレポート内容			
第 7 回 ／	看護展開 プロセスレコードの記載をする。	臨地実習	復習：実習内容の振り返りと明日の課題を明確にするために、文献を活用し実習記録を記載する（プロセスレコード含）。	120
	受け持ち患者の看護の実際、プロセスレコードの記載内容			
第 8 回 ／	看護展開（関係を終結していく時期）	臨地実習	復習：実習内容の振り返りと明日の課題を明確にするために、文献を活用し実習記録を記載する。	120
	受け持ち患者の看護の実際と実習記録			
第 9 回 ／	看護展開（関係を終結していく時期） 保護室見学実習	臨地実習・見学実習	復習：実習内容の振り返りと明日の課題を明確にするために、文献を活用し実習記録を記載する。	120
	受け持ち患者の看護の実際と実習記録、見学実習のレポート内容			
第 10 回 ／	事例発表会 学びの共有と他者からのフィードバックを含めた学びの共有と評価	口頭発表	復習：看護の実際の評価およびの学びと自己の成長をまとめる。	120
	受け持ち患者の看護の発表内容と実習記録			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SNL13S074S		専門教育科目 専門看護学領域 （ライフサイクルレベル）		専門看護学演習（オムニバス） Nursing Practice		1 単位	必 修	演 習	3 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的											
	（領域別） 領域別実習の振り返りの結果、実習開始後、安心して学生が看護実習に取り組めない課題として、看護技術力の不足があった。専門看護学各領域の実習が学生にとって意義ある実践実習となり、主体的に実習を展開し実習目標が達成できる目的で、実習開始前に、全領域が分担・協力体制で、各分野の課題について、知識技術の伴う再学習を学内演習として、実施する。										
キーワード	成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学精神看護学、在宅看護論 演習 技術習得 実践実習			学修教育目標	各領域（成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護論）の実習前における知識技術面の到達目標すべてを課題として達成する。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護論での実習で必要とされる内容、技術を各領域の教員により演習を行う。 必ず受講をすることで、実習時での教育効果が向上される。 成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護論での講義内容の復習し演習を受講する。 演習後は実習に向けて行える様、演習内容を繰り返して練習し演習内容が実践できる準備を行っておく。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護論、基礎看護学、情報リテラシー、倫理学、解剖生理学、病理学、生化学、栄養学社会福祉・保障論、薬理学、人間関係論、心理学、疾病論											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
各領域での経験録、学習ノート等					実習開始前までの学修に使った参考書						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			患者の社会背景を理解し、信頼関係が構築できる看護を考え演習での実践が出来る。						◎	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			発達段階を理解して小児、成人、老年、母性などあらゆる年代の患者の理解が出来る。						◎	
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践			小児、成人、老年、母性、精神疾患患者や病院、在宅と言う多様な状況においても、患者理解をしてその人に合ったケアの提供することを考え演習で実践が出来る。						◎	
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			多様な患者に対して健康状態から疾患に罹患するプロセスを理解し演習が出来る。						◎	
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			病院や在宅の環境下にいる小児、成人、老年、母性、精神疾患患者などの患者の主体性を尊重し、患者自身が予防行動を行える様に看護を考え演習で実践が出来る。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			事前の復習を行って、主体的に発言が出来、予習も行うことが出来る。						◎
		② 働きかけ力			他の学生への声掛けし、みんなで授業参加が出来るように促すことが出来る。						◎
		③ 実行力			理解出来ない時もそのままにせず解決する行動が出来る。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			演習での自分の問題点を考える事が出来る。						◎
		② 計画力			演習前に内容を計画し、演習後自分が不十分であったところの計画を立て行う事が出来る。						◎
		③ 創造力			演習内容をイメージし、更に自分自身が出来る看護を考える事が出来る。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			リーダーシップやメンバーシップとして意見をわかりやすく伝えることが出来る。						◎
		② 傾聴力			他者の意見を素直に聞くことが出来る。						◎
		③ 柔軟性			他者の意見や行動に対して、何故かを考えて、お互いに話し合えることが出来る。						◎
		④ 状況把握力			グループ間の雰囲気を理解して何が良くて修正しなければいけない所を考える事が出来る。						◎
		⑤ 規律性			教員やグループ間での約束事や期日を守ることが出来る。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			自分のストレスに対して話すことができ、自分自身もストレスコーピングが出来る。						◎
4. 倫理観		① 倫理性			他者や大学内で道徳的行動が出来る。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					40	50			10	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				10	10			5	25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力				5	10				15
	特定の健康課題に対応する実践能力				10	10				20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				5	10			5	20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				10	10				20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各領域の演習内容と技術を修得して、どの領域の実習でも確実に実践ができる。 実習で演習内容の応用が行えることが出来、更に個性を生かした新たに方法を考え行動し患者に良い変化を与えることが出来る。					各領域の演習内容と技術を修得して、連動性は持てないが習った領域での演習内容をその領域実習では行うことが出来る。 各領域実習で各領域演習内容の想起し行って思う行動が見られる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	全体オリエンテーション、各領域オリエンテーション	面接授業：講義 (6 領域の担当教員)	シラバスの確認・説明内容の復習	30
	授業への取り組み姿勢			
第 2 回 ／	高齢者の理解：高齢者体験	面接授業：講義・演習 老年看護学	p122～139 の日常生活を支える基本的活動 p207～213 の高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	30
	実技・レポート			
第 3 回 ／	高齢者の理解：高齢者体験	面接授業：講義・演習 老年看護学	p 122～139 の日常生活を支える基本的活動 p 207～213 の高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	30
	実技・レポート			
第 4 回 ／	一次救命処置：救命救急処置技術	面接授業：講義・演習 成人看護学	各自で予習を行っておく。 課題レポート（一次救命処置について）	30
	実技・課題レポート			
第 5 回 ／	術後 1 日目の看護：輸液・ライン装着中の寝衣交換 ドレーン管理・チューブ管理	面接授業：講義・演習 成人看護学	授業内容を復習しておく 課題レポート（術後の観察項目と根拠）	30
	実技・レポート			
第 6 回 ／	術後 1 日目の看護：輸液・ライン装着中の寝衣交換 ドレーン管理・チューブ管理	面接授業：講義・演習 成人看護学	授業内容を復習しておく 課題レポート（術後の観察項目と根拠）	30
	実技・レポート			
第 7 回 ／	SST を通して精神障害者とのコミュニケーション技法により 自己分析学習	面接授業：講義・演習 精神看護学	演習により自己分析ができ、今後の自己課題を記述できる。	30
	授業の参加状況・レポート			
第 8 回 ／	SST を通して精神障害者とのコミュニケーション技法により 自己分析学習	面接授業：講義・演習 精神看護学	演習により自己分析ができ、今後の自己課題を記述できる	30
	授業の参加状況・レポート			
第 9 回 ／	新生児の清潔：沐浴	面接授業：演習 母性看護学	沐浴および新生児のフィジカルアセスメントについて	30
	実技			
第 10 回 ／	新生児の清潔：沐浴	面接授業：演習 母性看護学	沐浴および新生児のフィジカルアセスメントについて	30
	実技			
第 11 回 ／	在宅援助論での事例展開の各自の資料を基に家庭訪問の演習を実施	面接授業：演習 在宅看護論	医学書院 在宅看護論 P410～P417 参照 授業内容の見直し	30
	レポート			
第 12 回 ／	在宅援助論での事例展開の各自の資料を基に家庭訪問の演習を実施	面接授業：演習 在宅看護論	医学書院 在宅看護論 P410～P417 参照 授業内容の見直し	30
	レポート			
第 13 回 ／	幼児期前期(1 歳 6 か月・女兒)の清拭・寝衣交換	面接授業：演習 小児看護学	清拭・寝衣交換：清拭・寝衣交換の手順書 静脈持続点滴の確認：確認する部位とその理由	30
	実技			
第 14 回 ／	小児への静脈持続点滴の確認	面接授業：演習 小児看護学	清拭・寝衣交換：清拭・寝衣交換の手順書 静脈持続点滴の確認：確認する部位とその理由	30
	実技			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN11F075S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ		看護倫理学 Nursing Ethics		1 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	1970 年代に米国で提唱された生命・医療倫理学は、人びとの価値観、生命観の変化と人権意識の高まりから誕生した。医療の現場では、医師のみならず看護に従事する看護師の看護倫理学も重視されるようになってきた。看護倫理学では、ケアに必要な看護者の倫理や患者中心の看護倫理の実践方法について学ぶとともに、ディスカッションなどを通して看護の実践的な倫理問題を把握し看護従事者としての倫理問題やジレンマを解決する方法を学ぶ。									
	キーワード	生命倫理 ケア 患者中心の医療 インフォームド・コンセント 対話	学修教育目標	看護の実践的な倫理問題を正しく理解し、それらの諸問題に対して解決できる思考力・実践力を身につけることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
この授業は基本的に講義形式をとりますが、受講者にはただ知識を得ること（インプット）のみならず、自分の頭で考えること、意見を形成すること（アウトプット）をも要求します。授業ではグループディスカッションを行います。グループ内での議論を通じて出した結論をまとめたディスカッションシートを毎回の授業の最後に提出していただきます。 授業後には教科書や配布プリントを使用し、授業で取り扱ったテーマについて復習を行うこと。その際には、単に知識の確認を行うのみならず、倫理的問題に対する自分としての考え方を作り上げてゆくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
倫理は看護におけるあらゆる場面に関連するといつて過言ではありません。予備知識よりはむしろ、自分の頭で思考してゆこうとする積極性が受講者には求められます。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：系統看護学講座 別巻 看護倫理 第2 版 著者名：宮坂 道夫他 出版社：医学書院					書 名：事例でまなぶケアの倫理 著者名：ナーシング・サブリ編集委員会 出版社：MC メディカ出版 書 名：看護倫理 患者の本質を探究・実践する 著者名：石井トク編 出版社：Gakken 書 名：看護のためのコミュニケーションと人間関係 著者名：諏訪茂樹編著 出版社：中央法規					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			患者個人のみにらず、家族やその周りの人々にも倫理的に配慮した看護を実践することができる。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			年代によって異なる人々の価値観を理解し、それに応える看護を実践することができる。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			あらゆる看護の場面において、倫理的な配慮を怠らずに看護を実践することができる。						○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践									
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		医療・看護における倫理的課題に自らの意思で積極的に取り組む主体性を身に付ける。						○
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		倫理的側面から医療・看護の現状を分析し、その目的や倫理的課題を明らかにする力を身に付ける。						◎
		② 計画力		倫理的課題の解決に向け、最も望ましい解決方法を自ら考え抜く計画力を身に付ける。						◎
		③ 創造力		患者の個別状況ならびにその価値観を考慮に入れ、最善の解決方法を生み出す創造力を身に付ける。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自分の意見をわかりやすく伝える力を身に付ける。						◎
		② 傾聴力		相手の意見を丁寧に聴き、理解する力を身に付ける。						◎
		③ 柔軟性		自分とは異なる意見に遭遇した際にも、自らの考えに固執しない柔軟性を身に付ける。						○
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性		規範を知りかつ遵守するのみならず、その規範について考察しその意義を理解する力を身に付ける。						○
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性		他者の権利を遵守しその自発的な意思決定を支える、倫理的思考能力ならびに実践力を身に付ける。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		25		10	15				50
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10		10					20
	特定の健康課題に対応する実践能力		10							10
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5		10	5				20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
「倫理」とは何か、その本質を十分に理解している。 実際の看護の場面において、患者ならびにその周りの人々に倫理的に十分に配慮した看護実践を行うことができる。 自らの倫理観をしっかり持ち、かつ絶えずそれを見つめ直すことができる。 各項目の達成度が 80%以上である。					「倫理」とは何かを理解している。 実際の看護の場面において、患者ならびにその周りの人々に倫理的に配慮した看護実践を行うことができる。 自らの倫理観をしっかり持つことができる。 各項目の達成度が 60～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンス イン트로ダクション 看護倫理を学ぶために、倫理学の基本的な考え方	面接講義ならびにグループディスカッション	予習：教科書序章・1章の予習 復習：教科書序章・1章の復習	20 40
	ディスカッションへの取り組み方は評価対象となる			
第 2 回 ／	生命倫理	面接講義ならびにグループディスカッション	予習：教科書2章の予習 復習：教科書2章の復習、第1回レポート課題	20 180
	ディスカッションへの取り組み方は評価対象となる			
第 3 回 ／	性と生殖の生命倫理	面接講義ならびにグループディスカッション	予習：教科書3章の予習 復習：教科書3章の復習	20 40
	ディスカッションへの取り組み方は評価対象となる			
第 4 回 ／	死の生命倫理	面接講義ならびにグループディスカッション	予習：教科書4章の予習 復習：教科書4章の復習、第2回レポート課題	20 180
	ディスカッションへの取り組み方は評価対象となる			
第 5 回 ／	先端医療と制度をめぐる生命倫理	面接講義ならびにグループディスカッション	予習：教科書5章の予習 復習：教科書5章の復習	20 40
	ディスカッションへの取り組み方は評価対象となる			
第 6 回 ／	看護倫理とはなにか	面接講義ならびにグループディスカッション	予習：教科書6章の予習 復習：教科書6章の復習、第3回レポート課題	20 180
	ディスカッションへの取り組み方は評価対象となる			
第 7 回 ／	専門職の倫理、倫理的問題へのアプローチ	面接講義ならびにグループディスカッション	予習：教科書7章・8章の予習 復習：教科書7章・8章の復習	20 40
	ディスカッションへの取り組み方は評価対象となる			
第 8 回 ／	看護研究の倫理 練習問題、まとめ	面接講義	予習：教科書9章の予習 復習：教科書9章の復習	20 40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授業方法	該 当 年 次	開 講 期
SIN12F076S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ	在宅看護論 Home Health Care Theory		2単位	必 修	講 義	2 年 次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	在宅療養者と家族を支え、意思を尊重した援助を行うために必要な保健医療福祉の制度について理解を深め、多職種連携や協働を通して看護を学ぶ。								
	キーワード	在宅看護 在宅ケアチーム 社会資源・社会制度 家族 地域	学修教育目標	1)在宅看護の歴史・意義および訪問看護ステーションの成り立ちと法的根拠やケアシステムについて説明できる 2)保健・医療・福祉制度と社会資源およびケアマネジメントについて説明できる 3)在宅ケアチームとしての訪問看護の役割と機能について説明できる 4)訪問看護活動の特徴について説明できる					
授業科目の概要及び学修上の助言									
テキストに沿って講義・グループワークを実施する。授業の前半では、在宅看護の概念・在宅療養者と家族の支援・在宅療養を支える看護を学修し、後半では、在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携・在宅ケアを支える制度と社会資源について学修する。そのうえで、次のステップである在宅看護援助論へ向けて、プレ演習やグループワークを行う。授業外学習として、事前学習の予習・復習を行い、授業ノートの準備をしておくこと。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
他の科目との関連：基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護方法論、生活援助技術論、看護過程論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実践実習Ⅰ・Ⅱ									
教 科 書					参考書・リザーブドブック				
書 名：在宅看護論 著者代表：川原加代子 出版社：医学書院									
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		個々の問題や課題を理解し、説明することができる。						○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		個から集団的な視点で、健康問題を考え説明することができる。						○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		在宅において、関係職種と連携しながら継続的に支援していく必要性を理解し、説明することができる。						◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		日常生活の習慣や環境要因が健康にどのように影響を及ぼしているかを説明することができる。						○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		健康を促進していくために、１次予防的な観点で考えることができる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		授業の予習・復習、課題や演習などに積極的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力		周囲の人に働きかけ、協働して取り組むことができる。また、自分の考えを伝えることができる。					○
		③ 実行力		目標達成のために、臨機応変に工夫しながら取り組むことができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。					○
		② 計画力		抽出された問題や課題に対して、具体的な計画を立てることができる。					○
		③ 創造力		多面的や見方や豊かな発想により、新たな視点を取り入れることができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		主体的に自分の考えや意見を述べることができる。					○
		② 傾聴力		他者の考えを傾聴し、質問をすることによって、さらに理解を深めることができる。					○
		③ 柔軟性		自分の考えに囚われることなく、目的に沿った考えを取り入れることができる。					○
		④ 状況把握力		他者の状況を視野に入れ、全体を俯瞰することができる。					○
		⑤ 規律性		社会のルールや約束・マナーを理解し、守ることができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスに対して、自らあるいは他者の援助を受けながら、コントロールすることができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性		相手の立場に立って、行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価									
評価方法 指標と評価割合		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合		50	15	20	15				100
評価 の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	15	15						30
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	5							5
	特定の健康課題に対応する実践能力	5							5
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	20		20	15				55
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	5							5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具 体 的 な 達 成 の 目 安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
保健・医療・福祉制度等の知識を活用し、在宅看護の役割・機能・活動について具体的に説明することができる。				保健・医療・福祉制度等の知識を活用し、在宅看護の役割・機能・活動について説明することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	在宅看護の目的と特徴	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P10～P24 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 2 回 ／	在宅看護の対象者	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P26～P50 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 3 回 ／	在宅看護の対象者	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P26～P50 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 4 回 ／	在宅療養者の支援	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P52～P73 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 5 回 ／	在宅療養者の支援	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P52～P73 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 6 回 ／	在宅療養者の支援	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P52～P73 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 7 回 ／	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P76～P110 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 8 回 ／	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P76～P110 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 9 回 ／	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P76～P110 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 10 回 ／	在宅看護の展開	面接授業 講義・演習・小テスト	予習：教科書 P112～170 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 11 回 ／	在宅看護の展開	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P112～170 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 12 回 ／	在宅看護の展開	面接授業 講義・演習	予習：教科書 P112～170 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 13 回 ／	在宅看護の展開	課題研究による授業 講義・演習	予習：教科書 P112～170 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 14 回 ／	在宅看護の今後の方向性 まとめ	面接授業 講義・演習	予習：今までの講義の復習 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN13S077S	専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ	在宅看護援助論 Home Health Care Support Theory		2 単位	必 修	演 習	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	地域生活者としての在宅療養者とその家族に視点をおいた在宅看護実践を展開するために必要な基礎的な知識と技術を習得する。							
キーワード	在宅看護 生活支援 援助技術	学修教育目標	1) 在宅における生活支援の方法と援助技術を学び、実践に活かす工夫を考えることができる。 2) 医療管理が必要な療養者とその家族に対する看護技術を理解できる。 3) 在宅療養者の状態等の特徴と必要な看護を理解することができる。 4) 在宅療養者の看護過程の特徴を理解し、展開することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
授業科目の概要：実践経験を踏まえた講師による在宅療養者への日常生活支援や医療的処置等の援助技術の演習または関係機関との連携方法等の学習。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
この授業科目は、2 年次に履修した在宅看護論で学んだ知識を基に演習や実習において援助技術を身に付けていくものであり、履修の際は、在宅看護論で習得した知識を再確認することが望ましい。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：在宅看護論 著者代表：川原加代子 出版社：医学書院				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		医療管理が必要な療養者とその家族に対する看護技術を理解できる。○					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		在宅療養者の状態等の特徴と必要な看護を理解することができる。◎					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		在宅における生活支援の方法と援助技術を学び、実践に活かす工夫を考えることができる。◎					
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		在宅療養者の健康―疾患の連続性である看護過程の特徴を理解し、展開することができる。○					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		自身も看護職として成長しようとする姿勢を持ちながら、療養者・家族の生きる意欲や QOL の維持向上をチーム全体で支援していくことができる。○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に“学び”（学修）に取り組むことができる。◎				
		② 働きかけ力		看護を必要とする対象に協働して健康問題に取り組めるよう学び（学修）を進めることができる。○				
		③ 実行力		看護の対象に対し、状況に応じた看護計画を立てられ、問題解決に向けて確実に実践できる。○				
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		対象の心身・社会的側面を踏まえた現状分析ができ、必要な健康問題を明らかにすることができる。◎				
		② 計画力		対象の健康問題を解決するために必要な、具体的・実践的な援助方法を明らかにすることができる。◎				
		③ 創造力		対象の状況の変化を捉えて、更に効果的な看護実践を展開できるよう新たな介入方法を提案できる。◎				
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		指導場面やグループワークで自分の意見を相手が理解しやすいよう論理的に筋道を立てて伝えられる。○				
		② 傾聴力		相手の意見や考えを引き出せるよう表情や相槌など聴く姿勢を配慮し、丁寧に聴くことができる。○				
		③ 柔軟性		意見の違いや立場の違いを理解し、ルールに沿った最善の結果が出るよう円滑な議論を進められる。○				
		④ 状況把握力		自分と周囲との関係性を理解し、自分の役割を把握し、チームにとって最適な行動を実行できる。○				
		⑤ 規律性		社会人としてのマナーを理解し、周囲への影響を考えた責任ある行動をとることができる。○				
		⑥ ストレスコントロール力		適切な人に援助を求める、ストレス解消をするなど、ストレスを成長の機会と捉えることができる。○				
4. 倫理観		① 倫理性		相手の立場に立ち、不利益や苦痛が生じないよう自己批判を繰り返しながら行動することができる。○				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	30				100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力					15				15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力					15				15
	特定の健康課題に対応する実践能力		25		20					45
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		20							20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5							5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
在宅療養者の看護過程の特徴を理解し、援助プランを考え訪問看護の実践に活かすことができる。					在宅療養者の看護過程の特徴を理解し、実践に活かす工夫を考えられる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	看護実践への理論と応用 - 観察・在宅訪問時の面接技術・訪問時のマナー・コミュニケーション -	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P112～137 P410～417 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 2 回 ／	看護実践への理論と応用 - 観察・在宅訪問時の面接技術・訪問時のマナー・コミュニケーション -	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P112～137 P410～417 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 3 回 ／	看護実践への理論と応用 - 観察・在宅訪問時の面接技術・訪問時のマナー・コミュニケーション -	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P112～137 P410～417 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 4 回 ／	看護実践への理論と応用 - 観察・在宅訪問時の面接技術・訪問時のマナー・コミュニケーション -	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P112～137 P410～417 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 5 回 ／	在宅における日常生活援助 - 呼吸、食生活・嚥下、排泄、移動・移乗、清潔、認知機能、コミュニケーション、エンドオブライフケア - ① 日常生活支援の方法と工夫 ② 自助具・介護用品	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P181～232 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 6 回 ／	在宅における日常生活援助 - 呼吸、食生活・嚥下、排泄、移動・移乗、清潔、認知機能、コミュニケーション、エンドオブライフケア - ② 日常生活支援の方法と工夫 ② 自助具・介護用品	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P181～232 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 7 回 ／	在宅における日常生活援助 - 呼吸、食生活・嚥下、排泄、移動・移乗、清潔、認知機能、コミュニケーション、エンドオブライフケア - ③ 日常生活支援の方法と工夫 ② 自助具・介護用品	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P181～232 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 8 回 ／	在宅における日常生活援助 - 呼吸、食生活・嚥下、排泄、移動・移乗、清潔、認知機能、コミュニケーション、エンドオブライフケア - ④ 日常生活支援の方法と工夫 ② 自助具・介護用品	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P181～232 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 9 回 ／	在宅における日常生活援助 - 呼吸、食生活・嚥下、排泄、移動・移乗、清潔、認知機能、コミュニケーション、エンドオブライフケア - ⑤ 日常生活支援の方法と工夫 ② 自助具・介護用品	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P181～232 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 10 回 ／	在宅における日常生活援助 - 呼吸、食生活・嚥下、排泄、移動・移乗、清潔、認知機能、コミュニケーション、エンドオブライフケア - ⑥ 日常生活支援の方法と工夫 ② 自助具・介護用品	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P181～232 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 11 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習 (兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 12 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習(兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 13 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習(兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 14 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習(兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 15 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習(兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習(兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 17 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習(兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 18 回 ／	在宅における医療技術と看護 - 褥瘡ケア、尿道留置カテーテル、ストーマ、経管栄養・在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸器・外来がん治療の支援・疼痛緩和 -	面接授業 講義・演習(兼任講師)	予習：教科書（医学書院）P232～303 を読む 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 19 回 ／	在宅療養者の看護過程の展開（演習）	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P306～313 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 20 回 ／	在宅療養者の看護過程の展開（演習）	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P306～313 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 21 回 ／	在宅療養者の看護過程の展開（演習）	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P306～313 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 22 回 ／	在宅療養者の看護過程の展開（演習）	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P306～313 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 23 回 ／	在宅療養者の看護過程の展開（演習）	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P306～313 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 24 回 ／	在宅療養者の看護過程の展開（演習）	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P306～313 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 25 回 ／	在宅療養者の特徴と在宅看護	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P314～408 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 26 回 ／	在宅療養者の特徴と在宅看護	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P314～408 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 27 回 ／	在宅療養者の特徴と在宅看護	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P314～408 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30
第 28 回 ／	在宅看護者の特徴と在宅看護	面接授業 講義・演習	予習：教科書（医学書院）P314～408 を読む、疾患の理解 復習：講義内容に沿ったまとめのノート作成	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN13S078S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ	看護マネジメント・リスクマネジメント論 Nursing Management・Risk Management		2 単位	必 修	講 義	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	少子・高齢社会、疾病構造や経済状況の変化にともなう保険医療福祉制度改革によって、病院医療を取り巻く環境は大きく、かつてないスピードで変化している。多様なヘルスケアニーズがある現代では、医療従事者の意識も社会に対応することが求められ、社会の要請に応じた看護サービスを提供するために、看護を「しくみ」として捉え、マネジメントする能力が必要になっている。 本科目では、病院経営、病院の仕組み、チーム医療のなかの看護師の役割、看護マネジメント、医療安全などの知識をもとに、組織の現状を認識し、分析し、運営し、変革するための能力を養うことを学修目的とする。								
	キーワード	看護マネジメント、組織、変革、組織文化、看護サービス、問題解決過程、看護提供方式、リスクマネジメント、RCA分析、KYT分析	学修教育目標	① 安全かつ質の高い医療サービスを提供するための根幹となる、病院組織や看護マネジメントを理解し、関連する知識を述べることができる。 ② 看護マネジメントの在り方について、自分なりに考え、意見を示すことができる。 ③ 医療事故防止のための基礎的知識について、述べることができる。 ④ 医療事故防止のための具体的方法について、知識を基に応用することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
授業の前半では、「マネジメント」とはどのようなものか、働く個人と組織がどのように関係しているのかについて考えていく。「マネジメント」とは職位や経験年数に関係なく、より良い看護を提供するために看護師ひとり一人に必要な知識・技術であること、就労環境をより良くするためには必要不可欠な概念であることを理解し、学修した内容を社会人1年目から活用できるよう、積極的に学び、わからない用語については、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。 後半では、「リスクマネジメント」についての学びを深める。医療サービスは人の手で提供する以上、ミスや事故をゼロにすることは難しい。そのような中で、ゼロに近づけるために、医療人ひとり一人がどのような知識を持ち、対策を取らなければならないのかを学修する。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「基礎看護学概論Ⅰ」「看護倫理学」「看護職のための関係法規」「情報の倫理」で学修した内容を想起しておくこと。 4年次春学期に配当されている「統合看護学実践実習」に必要な知識・技術なので、実習前に復習すること。									
教 科 書				参考書・リザーブブック					
書 名：系統看護学講座 看護管理（看護の統合と実践①） 著者名：上泉 和子 他 出版社：医学書院 書 名：ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 著者名：松下 由美子 他 出版社：メディカ出版				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		対象者（個人）から家族までを視野に入れた援助提供をするためにはどのようなシステムが必要かを説明することができる。						△
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		あらゆる年代の人々の生活背景まで考慮した援助提供をするためにはどのようなシステムが必要かを説明することができる。						△
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		看護サービスとは何か。看護サービスを 365 日、24 時間提供するためにはどのような組織構造と組織運営が必要か。マネジメントに必要な知識や技術を理解し、自分なりの意見を伝えることができる。 リスクマネジメントとは何か。リスクマネジメントに必要な知識、状況を正確に把握するための分析と、患者家族・医療者共にとって有効な対策立案ができる。						◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践								
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践								
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		課題、グループワークなどに主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力		学びを深めるためのワークに対して、グループメンバーを巻き込みながら取り組むことができる。					△
		③ 実行力		個別状況に即した問題解決方法を立案することができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を分析し、課題をあきらかにすることができる。					○
		② 計画力		問題解決に向けた、具体的で実践的な解決方法を立案できる。					△
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		グループワークの中で、習得した知識に基づいた見解を筋道を立てて伝えることができる。					△
		② 傾聴力		他者の発言を促す声かけや進行ができる。					△
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力		広い視点で、患者・家族にとって最適な対策を実行できる。					△
		⑤ 規律性		患者・家族や同僚への影響を理解し、責任ある行動を選択することができる。					△
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		患者の意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。					△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	15	10				16	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	2								2
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	40	11	10					16	77
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	7	2							9
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力	10	2							12
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
看護マネジメントとは何か、リスクマネジメントとは何か、その基本的な知識を十分理解している。 看護マネジメント・リスクマネジメントの重要性と看護実践のつながりを十分理解している。 諸問題に対して、看護マネジメント・リスクマネジメントの知識や技術を用いた解決方法を立案できる。 各項目の理解度が 80%以上である。					看護マネジメントとは何か、リスクマネジメントとは何か、その基本的な知識を理解している。 看護マネジメント・リスクマネジメントの重要性と看護実践のつながりを理解している。 諸問題に対して、看護マネジメント・リスクマネジメントの知識や技術を用いた解決方法を立案できる。 各項目の理解度が 60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	看護とマネジメント (1) マネジメントとは (2) 看護におけるマネジメントとは (3) サービスとしての看護とは マネジメントプロセスとマネジメントサイクルについて述べるができる。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・現在の医療において、看護職が行うマネジメント内 容について考える。	30
第 2 回 ／	組織構造とその特徴 (1) 組織とは (2) 病院組織と看護部門 (3) 診療報酬と人員配置 病院内での看護師の役割や立場について述べるができる。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。 ・病院組織の中の看護部門について、マネジメントの 階層や多職種との連携チーム医療に中での看護職の 役割について考える。	30
第 3 回 ／	看護ケアマネジメント (1) 看護サービス提供のしくみ (2) 看護基準と看護手順 (3) 看護体制 (4) 日常業務のマネジメント 看護ケア提供システムの特徴について理解することができる。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	10
第 4 回 ／	チーム医療 (1) チーム医療とは (2) 看護師の責任と役割 (3) 他職種との連携・協働 (4) 情報の活用 情報の管理（診療記録の目的と開示）と、看護職に関係する法律と内容につい てについて理解することができる。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。	10
第 5 回 ／	看護サービスマネジメント① (1) 組織と個人 (2) 人的資源管理 (3) 人材のマネジメント (4) 看護師の継続教育 施設（病院）における教育制度について知る。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、看護師に関係する法律について要点を 中心に復習する。 ・離職を防止するための工夫や方法について考える。	10 30
第 6 回 ／	看護サービスのマネジメント② (1) 施設・設備環境のマネジメント (2) 物品のマネジメント (3) 情報のマネジメント (4) 組織におけるリスクマネジメント (5) サービスの評価 物品管理における「必要・不要の管理」について知る。 事故を防止する施設内体制について知る。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、実習施設のリスクマネジメントなど 要点を中心に復習する。	10
第 7 回 ／	マネジメントに必要な知識と技術 (1) リーダーシップとフォロワーシップ (2) 組織の調整 社会人 1 年目から、組織の中でどのように協働すればいいのかを理解すること ができる。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。 ・大学生になるまでのリーダーシップの経験について 想起しておくこと。	20
第 8 回 ／	看護マネジメントのまとめ (1) 組織の問題解決過程 (2) 組織変革 (3) 組織文化 (4) まとめ 組織における問題解決過程を知り、今までに習った知識を活かしながら解決す ることができるよう、自分なりに理解する。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、第 1 回～第 7 回までの内容の要点を中 心に復習する。	30
第 9 回 ／	医療安全とその取り組み (1) 医療安全対策の背景 (2) 安全管理のしくみ (3) 医療事故の報告制度 看護業務の特性と医療事故の関連について理解することができる。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。 ・医療安全の取り組みについて考える。	20
第 10 回 ／	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント (1) 事故発生のメカニズム (2) 事故分析と事故対策 人間の特性と事故のメカニズムについて理解することができる。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。 ・自分の今までの「失敗」経験を思い出しておくこ と。	20
第 11 回 ／	看護における医療事故と安全対策 (1) 看護業務と事故発生要因 (2) 医療事故の種類 医療事故の種類とそれぞれの発生要因について理解する。	講義（面接授業）	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を 読んでおく。 ・授業終了後、要点を中心に復習する。 ・テレビのニュースや新聞で見聞きした医療事故につ いて、その経緯を整理する。	20
第 12 回 ／	事故分析 (1) R C A分析について フレームワーク型事故分析方法を知る。 (RCA 分析方法について述べるができる。)	講義（面接授業）	事例を基にした事故分析	30
第 13 回 ／	事故対策 (1) 危険予知（K Y T）トレーニングについて フレームワーク型事故分析法を用いて防止対策を考える。 (KYT 演習の意義を述べるができる。)	講義（面接授業）	事例を基に事故対策についての考えをまとめる。	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 14 回 ／	安全文化と医療事故後の対応 1 (1) 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 (2) 医療事故発生時の初期対応の考え方と方法	講義（面接授業）	医療事故、医療安全対策について、不確かな点を整理する。	30
	事故防止対策法を知り、医療人としてどのように行動すべきか、自分の考えを述べることができる。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN14F079S	専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ	災害看護論Ⅰ（国際看護論を含む） Disaster NursingⅠ		1単位	必 修	講 義	4年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	本講義では、東日本大震災の事例を取り上げ、大震災の被害実態、震災が市民や都市にどのような影響を与えたか、震災直後、医師・看護師等の医療従事者はどのように活動したか、生活や都市の復興はどのようになされたかの実際から地域における行政の役割として、保健活動の方向を探求しながら学習する。また、地域での防災に対する平常時からの防災計画や住民への啓発教育、今後20年～30年以内に必ず発生すると言われ、警戒態勢に入っている巨大地震（南海地震、東南海地震、東海地震）への対応策についても考える。							
キーワード	災害看護、健康危機管理、国際看護	学修教育目標	災害看護論の達成目標は、さまざまな災害時における公的役割として健康危機管理における地域看護（保健）活動や国際看護活動について理解し、説明することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
教科書に沿って、講義を行う。我が国の災害の事例から、地域における平常時からの健康危機管理や防災訓練などの準備について学ぶ。また災害時に救援にあたるチームの一員として看護職が担う役割や国際機関等の連携についても学修する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、老年看護学、公衆衛生看護学概論をはじめとする領域別看護学の基礎知識を要するため、既習したことは必ず整理しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：災害看護・心得ておきたい基本的な知識 著者名：小原 真理子 酒井 明子 出版社：南山堂				書 名：公衆衛生看護管理論 著者名：編集 平野 かよ子 出版社：メジカルフレンド社 書 名：グラッ！その瞬間どうする 避難シミュレーションで命を守る！ 著者名：鈴木 敏恵 出版社：教育同人社 書 名：グラッ！その瞬間どうする 避難シミュレーションシート 著者名：鈴木 敏恵 出版社：教育同人社				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		地域における健康危機管理や防災対策について理解できる。					○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		地域で生活するあらゆる年代に災害時に起こり得る状況を予測した看護について考えることができる。					○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		地域において災害時に継続的な支援が必要な対象について理解できる。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		地域で生活する対象者を健康状態と結び付け、平常時から災害時の看護を考えることができる。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		災害時に起こり得る健康への影響を予測し、予防の視点をもった保健活動を考えることができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	授業の予習、復習に自ら主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	目的や目標の達成に向けて、力を発揮し行動できる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	災害時の状況より、何が問題か考え、課題を見つけることができる。					○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	主体的に自分の考えや意見を述べることができる。					○
		② 傾聴力	チームメンバーの意見に耳を傾けることができる。					○
		③ 柔軟性	チームメンバーの意見を柔軟に取り入れることができる。					○
		④ 状況把握力	周囲や災害時の状況を考えながら行動することができる。					◎
		⑤ 規律性	社会のルールや決まりごとを守ることができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じたら、自分の状況に自ら気づいて周りに報告・相談することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	災害時の看護職の職務や倫理ある判断を行うことができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20	10			10	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				3				2	5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		20	5	10	5			3	43
	特定の健康課題に対応する実践能力		30		2	5			2	39
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				1				2	3
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				1				1	2
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力			1	1					2
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力			1	1					2
	地域の健康危機管理能力			1	1					2
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力			1						1
	専門的自立と継続的な質の向上能力			1						1
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
地域での健康危機管理について十分に理解し、説明することができる。 災害時の行政の役割について十分に理解し、説明することができる。 災害時の他職種や国際機関との連携・協力について十分に理解し、説明することができる。					地域での健康危機管理について理解し、説明することができる。 災害時の行政の役割について理解し、説明することができる。 災害時の他職種や国際機関との連携・協力について理解し、説明することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	災害および災害看護の基礎的知識 ① 災害・災害看護の歴史 ② 災害・災害看護の定義 ③ 災害サイクル（静穏期・急性期・中長期）	講義（面接授業）	・災害看護の歴史について（予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 2 回 ／	災害の種類別健康障害と医療、制度 ①災害の種類別の健康障害の特徴 ②災害医療 ④ 災害に関連する制度	講義, 小テスト（面接授業）	・災害に関する制度について（予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 3 回 ／	国際看護活動 ①国際救援の実際と国際看護の役割 ②災害ボランティア活動	講義, 小テスト（面接授業）	・国際 GO と NGO について（予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 4 回 ／	災害各期の看護 ①災害急性期・亜急性期の看護	講義・演習（グループワーク） （面接授業）	・課題レポート（災害看護と私）	30
	課題レポート			
第 5 回 ／	災害中長期の看護 ①仮設住宅における被災者の健康生活支援 ②復興期における看護の役割	講義, 小テスト（面接授業）	・自己防災について（予習） ・避難所の看護について（復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 6 回 ／	災害静穏期の看護 ①病院防災への備え ②災害看護教育 ③地域防災への考え方 ④個人の備え	講義・演習（グループワーク） （面接授業）	・個人に備えについて（予習・復習）	30
	小テスト・課題レポート			
第 7 回	健康危機管理 ―危機管理の体制整備と平常時活動― （地域保健対策の推進に関する基本的指針） ①予防策～非常時に備えた体制整備（平時の防災計画について） ②危機管理体制の整備 ③大災害時に備えた保健活動の体制 ④各自治体での災害防止のための平常時の活動 支援体制の整備、情報整備と安否確認、防災啓発の教育	講義（面接授業）	・危機管理について（予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 8 回 ／	災害発生時の保健活動と地域アセスメント ①初期の保健活動(1)（災害の種類と健康被害の特徴） ②初期の保健活動(2)（直接支援・ニーズ収集・調整） ③被災後の経過に沿った保健活動 ④自然災害時の保健活動の実際 ⑤災害発生後から回復期の保健活動 （2次被害の予防・原因究明、評価、再構築）	講義・演習（グループワーク） （面接授業）	・災害時の保健活動について（予習・復習） ・課題レポート（災害看護と私）	30
	小テスト・課題レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN34F079A	専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ	災害看護論Ⅱ（国際看護論を含む） Disaster NursingⅡ		1単位	選 択	講 義	4年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	本講義では、災害看護論Ⅰでの概論的理解を学修した後、災害時における看護活動の実際に必要な基本的援助の知識及び技術を学修することを目的とする。							
キーワード	災害看護、救援、健康危機管理	学修教育目標	災害看護論Ⅱの達成目標は、地域での公的健康危機管理体制を理解したうえで、様々な災害時の地域看護活動の実践に、活用できるよう、心得ておきたい基本的な知識・技術を修得する。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
災害時の看護活動、救援について、講義、グループワーク、演習の形式で行う。災害看護論Ⅰの講義内容をしっかりと押さえ、技術習得に向けて積極的に参加すると、学習効果は高まる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、老年看護学、公衆衛生看護学概論をはじめとする領域別看護学の基礎知識を要するため、既習したことは必ず整理しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：災害看護 改訂2版 ー心得ておきたい基本的な知識ー 著者名：小原 真理子・酒井 明子 出版社：南山堂 書 名：演習で学ぶ災害看護 著者名：小原 真理子 出版社：南山堂				書 名：グラッ！その瞬間どうする 避難シミュレーションで命を守る！ 著者名：鈴木 敏恵 出版社：教育同人社 書 名：グラッ！その瞬間どうする 避難シミュレーションシート 著者名：鈴木 敏恵 出版社：教育同人社				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		地域における健康危機管理の対象者を全体像で捉え、理解することができる。					○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		災害時に起こり得る状況を踏まえ、災害時の看護の実践について考えることができる。					○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		地域において災害時に継続的な支援が必要な対象について理解できる。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		災害時の地域での対象者の健康状態について理解し、災害時の看護を考えることができる。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		災害時に起こり得る健康への影響を予測し、予防の視点をもった保健活動を考えることができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	授業の予習、復習に自ら主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力	チームメンバーに行動を働きかけて取り組むことができる。					○
		③ 実行力	目的や目標の達成に向けて、力を発揮し行動できる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	災害看護の状況を想像し、何が問題か考え、課題を見つけることができる。					○
		② 計画力	短・中・長期のそれぞれの視点で計画を立てることができる。					○
		③ 創造力	災害時に物品が制限される中、アイデアを出し工夫することができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	主体的に自分の考えや意見を述べることができる。					○
		② 傾聴力	チームメンバーの意見に耳を傾けることができる。					○
		③ 柔軟性	チームメンバーの意見を柔軟に取り入れることができる。					○
		④ 状況把握力	周囲や災害時の状況を考えながら適切な行動することができる。					○
		⑤ 規律性	社会のルールや決まりごとを守ることができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	災害時の看護職の職務や倫理ある判断を行うことができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20	10			10	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				3				2	5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		20	5	10	5			3	43
	特定の健康課題に対応する実践能力		30		2	5			2	39
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				1				2	3
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				1				1	2
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力			1	1					2
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力			1	1					2
	地域の健康危機管理能力			1	1					2
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力			1						1
	専門的自立と継続的な質の向上能力			1						1
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
災害時に起こり得る状況を踏まえた災害時の看護の実践ができる。 災害時の短・中・長期それぞれの計画を立て問題点をアセスメントし、継続的な対策を 考えることができる。					災害時に起こり得る状況を踏まえた災害時の看護の実践について考えることができる。 災害時の短・中・長期それぞれの計画を立てるにあたり問題点を考えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	被災者特性に応じた災害看護(1) ①小児に対する災害看護 ②母性に対する災害看護 ③高齢者に対する災害看護 ④慢性疾患患者に対する災害看護 ⑤身体障がい者に対する災害看護 ⑥精神障がい者に対する災害看護	講義（面接授業）	・被災者特性に応じた災害看護について （予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 2 回 ／	被災者特性に応じた災害看護(2) 災害急性期に必要な技術 被災者の観察方法とトリアージ	講義（面接授業）	・トリアージについて（予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 3 回 ／	災害時の被災者および援助者の心理 ①災害時における被災者の心理的反応の変化 ②救護者のこころのケア	講義（面接授業）	・サイコロジカル・ファーストエイドについて （予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 4 回 ／	避難所での看護活動としての身体ケア(演習) ①被災者の観察と基本的なケア ②主な外傷と応急措置	講義（面接授業）	・応用包帯法について（予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 5 回 ／	災害と感染症対策 ①災害時に発生しやすい感染症とその機序 ②感染症が発生しやすい災害時の環境的要因 ③避難所のアセスメントと感染症対策	講義（面接授業）	・避難所のアセスメントと感染症対策について （予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 6 回 ／	避難所での感染症予防と対策（演習）	講義・演習（面接授業）	・避難所のアセスメントと感染症対策について （予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 7 回 ／	避難所での感染症予防と対策（演習）	講義（面接授業）	・避難所のアセスメントと感染症対策について （予習・復習）	30
	出席および参加意欲や態度			
第 8 回 ／	世界の健康問題と災害看護活動の課題	講義・演習（面接授業）	・国際緊急援助活動について（予習・復習） ・課題レポート「被災地病院における看護師の役割と 静穏期の準備について」	30
	小テスト・課題レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN14S080S	専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ	総合看護学実践実習 Comprehensive Nursing Practice		2単位	必 修	実 習	4 年次	春学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	既習の学習内容を統合し、学生自らの課題に基づき、主体的・自律的に実習を計画・実施・評価する体験により、看護専門職として、必要な判断力と実践力を高め、保健・医療・福祉チームの一員としての役割を遂行できる能力と調整力を養うことを目的とする。							
キーワード	組織、役割、責任、管理、チーム、安全	学修教育目標	1) 総合看護学実習における自身の課題に気づき探求する能力を養う。 2) 課題に沿った実習計画を立て、実施するための調整力を養う。 3) 複数の対象者に対し、状況に応じた適切な判断力を養う。 4) チーム内での役割と責任を理解し、役割に応じた実践力を養う。 5) チームでの役割を自覚し、自己の考えを適切に他者に伝え、調整できる能力を養う。 6) 実習施設全体の特徴や地域における役割を理解し、看護専門職として期待されている責務を理解できる。 7) 学修したことを自ら振り返り、看護専門職としての展望を持つことができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
看護職としてのマネージメント、看護部長、師長、チームリーダ、メンバーとしてのマネージメント方法があり、対象者にとって安全・安楽でないといけない。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
管理学、社会学、看護全領域、リスクマネージメント学								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
看護学部で作成した実習要項				総合看護学実践実習要項 看護学実習要綱				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		もとの生活に戻ることの理解					○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		それぞれの発達課題、役割を知りその人に応じた看護実践が考えられる。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		生活の場がどのような状況であっても対象者にとって良い状況を考えられる。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		一連の過程を知ることによってそれぞれに応じた看護実践を理解する。					◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		予防行動が疾患の発生要因を少なくすることを理解する。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	自ら主体的に動けるように実践力をつける。					◎
		② 働きかけ力	他者への働きかけ、自らすすんで行う。					◎
		③ 実行力	計画したことは実行し結果を見出す。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	常にこの人にとって良い状態なのか考える。					◎
		② 計画力	問題があれば解決方法をなければより良い方法を計画する。					◎
		③ 創造力	いろいろなものを工夫し対応することができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	考えを自ら発言する。					◎
		② 傾聴力	人の話を聞く力を持ち傾聴する。					◎
		③ 柔軟性	個人の考えを尊重する力を持つ。					◎
		④ 状況把握力	あらゆる情報から必要な情報をくみ取る力がつく。					◎
		⑤ 規律性	規則、ルールなど守ることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを発散する力をみにつける。					◎
4. 倫理観		① 倫理性	周囲に惑わされず正しいことができる。					◎

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合						30			70	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力					5			10	15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力					10			15	25
	特定の健康課題に対応する実践能力					5			20	25
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力					10			20	30
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								5	5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
管理の視点で本来の役割から役割を理解することができる。					管理の視点での役割を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照	実習要項に準ずる		
第 2 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 3 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 4 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 5 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 6 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 7 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 8 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 9 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 10 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 11 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 12 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 13 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			
第 14 回 ／	総合看護学実践実習 実習要項参照			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN34S081S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ		総合看護学基礎演習 Nursing Basic Practice		1 単位	選 択	演 習	4 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	社会の中で看護師・保健師として活動していくためには、その免許を有する必要がある。そのため、必要な専門職としての看護師・保健師を目指した看護教育を学生は学習してきたが、その達成目標は、その免許を得ることである。これら免許を有するにふさわしい最低限度の基本的知識と臨床能力（技能）を確実に修得できるために、今まで学んできた専門基礎分野及び専門分野の必修基礎知識について、全教員体制でもって総合的に重要な学習内容や方法等を情報提供し、確認することで学生の学習意欲を高め、国家試験対策の基礎演習とする。									
	キーワード	看護の基本的知識 看護の臨床能力 必修基礎知識 国家試験	学修教育目標	平成 28 年版保健師助産師看護師国家試験出題基準にもとづいて、保健師と看護師の各領域ごとの課題を理解できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
4 年間の勉強・学修の総まとめである。必修問題や各科目の知識に通じてなければならない。分からないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
看護学部で勉強したすべての科目と関連がある。国家試験問題を常に解きながら勉強にのぞむこと。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：でた！でた問、看護師国家試験高正答率過去問題集 著者名： 出版社：東京アカデミー 書 名：クエスチョン・バンク保健師 国家試験問題解説 著者名： 出版社：MEDIC MEDIA				書 名：看護師国家試験出題基準 クイックリファレンス 「系統看護学講座」との対照 著者名： 出版社：医学書院 書 名：系統別看護師国家試験問題、解答と解説 著者名： 出版社：医学書院						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践									
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践									
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践									
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			看護師免許を有するにふさわしい最低限度の基本的知識と臨床能力（技能）を修得できる。○						
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			専門基礎分野及び専門分野の必修基礎知識について、総合的に重要な学習内容や方法等を確認し、理解することができる。○						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自ら進んで取り組むことができる。○						
		② 働きかけ力		他の人にも働きかけ皆で国家試験に合格する。○						
		③ 実行力		自ら考えて実行していく。○						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		総合的にどんな問題にも解答ができるように問題を突き詰めていく。○						
		② 計画力		計画的に半年間を使って実力を高めていく。○						
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自ら発信して学習の輪を広げていく。○						
		② 傾聴力		他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。○						
		③ 柔軟性		どんな問題が出てきても対応できる。○						
		④ 状況把握力		状況を見ながら実力を国試合格まで高めることができる。○						
		⑤ 規律性		規律正しく他人との交流を図って実力を高めることができる。○						
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスに耐えることができる。○						
4. 倫理観		① 倫理性		相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。○						

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	35	10					100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	6	1					17
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10	6	1					17
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	6	1					17
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10	6	1					17
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	6	1					17
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		1	1	1					3
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		1	1	1					3
	地域の健康危機管理能力		1	1	1					3
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		1	1	1					3
専門的自立と継続的な質の向上能力		1	1	1					3	
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
すべての項目の知識に精通し、国家試験問題に対して正答を出せる。					個々の項目の知識に精通し国家試験問題に正答を出せる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス：この授業の進め方、学内の国試関連情報、採点システムなど	演習 面接授業	復習	30
第 2 回 ／	看護師 基礎医学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 3 回 ／	看護師 基礎医学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 4 回 ／	看護師 基礎看護学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 5 回 ／	看護師 在宅看護学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 6 回 ／	看護師 保健統計・社会保障領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 7 回 ／	看護師 成人看護学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 8 回 ／	看護師 老年看護学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 9 回 ／	看護師 小児看護学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 10 回 ／	看護師 母性看護学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 11 回 ／	看護師 精神看護学領域	演習 面接授業	予習・復習	30
第 12 回 ／	看護師 教科書：でた！でた問、 看護師 国家試験高正答率過去問題集の活用	演習 面接授業	予習・復習	30
第 13 回 ／	保健師国試対策 1	演習 面接授業	予習・復習	30
第 14 回 ／	保健師国試対策 2	演習 面接授業	予習・復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN34F081A		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ		総合看護学応用演習 Nursing Applied Practice		3 単位	選 択	演 習	4 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	学生は、総合看護学基礎演習で看護職の基本的知識・技能の必修学習内容を確認している。応用演習でも、前回に引き続き全教員体制で対応し、これら学習内容の上積みをめざし、確実な知識・技術等の修得ができるよう具体的事例（過去の問題・予測問題）の実際演習や体験的学習を増やして知識の定着をはかる。また、実際教育は統合教育内容で学習しているので、看護師に必要な知識・技能の内容と保健師に必要な知識・技能の内容の整理もおこない、国家試験対策をめざした応用演習とする。									
	キーワード	看護の基本的知識 看護の臨床能力 必修基礎知識 状況設定問題 国家試験	学修教育目標	1 看護師の必修問題を考える基礎的知識の修得と上積みが出来る。 2 看護師の一般問題対応の知識を各領域ごとに定着させ、応用能力ができる。 3 看護師の状況設定問題を解釈する能力ができる。 4 保健師の地域看護学、保健医療福祉行政論および疫学・保険統計の一般問題と状況設定問題を解釈する能力が身につく。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
4 年間の勉強・学修の総まとめである。必修問題や各科目の知識に通じてなければならない。分からないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
看護学部で勉強したすべての科目と関連がある。4 年間の勉強の集大成であるので、国家試験問題を常に解きながら勉強にのぞむこと。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：オープンセサミシリーズ 看護学Ⅰ 専門基礎科目・基礎看護学、 2 成人看護学、3 在宅看護論・老年看護学・精神看護学、4 小児看護学・ 母性看護学、5 社会保障制度と生活者の健康 著者名： 出版社：東京アカデミー 書 名：クエスチョン・バンク 保健師 国家試験問題解説 著者名： 出版社：MEDIC MEDIA					書 名：系統看護学講座、全 65 巻 著者名： 出版社：医学書院 書 名：系統別看護師国家試験問題、解答と解説 著者名： 出版社：医学書院 書 名：でた！でた問、看護師 国家試験高正答率過去問題集 著者名： 出版社：東京アカデミー WEB：系統別看護師（保健師）国家試験問題WEB 提供：医学書院					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践									
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践									
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践									
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			看護師免許を有するにふさわしい最低限度の基本的知識と臨床能力（技能）を修得できる。○						
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			専門基礎分野及び専門分野の必修基礎知識について、総合的に重要な学習内容や方法等を確認し、理解することができる。○						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自ら進んで取り組むことができる。○						
		② 働きかけ力		他の人にも働きかけ皆で国家試験に合格する。○						
		③ 実行力		自ら考えて実行していく。○						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		総合的にどんな問題にも解答ができるように問題を突き詰めていく。○						
		② 計画力		計画的に半年間を使って実力を高めていく。○						
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自ら発信して学習の輪を広げていく。○						
		② 傾聴力		他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。○						
		③ 柔軟性		どんな問題が出てきても対応できる。○						
		④ 状況把握力		状況を見ながら実力を国試合格まで高めることができる。○						
		⑤ 規律性		規律正しく他人との交流を図って実力を高めることができる。○						
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスに耐えることができる。○						
4. 倫理観		① 倫理性		相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。○						

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	35	10					100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	6	1					17
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10	6	1					17
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	6	1					17
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10	6	1					17
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	6	1					17
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		1	1	1					3
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		1	1	1					3
	地域の健康危機管理能力		1	1	1					3
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		1	1	1					3
専門的自立と継続的な質の向上能力		1	1	1					3	
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
すべての項目の知識に精通し、国家試験問題に対して正答を出せる。					個々の項目の知識に精通し国家試験問題に正答を出せる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス	演習 面接授業	演習	30
第 2 回 ／	【看護師】 対策講座 必修問題	演習 面接授業	予習・復習	30
第 3 回 ／	対策講座 必修問題	演習 面接授業	予習・復習	30
第 4 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 5 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 6 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 7 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 8 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 9 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 10 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 11 回 ／	対策講座 人体・疾病・基礎	演習 面接授業	予習・復習	30
第 12 回 ／	対策講座 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 13 回 ／	対策講座 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 14 回 ／	対策講座 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 15 回 ／	対策講座 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	対策講座 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 17 回 ／	対策講座 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 18 回 ／	対策講座 在宅・老年・精神看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 19 回 ／	対策講座 在宅・老年・精神看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 20 回 ／	対策講座 在宅・老年・精神看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 21 回 ／	対策講座 母性・小児看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 22 回 ／	対策講座 母性・小児看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 23 回 ／	対策講座 母性・小児看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 24 回 ／	対策講座 母性・小児看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 25 回 ／	対策講座 母性・小児看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 26 回 ／	対策講座 社会保障制度	演習 面接授業	予習・復習	30
第 27 回 ／	対策講座 直前講習	演習 面接授業	予習・復習	30
第 28 回 ／	対策講座 直前講習	演習 面接授業	予習・復習	30
第 29 回 ／	対策講座 直前講習	演習 面接授業	予習・復習	30
第 30 回 ／	対策講座 直前講習	演習 面接授業	予習・復習	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 31 回 ／	領域別講義 基礎医学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 32 回 ／	領域別講義 基礎医学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 33 回 ／	領域別講義 基礎医学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 34 回 ／	領域別講義 基礎医学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 35 回 ／	領域別講義 基礎医学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 36 回 ／	領域別講義 基礎医学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 37 回 ／	領域別講義 基礎看護学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 38 回 ／	領域別講義 基礎看護学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 39 回 ／	領域別講義 在宅看護論	演習 面接授業	予習・復習	30
第 40 回 ／	領域別講義 在宅看護論	演習 面接授業	予習・復習	30
第 41 回 ／	領域別講義 社会保障制度・統計	演習 面接授業	予習・復習	30
第 42 回 ／	領域別講義 社会保障制度・統計	演習 面接授業	予習・復習	30
第 43 回 ／	領域別講義 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 44 回 ／	領域別講義 成人看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 45 回 ／	領域別講義 老年看護	演習 面接授業	予習・復習	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 46 回 ／	領域別講義 老年看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 47 回 ／	領域別講義 小児看護学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 48 回 ／	領域別講義 小児看護学	演習 面接授業	予習・復習	30
第 49 回 ／	領域別講義 母性看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 50 回 ／	領域別講義 母性看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 51 回 ／	領域別講義 精神看護	演習 面接授業	予習・復習	30
第 52 回 ／	領域別講義 精神看護 模擬試験 2 回 強化テスト 15 回 小テスト 7 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 53 回 ／	【保健師】 領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 54 回 ／	領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 55 回 ／	領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 56 回 ／	領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 57 回 ／	領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 58 回 ／	領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 59 回 ／	領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30
第 60 回 ／	領域別講義 地域看護論 I、II、 III、IV、保健医療福祉行政論、疫学・保健統計 模擬試験 6 回	演習 面接授業	予習・復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SIN13F082S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ		在宅看護論実践実習 Practice Training of the Home Health Care		2 単位	必 修	実 習	3 年次	秋学期 （ 集 中 講 義 ）
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	在宅ケアと在宅看護の概念のもと、地域包括ケアシステムの構築が求められている地域において、在宅療養者とその家族を理解し、在宅での看護を展開するために必要な看護の実践的能力の基礎を習得する。									
	キーワード	在宅看護 生活支援 援助技術	学修教育目標	1) 在宅で提供する看護の知識、技術を適応できる基礎的実践能力の基本を習得する。 2) 対象のレベルに対応した、プライマリーからターミナルまでの在宅看護の基本を習得する。 3) 在宅看護やケアに必要な他職種との連携・協働を通して、看護の実践能力を養う。 4) 地域在宅ケア（地域医療）チームの一員としての看護の役割を学ぶ。 5) 各施設の機能と役割を理解すると共に継続看護について学ぶ。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
学内オリエンテーション（3年次9月） ・実習（3年次9月～3月） ・訪問看護ステーション（5 日間） および通所系サービス（5 日間）を利用する在宅療養者への看護活動の実際を実習する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
この実習科目は、2 年次及び3 年次に履修した在宅看護論、在宅看護援助論で学んだ知識や技術を基に、地域における施設や事業所において実際に援助技術を実践しながら看護技術を展開する学びの機会となるため、実習の際は、在宅看護論及び在宅看護援助論で習得した知識・技術を再確認することが望ましい。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：在宅看護論 著者代表：川原加代子 出版社：医学書院				なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			医療管理が必要な療養者とその家族に対する看護技術を実践できる。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			在宅療養者の状態等の特徴と必要な看護を実践することができる。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			在宅における生活支援の方法と援助技術を学び、実践に活かす工夫を提案することができる。						◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			在宅療養者の健康―疾患の連続性である看護過程の特徴を理解し、展開することができる。						◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			自身も看護職として成長しようとする姿勢を持ちながら、療養者・家族の生きる意欲やQOL の維持向上をチーム全体で支援していくことができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に“学び”（学修）に取り組むことができる。						◎	
		② 働きかけ力	看護を必要とする対象に協働して健康問題に取り組めるよう学び（学修）を進めることができる。						◎	
		③ 実行力	看護の対象に対し、状況に応じた看護計画を立てられ、問題解決に向けて確実に実践できる。						◎	
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	対象の心身・社会的側面を踏まえた現状分析ができ、必要な健康問題を明らかにすることができる。						◎	
		② 計画力	対象の健康問題を解決するために必要な、具体的・実践的な援助方法を明らかにすることができる。						◎	
		③ 創造力	対象の状況の変化を捉えて、更に効果的な看護実践を展開できるよう新たな介入方法を提案できる。						◎	
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	指導場面や話し合いの場面で自分の意見を相手が理解しやすいよう論理的に筋道を立てて伝えられる。						◎	
		② 傾聴力	相手の意見や考えを引き出せるよう表情や相槌など聴く姿勢を配慮し、丁寧に聴くことができる。						◎	
		③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解し、ルールに沿った最善の結果が出るよう円滑な議論を進められる。						◎	
		④ 状況把握力	自分と周囲との関係性を理解し、自分の役割を把握し、チームにとって最適な行動を実行できる。						◎	
		⑤ 規律性	社会人としてのマナーを理解し、周囲への影響を考えた責任ある行動をとることができる。						◎	
		⑥ ストレスコントロール力	適切な人に援助を求める、ストレス解消をするなど、ストレスを成長の機会と捉えることができる。						◎	
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立ち、不利益や苦痛が生じないよう自己批判を繰り返しながら行動することができる。						◎	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					10				90	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				5				15	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力				5				20	25
	特定の健康課題に対応する実践能力								25	25
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								20	20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								10	10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
在宅療養者の看護過程の特徴を理解し、援助プランを考え訪問看護の実践に活かすことができる。					在宅療養者の看護過程の特徴を理解し、実践に活かす工夫を考えられる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	在宅看護の実際（１．居宅事業所） ① 自己紹介・オリエンテーション ② （受け持ち）ケース紹介・面接	臨地における実践実習① オリエンテーション及び自己紹介	事前学修を確実にに行い、「事前学修ノート」を完成させて、実習に臨むことが必修となる。 オリエンテーション前に担当教員に提出し修正しておく。 実習地域、施設の特徴を調べておく。 出席表、本日記録、事前学習ノートを教員に提出。	45
第 2 回 ／	在宅看護の実際（１．居宅事業所） ① 利用者の生活実態と各施設の役割を理解し病院看護と地域看護の違いを考察する。 ② 地域在宅ケア（地域医療）チームの一員としての看護の役割を学ぶ 利用者の様々な活動に参加し、コミュニケーションを図りながら役割を理解する。	臨地における実践実習② 利用者とのコミュニケーションを図りながら活動に参加し、活動内容の役割を理解する。 利用者の特徴や健康問題を把握し、考える力を養う。	施設利用者の疾患や看護内容、在宅看護の特徴など整理しておく。 記録は翌日実習指導教員から修正を受けた後実習先に提出。	45
第 3 回 ／	在宅看護の実際（１．居宅事業所） 利用者の特徴や健康問題を把握し、地域における活動内容の必要性について考察する。	臨地における実践実習③ 施設支援における利用者の健康問題や活動の必要性について考察する。	より多くの利用者とのコミュニケーションできる、または利用者の話を傾聴できるなど、活動を通して利用者とよりよい関係づくりが出来るように実習に取り組む。 利用者の特徴を知り、健康問題を抽出する。	45
第 4 回 ／	在宅看護の実際（１．居宅事業所） 地域で暮らす際、健康問題をどのように解決していったらいいのかについて考察する。活動の必要性についても考察する。	臨地における実践実習④ 実習で学んだ点、考察した内容について実習指導者に見てもらい、コメントを依頼する。	地域で暮らす際の健康に関する問題点について解決策をグループワークで検討する。 利用者が参加する活動内容の必要性や役割について考察する。	45
第 5 回 ／	在宅看護の実際（帰校日） 施設の役割、利用者の特徴や健康課題、地域の健康問題と取り組みについて自分なりの考えをまとめる。	臨地における実践実習⑤ 学内で実習内容をまとめる。	居宅事業所の特徴や地域における役割について、字残学修の内容を参考にしながら、実際に実施した活動内容を振り返り、学んだ部分についてまとめる（レポート作成の前準備となる）。	45
第 6 回 ／	在宅看護の実践（２．訪問看護ステーション） ① 自己紹介・オリエンテーション ② （受け持ち）ケース紹介・面接の特徴	臨地における実践実習① オリエンテーション及び自己紹介 ケース（受持事例）の情報収集	事前学修を確実にに行い、「事前学修ノート」を完成させて、実習に臨むことが必修となる。 オリエンテーション前に担当教員に提出し修正しておく。 実習地域、施設の特徴を調べておく。 出席表、本日記録、事前学習ノートを教員に提出。	45
第 7 回 ／	在宅看護の実践（２．訪問看護ステーション） ① 利用者の生活実態と訪問看護の役割を理解し、病院看護と地域看護の違いを考察する。 ② 利用者とのコミュニケーションを図りながら抱えている健康問題を理解する。	臨地における実践実習① 利用者とのコミュニケーションを図りながら、訪問看護の役割を理解する。 利用者の特徴や健康問題を把握し、考える力を養う。	施設利用者の疾患や看護内容、在宅看護の特徴など整理しておく。 記録は翌日実習指導教員から修正を受けた後実習先に提出。	45
第 8 回 ／	在宅看護の実践（２．訪問看護ステーション） 利用者の特徴や健康問題を把握し、地域における活動内容や関係機関との連携・協働等活動内容について考察し、ケアプランを作成する。	臨地における実践実習① 利用者の健康問題の把握方法や地域における役割、関係機関との連携等について考察し、ケアプランを作成する。	利用者の健康問題の把握方法については、看護技術の提供内容やアセスメント内容から把握していく部分と利用者に確認する部分があるので、自分なりに考察すること。地域における役割、関係機関との連携等についても実際の活動内容を把握したうえで考察すること。	45
第 9 回 ／	在宅看護の実践（２．訪問看護ステーション） 地域で暮らす際の健康問題の解決につい検討する。立てたプランを実践する。継続看護の必要性、プライマリーからターミナルについても考察する。	臨地における実践実習① 利用者の健康問題を地域で暮らすという視点で、実践した内容について考察する。	実習を通しての学び、体験して理解できたこと、学修できたこと等について、カンファレンスで情報交換を行い、地域で暮らすという視点で再考した意見を出す。	45
第 10 回 ／	在宅看護の実践（帰校日） 学内で実習の学びとして報告会の中で、情報交換を行う。また、施設を通じての在宅看護活動の実践実習の学びをレポート（1500 字）にまとめる。	臨地における実践実習①	「実習目的・実習目標に掲げる項目を学修できたこと」の報告レポート（1500 字）作成をすること。	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SIN12S083S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ		看護学研究法 Nursing Research Methods		2 単位	必 修	演 習	2 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	看護領域において、学生が自分の興味や関心に基づいて、学習を深めることを目的とする。 そのために資料となる先行研究の文献を調べ、収集し、読み込むとともに、文献について討議することによって、更なる理解を深める。また、収集した資料の取り扱い方についての基本的知識を習得する。										
	キーワード	看護の質・資質の向上・看護学問・社会貢献			学修教育目標	本科目の達成目標は、どのような状態にある対象の、どのような看護支援の課題を考えていこうとすることかという卒業研究のテーマを学生が明確にできることにある。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
看護研究は、多くの医療関係者の参考資料となり、看護全体の質の向上を図る上で非常に役立つ。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
看護のエビデンスを明確にして評価し直し、科学的な看護の実践につなげることが看護研究。患者のニーズに安全・安楽そして安心できる療養、その人らしい生活を提供するための工夫が必要である。つまり、全ての看護領域における基本理念であり、工夫するための看護における知の創造を生み出すことが、研究の目的であり、看護の質を高めるため、研究を重ねていきエビデンスを高める必要な研究技能である。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
書 名系統看護学講座 別巻 看護研究 著者名：坂下 玲子・宮柴智子・小野 博史 出版社：医学書院					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			個人や家族集団及び地域を対症とする先行文献を通して、理解が出来る。						△	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			ライフサイクルにおける健康問題について先行研究文献を通して理解できる。						△	
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践			多様な臨床に即した先駆研究文献を通して継続看護ケアの提供についてのエビデンスを理解できる。						◎	
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			健康にまつわる疾患などに関連した先行研究文献を通して理解できる。						○	
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			ヘルス・プロモーション及び予防に関する先行研究文献を通して理解できる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		①	主体性		看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。						◎
		②	働きかけ力		看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。						○
		③	実行力		対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		①	課題発見力		対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。						◎
		②	計画力		対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。						○
		③	創造力		対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		①	発信力		指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。						◎
		②	傾聴力		相手の発言を促す質問や、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。						○
		③	柔軟性		自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。						○
		④	状況把握力		多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。						○
		⑤	規律性		社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。						○
		⑥	ストレスコントロール力		ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除くことや、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。						△
4. 倫理観		①	倫理性		絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59		21				20	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		59		21				20	100
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学修教育目標に対して 80%以上理解できる。					学修教育目標に対して 60%以上 80%未満理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 2 回 ／	看護研究とは 文献検索の方法	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 3 回 ／	研究方法の特徴と展開（その 1）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 4 回 ／	研究方法の特徴と展開（その 2）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 5 回 ／	研究のプロセス（その 1）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 6 回 ／	研究のプロセス（その 2）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 7 回 ／	各領域における看護研究法について（1）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 8 回 ／	各領域における看護研究法について（2）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 9 回 ／	各領域における看護研究法について（3）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 10 回 ／	各領域における看護研究法について（4）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 11 回 ／	各領域における看護研究法について（5）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 12 回 ／	各領域における看護研究法について（6）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 13 回 ／	各領域における看護研究法について（7）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習および次回の講義の予習	30
第 14 回 ／	各領域における看護研究法について（8）	講義 演習 （面接授業）	授業の復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SIN34S083A		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅰ		看護学研究 Nursing Research		2 単位	選 択	演 習	4 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的		看護領域における看護研究論文を作成することを、本科目の目的とする。 学生は、看護学研究法で選んだ卒業研究について、研究テーマの背景と目的を更に明確にするとともに、研究方法の立案と決定および、研究結果について考察を行う。 論文は、自分の意見や考えを科学的に的確に伝える手段の一つである。									
キーワード		看護学、質的研究、量的研究、文献検索、文献検討 クリティーク	学修教育目標	所定の形式に則って、研究テーマにどのように取り組み、それを解き明かすためにどのようなアプローチを行ってきたのか、分かりやすくかつ、詳しく書くことで、看護研究を客観的に伝えることができる。また、この一連の過程を体験することで、研究的態度を養うことを達成目標とする。 本科目で作成された論文を、卒業論文とする。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
先行研究の文献を調べ、収集し、読み込むとともに、文献について討議することによって、さらなる理解を深める。また、収集した資料の取り扱い方についての基本的知識を習得する。看護学研究(法)論文作成要領に従って、論文を作成する。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
看護学研究法と密接な関連があり、まずは論文を読み込む力が必要となるので、国語力や英語力が予備知識となる。											
教 科 書						参考書・リザーブブック					
なし						なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			個人や家族集団及び地域を対象とする先行文献を通して、理解が出来る。							○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			ライフサイクルにおける健康問題について先行研究文献を通して理解できる。							○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			多様な臨床に即した先駆研究文献を通して継続看護ケアの提供についてのエビデンスを理解できる。							○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			健康にまつわる疾患などに関連した先行研究文献を通して理解できる。							◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			ヘルス・プロモーション及び予防に関する先行研究文献を通して理解できる。							○
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）							
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。							◎
		② 働きかけ力		看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。							○
		③ 実行力		対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。							◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。							◎
		② 計画力		対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。							○
		③ 創造力		対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。							○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。							◎
		② 傾聴力		相手の発言を促す質問や、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。							○
		③ 柔軟性		自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。							○
		④ 状況把握力		多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。							○
		⑤ 規律性		社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる							○
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除くことや、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。							△
4. 倫理観		① 倫理性		絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。							◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合						50			50	100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力					50			50	100
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
評価表のすべての評価項目で4以上の達成ができる。					評価表の評価項目で平均3以上の達成ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 各領域の担当教員から説明があります。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSI11F084S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		公衆衛生看護学概論Ⅰ Introduction to Public Health NursingⅠ		2単位	必 修	講 義	1年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	看護活動の場が病院から地域・在宅へと拡大化する中、看護職活動の基本的視点として下記の学修をする。 公衆衛生看護の理念と目標を理解し地域での看護活動の原則を学ぶ。そのため、公衆衛生や公衆衛生看護の歴史、公衆衛生看護師（保健師）活動の変遷と社会情勢・健康問題との関連性や社会的役割を学修し地域における公衆衛生看護の課題と今後の展望を考える。										
	キーワード	病院看護・地域看護・公衆衛生看護とは 看護活動の場・対象・方法の多様性 個人・家族・集団・地域 社会情勢の変化に対応できる看護 健康に影響する生活環境要因 健康課題への対処行動	学修教育目標	1. 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に関する公衆衛生(地域)看護活動の基礎的な考え方を理解できる。 2. 地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と健康課題への個人及び地域組織の対処行動について理解できる。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
公衆衛生（地域）看護学の成立基盤（概念・歴史）、公衆衛生看護学の対象と方法、社会環境の変化と健康課題（人々の健康に影響する生活環境要因）、地域住民の保健関連行動（個人・組織の対処）の学習を通じて、病人看護のみならず、地域社会に住むあらゆる人々の健康維持増進・疾病予防・健康回復・リハビリテーション等地域における公衆衛生看護活動の基本的知識を学修する。この授業を通じて社会のニーズに対応できる看護職への視点を広げ深めていく基本的科目である。多くの他科目との関連性もあるので、毎回の授業に出席し、教科書の内容を計画的に予習復習を継続し積み重ねていく学習姿勢が公衆衛生看護概念を理解できることにつながる。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
この科目は公衆衛生学、家族看護論、健康教育論、看護職のための関係法規と共に、公衆衛生看護学実践実習Ⅰ、在宅看護論、在宅看護援助論、在宅看護論実践実習に関連する地域での在宅看護活動をめざす看護職に必要な学科目である。 また、保健師資格にかかる公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論、保健指導論、統計、疫学、保健医療福祉行政論、を履修していくための基礎科目として修得が必要である。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：最新保健学講座Ⅰ 公衆衛生看護学概論Ⅰ 著者名：金川 克子 編集 出版社：メジカルフレンド社					書 名：公衆衛生看護学 著者名：津村 智恵子・上野 昌江 編集 出版社：中央法規						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			公衆衛生看護は個人・家族・集団・地域を関連づけた対象とする実践活動であることを理解できる。							○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			公衆衛生看護は地域に住むあらゆる人々に対する看護実践活動であることを理解できる。							○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			公衆衛生看護は地域に存在する多様な場で、人々が必要とする継続的ケアを提供できる関係機関・関係職種の連携体制による看護実践活動であることを理解できる。							◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			公衆衛生看護は健康と疾患が連続性にある概念と踏まえた実践活動であることを理解できる。							◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			公衆衛生看護は地域に住むあらゆる健康レベルの人々に対しヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践活動であることを理解できる。							◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			授業への参加・予習・復習を主体的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力									
		③ 実行力			授業内容の理解が目標達成できるよう前向きに実行できる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			授業の内容を適正に情報解釈できるため、考える・気づき・質問・調べる姿勢で参加できる。						◎
		② 計画力									
		③ 創造力			授業から把握できる各種課題を認識できるために、理解・考えながら予習・復習に臨むことができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力									
		② 傾聴力			授業内容についてしっかり傾聴できる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性			授業参加の学習者の仲間全員が気持ちよく前向きに学習できるよう、積極的にマナーを実践できる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			授業がストレスにならないように楽しく学習できるよう、仲間と共に学習姿勢をはぐくめる。						◎
4. 倫理観		① 倫理性			学習者全員への配慮、学習内容への誠実性の姿勢で行動できる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	45						100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	10						20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10	15						25
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		25	10						35
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		10	10						20
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
地域における公衆衛生看護活動の概要が述べられる。 公衆衛生看護活動の対象が述べられる。 公衆衛生看護活動の場・方法が述べられる。 地域看護活動における多職種・多機関の内容及連携の必要性が述べられる。 公衆衛生看護活動の健康支援内容が述べられる。					地域における公衆衛生看護活動の概要が理解できる。 公衆衛生看護活動の対象が理解できる。 公衆衛生看護活動の場・方法が多様的であることが理解できる。 地域看護活動における多職種・多機関の内容及連携の必要性が理解できる。 公衆衛生看護活動の健康支援内容が理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	全授業の概要について 受講生の動機を知る 公衆衛生看護学の成立基盤 公衆衛生看護学の理念と目的	導入（DVD）視覚教材使用 講義（面接授業） アンケート調査	次回講義の予習	30
	* 毎回：在籍番号順着席厳守・授業前後の主体的挨拶励行・出席確認 * DVD教材からのレポート提出（動機づけ確認）			
第 2 回 ／	公衆衛生看護学の成立基盤 基本概念とその活用	講義（面接授業）	授業の復習と次回講義の予習	60
第 3 回 ／	公衆衛生看護学の成立基盤 基本概念とその活用 公衆衛生看護活動で活用される理論	講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 4 回 ／	公衆衛生看護学の成立基盤 公衆衛生看護学の歴史	講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 5 回 ／	公衆衛生看護学の成立基盤 公衆衛生看護学の歴史	講義（面接授業） 資料配布 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
第 6 回 ／	公衆衛生看護学の構成 活動分野の特性	講義（面接授業） 資料配布 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
第 7 回 ／	公衆衛生看護学の構成 活動分野の特性 地域保健対策の推進に関する基本的な指針	講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 8 回 ／	公衆衛生看護学の構成 活動対象の特性	講義（面接授業） 資料配布 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
第 9 回 ／	公衆衛生看護学の構成 活動の方法	講義（面接授業） 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
	授業前半分の小テスト			
第 10 回 ／	社会環境の変化と健康課題 社会情勢の変遷国際協力	講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 11 回 ／	社会環境の変化と健康課題 健康に影響する生活環境要因・社会病理	講義（面接授業） 資料配布 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
第 12 回 ／	社会環境の変化と健康課題 健康に影響する生活環境要因・社会病理	講義（面接授業） 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
第 13 回 ／	地域住民の保健関連行動 個人の健康課題への対処行動 本科目の要点まとめ（重要事項）	講義（面接授業） 資料配布（重要項目：テストを意識しての内容）	授業の復習と次回講義の予習	60
第 14 回 ／	地域住民の保健関連行動 組織としての健康課題への対処 全体のまとめ（重要事項の再確認）	講義（面接授業）	全授業の重要項目についての総復習 学期末試験の準備	90
	学びのレポート提出・学期末試験			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSI32F084A		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		公衆衛生看護学概論Ⅱ（公衆衛生看護管理論） Introduction to Public Health Nursing Ⅱ		3 単位	選 択	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	地域の健康問題の発見から問題解決に至るまでの、地域における公衆衛生活動の基本と展開方法の基礎的知識について理解し、活動の方向性と実践の手がかりを学修する。									
	キーワード				学修教育目標					
		地域診断（顕在化・潜在化の健康課題） 地域保健計画・実践・評価 社会資源の活用 グループ育成・地域ケアシステムの構築 公衆衛生看護管理 健康危機管理				①地域に顕在化・潜在化している健康課題を把握し、地域診断に基づく活動計画・実践・評価について基本的知識を理解する。 ②住民ニーズの施策化など、地域における組織的な解決方法について基本的知識を理解する。 ③地域に住む人々が自ら健康問題を意識し、健康の保持増進を図り、社会資源を活用できるように、グループを育成し活動を支援することや地域ケアシステムの充実を図ることができる基礎的な知識を理解する。 ④公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自律と人材育成について基本的な知識を理解する。 ⑤健康危機管理の理念と目的、制度とシステム、健康課題及び展開方法について基本的知識を理解する。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
教科書に沿って講義・演習を実施する。授業内容の概要【①地域特性を把握するための地域診断の知識と実際（故郷である住所地で地区視診を実施し、グループワークで深める演習）。②地域における保健計画・事業計画と保健師の役割 ③地方公共団体における保健福祉計画の策定と予算 ④公衆衛生看護管理の特色や諸相 ⑤地域における健康危機管理の知識と実際（平時、大災害時や感染症集団発生時、事後対応の一連の活動）⑥地域ケアシステムづくり（グループ支援と組織化）⑦公衆衛生看護研究の基本】 について公的役割としての地域看護管理の側面から学修する。教科書の内容について計画的・継続的に予習復習を積み重ねて理解していくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
① 保健師資格取得における必修科目である。「公衆衛生看護学概論Ⅰ」を修得後の継続学習に位置づき、本科目は公衆衛生看護活動を管理的側面からの学びになる。 ② 後に続く「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護活動展開論」「保健指導論」へと密接に関連し、4年次「公衆衛生看護学実践実習Ⅱ」の最終編である臨地実習へと継続していくので、各回の授業の予習・復習を計画的に実施し、知識・技術等を蓄積していくことが重要である。その他、「家族看護論」「健康教育論」「統計」「疫学」「産業保健論」「学校保健論」「公衆衛生看護学実践実習Ⅰ」等多くの基礎的科目の修得が必要である。これらについても確実な学習姿勢を続けることが目標達成につながる。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：最新 保健学講座5 『公衆衛生看護管理論』 著者名：平野 かよ子 編集 出版社：メジカルフレンド社					書 名：公衆衛生看護学 著者名：津村 智恵子・上野 昌江 編集 出版社：中央法規 書 名：新版保健師業務要覧 著者名：平野 かよ子 他 編集 出版社：日本看護協会出版会					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			個人・家族・集団・地域を関連付けた公衆衛生看護実践活動を提供できる行政的な仕組みを理解できる。 ○						
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			地域のあらゆる人々が利用できる公衆衛生看護実践活動の人的・物的社会資源の存在意義を理解できる。 ○						
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			地域に存在する多様な場で人々が必要とする継続的サービスを提供できる連携体制やその構築に向けて、組織づくり・地域づくりの意義や公的役割・方法を理解できる。 ◎						
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			健康と疾患が連続性にある概念を基本とした地域保健実践活動を展開できる知識・技術を修得できる。 ◎						
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			地域に住むあらゆる健康レベルの人々に対し健康増進や予防を適切に促進できる組織づくりに協働できる知識・技術を理解できる。 ◎						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			授業への参加、予習・復習を主体的に取り組むことができる。 ◎					
		② 働きかけ力								
		③ 実行力			授業内容が理解し目標達成ができるよう前向きに実行できる。 ◎					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			授業内容に出てくる初めての知識や考えが適正に解釈できるため、考える・気づき・調べる姿勢で参加できる。 ◎					
		② 計画力			達成目標を意識しその都度計画を立て行動できる。 ◎					
		③ 創造力			新しい知識の意味や意義を前向きに理解できる。 ◎					
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			チームの一員であることを常に意識し、自己の意見を述べることができる。 ◎					
		② 傾聴力			授業内容を適切に理解できるよう傾聴すると共に、他者の意見もよく傾聴できる。 ◎					
		③ 柔軟性			人の意見を尊重し、チームとしてのあるべき方向に対しできるだけ多くの意見を反映できる。 ◎					
		④ 状況把握力			全てのメンバーを尊重して行動できるように状況把握できる。 ◎					
		⑤ 規律性			仲間が気持ちよく前向きに学習できるよう、積極的にマナーを実践できる。 ◎					
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			社会人として通用できる誠実な姿勢で行動できる。 ◎					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	15	5				100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		5							5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5							5
	特定の健康課題に対応する実践能力		5							5
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10							10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5							5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		5		15	5				25
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		5	10						15
	地域の健康危機管理能力		5							5
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		5	15						20
	専門的自立と継続的な質の向上能力		5							5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
① 地域診断に基づいて地域の健康課題を明らかにし、解決・改善策を計画立案する基本的能力を理解し主体的に学修できる。 ② 地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める能力を理解し主体的に学修できる。 ③ 個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動・評価する能力を理解し、主体的に学修できる。 ④ 地域の健康危機管理の体制を整え、予防策を講じ、発生時の対応、発生後から回復期に対応するための知識を理解し、主体的に学修できる。 ⑤ 地域の人々の健康水準を高めるため、生活と健康に関する社会資源の開発・システム化・施策化・社会資源の管理・活用ができる基本的能力を理解し、主体的に学修できる。 ⑥ 公衆衛生看護職者として、保健・医療・福祉及び社会に関する最新の知識・技術を主体的・継続的に学び、実践の質を向上させる能力を理解し学修できる。					① 地域診断に基づいて地域の健康課題を明らかにし、解決・改善策を計画立案する基本的能力を理解できる。 ② 地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める能力を理解できる。 ③ 個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動・評価する能力を理解できる。 ④ 地域の健康危機管理の体制を整え、予防策を講じ、発生時の対応、発生後から回復期に対応するための知識を理解できる。 ⑤ 地域の人々の健康水準を高めるため、生活と健康に関する社会資源の開発・システム化・施策化・社会資源の管理・活用ができる基本的能力を理解できる。 ⑥ 公衆衛生看護職者として、保健・医療・福祉及び社会に関する最新の知識・技術を主体的・継続的に学び、実践の質を向上させる能力を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	公衆衛生看護学概論Ⅰでの学修要点の確認 授業計画について 地域診断 地域特性の把握 地域診断の概念・理論モデル	公看Ⅰの学修要点を確認 講義（面接授業） レポート作成	公衆衛生看護学概論Ⅰでの重要点の整理 次回講義の予習	30
	* 毎回：在籍番号順着席・授業開始前後の主体的挨拶・出席確認 * 授業受けるにあたっての心がまえレポート提出			
第 2 回 ／	地域診断 地域特性の把握 地域診断の過程	前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 3 回 ／	地域診断 地域特性の把握 地域診断の過程	前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 4 回 ／	地域診断 地域集団の特性の把握（地域診断の実際） 地域診断の方法・地域概要の把握	前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 5 回 ／	地域診断 地域集団の特性の把握（地域診断の実際） 地域・住民ニーズの把握と分析（地区視診） →学生の郷里の地区視診を冬休みの宿題とし、「実際に歩いて知る」行動の結果、地区視診を作成し提出。（試験扱い） コミュニティ・アズ・パートナーモデル使用	自宅演習(冬休み)： 自分の郷里にて実施 地区視診の実際 （課題研究による授業）	演習課題の作成	90 分以上
第 6 回 ／	地域診断 地域集団の特性の把握（地域診断の実際） 地域・住民ニーズの把握と分析（地区視診） →学生の郷里の地区視診を冬休みの宿題とし、「実際に歩いて知る」行動の結果、地区視診を作成し提出。（試験扱い） コミュニティ・アズ・パートナーモデル使用	自宅演習(冬休み) （課題研究による授業）	演習課題の作成	90 分以上
	地区視診結果を記録化し（様式）、提出			
第 7 回 ／	（1 5 回終了後に実施予定） 地域診断 地域集団の特性の把握（地域診断の実際） 地域・住民ニーズの把握と分析（事例提供）	グループワーク（5 人単位）・発表 （各自の地区視診を資料として情報交換 ）（面接授業） 「グループ間での主体的学び」	各自の地区視診の修正	60
	各グループワークでの討議内容・学習成果を発表			
第 8 回 ／	（1 5 回終了後に実施予定） 地域診断 地区視診の修正・まとめ	グループワークにより、地域診断の内容・意義を深め、4 年次での臨地実習時に確実に作成できることを求める 講義（面接授業）	地域診断のまとめの復習	60
	地区視診修正結果の提出			
第 9 回 ／	事業計画と保健師の役割（活動計画・実践・評価） 活動目標・事業計画の策定 事業計画の見直しと評価 M町実施事例提供(資料) 「地域における保健師活動に関する指針」	前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 10 回 ／	事業計画と保健師の役割（活動計画・実践・評価） 活動目標・事業計画の策定 事業計画の見直しと評価 M町計画書から学ぶ(資料)	前回の要点確認 講義（面接授業） 実在資料を閲覧することで理解を深める	授業の復習と次回講義の予習	60
第 11 回 ／	事業計画と保健師の役割（活動計画・実践・評価） 活動目標・事業計画の策定 事業計画の見直しと評価 M町保健師活動の実践事例から学ぶ	前回の要点確認 講義（面接授業） 実践事例資料提供(ＯＨＰ使用)	授業の復習と次回講義の予習	60
第 12 回 ／	保健福祉計画の策定と予算 地方公共団体における保健福祉対策 予算の仕組み M町の実践実例から学ぶ	前回の要点確認 講義（面接授業） 資料提供(ＯＨＰ使用)	授業の復習と次回講義の予習	60
第 13 回 ／	保健福祉計画の策定と評価 地方公共団体における保健福祉対策	前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 14 回 ／	公衆衛生看護管理 公衆衛生看護管理の特色と基本 公衆衛生看護管理の諸相 ＊本科目での学習重要事項配布し振り返りと予測	前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60

授 業 計 画 表					
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）		授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
				学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 15 回 ／	公衆衛生看護管理 公衆衛生看護管理の特色と基本 公衆衛生看護管理の諸相 ＊前半の学習重要事項確認（学期末試験範囲の提示）		前回の要点確認 講義（面接授業） 資料(提示して順番に読ませる) 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
	前半分の試験				
第 16 回 後半 ／	健康危機時の管理 健康危機管理とは・危機管理体制整備と平常時活動 災害発生時の保健活動		前回の要点確認 講義(実例からの学び)（面接授業） （資料配布・DVD視聴覚教材）	授業の復習と次回講義の予習	60
第 17 回 ／	健康危機時の管理 健康危機管理とは・危機管理体制整備と平常時活動 災害発生時の保健活動		前回の要点確認 講義(実例からの学び)（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 18 回 ／	地域ケアシステムづくり 地域ケアシステムの構築 ネットワーク形成とシステムづくりの実際(事例) ケアシステム構築のポイント・資質 グループ支援と組織化 グループの種類・機能 グループの育成・取り組み 住民組織等		前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布	授業の復習と次回講義の予習	60
第 19 回 ／	地域ケアシステムづくり 地域ケアシステムの構築 ネットワーク形成とシステムづくりの実際(事例) ケアシステム構築のポイント・資質 グループ支援と組織化 グループの種類・機能 グループの育成・取り組み 住民組織等		前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布(事例提示)	授業の復習と次回講義の予習	60
第 20 回 ／	地域ケアシステムづくり 地域ケアシステムの構築 ネットワーク形成とシステムづくりの実際(事例) ケアシステム構築のポイント・資質 グループ支援と組織化 グループの種類・機能 グループの育成・取り組み 住民組織等		前回の要点確認 講義（面接授業） 資料配布(事例提示)	授業の復習と次回講義の予習	60
第 21 回 ／	公衆衛生看護研究 公衆衛生看護研究の基本的理解・公衆衛生看護研究の方法 （テキスト公衆衛生看護学概論Ⅰを持参） 学会発表事例から学ぶ		前回の要点確認 講義（面接授業） 事例紹介 グループワーク(事例検討)	授業の復習と次回講義の予習	60
第 22 回 ／	本科目の振り返りとまとめ（重要事項） 国試を意識した重要事項の提示		科目説明の要点確認（面接授業） 全授業重要項目のまとめ資料配布	全授業の重要項目についての総復習 学期末試験の準備	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SS111F085S	専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ	家族看護論 Family Nursing Theory		2単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	家族は、人間が社会生活を営むうえでの基本的な最少単位で、対人関係の基盤であり、地域看護活動の対象となる。ここでは、家族の機能と役割、家族のライフサイクルと危機の実状や、家族と地域社会とのありよう、在宅ケアにおける家族アセスメントと家族支援のアプローチについて理解する。							
キーワード	家族機能 健康危機 在宅ケア 家族支援	学修教育目標	1) 家族とは何かについて説明ができる。 2) 家族のもつ機能を理解し、それらを維持、発展させていくことの必要性を学ぶ。 3) 患者家族の健康危機や諸問題について説明できる。 4) 家族支援の方法や家族教育の実践について事例を用いて看護過程の展開ができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
授業の前半では、家族をめぐる変貌の姿から、家族にかかわる諸課題を講義とグループワークを交えて実施する。授業の後半では、家族関係と社会との関連から在宅ケアと家族支援のアプローチを学修する。 学修課題は、授業計画に則り授業ごとに各自確認し、授業ノートを準備しておくこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
他の科目との関連：「看護職の関係法規」、「公衆衛生看護援助展開論」、「保健指導論」、「在宅看護援助論」								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：家族論・家族関係論 著者名：岡堂哲雄 出版社：医学書院				書 名：家族看護学 理論と実践 著者名：鈴木和子，渡辺裕子 出版社：日本看護協会出版会				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		「家族」とは何か、家族支援の方法や家族教育実践が事例を用いて看護展開できる。					○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		患者家族の健康危機や諸問題を理解し、説明ができる。					○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践							
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		授業の予習・復習、グループワークなどに積極的に取り組むことができる。				○
		② 働きかけ力		自分の考えやその理由を相手に伝えることができる。				○
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		対象の現状を把握し、正しく認識するための情報収集ができる。				◎
		② 計画力						
		③ 創造力		看護実践がより効果的に展開されるように、知識を広め新しい発想ができる。				◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		教員やグループメンバーとの話し合いの場面で、相手の意見を尊重し、自らの発言も相手に正しく伝えることができる。				○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		自分の考えだけに固執することなく、意見の相違や立場の違いを理解し行動することができる。				○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		常に相手の立場に立って、行動することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	41						100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		24	21						45
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15	20						35
	特定の健康課題に対応する実践能力		15							15
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5							5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
「家族」とは何かを充分理解している。 家族の機能を充分理解し、患者家族の健康危機や諸問題について充分説明できる。 在宅ケアにおける家族アセスメントと家族支援のアプローチを充分理解し、事例を用いて看護過程の展開ができる。					「家族」とは何かを理解している。 家族の機能を理解し、患者家族の健康危機や諸問題について説明できる。 在宅ケアにおける家族アセスメントと家族支援のアプローチを理解し、事例を用いて看護過程の展開ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 家族とは何か（１） ①家族をめぐる基本概念 ②家族の変貌	講義講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 2 回 ／	家族とは何か（２） ①わが国における家族の変貌 ②家族看護の視点	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 3 回 ／	夫婦関係論（１） ①配偶者選択と結婚 ②恋愛関係の形成と発展	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 4 回 ／	夫婦関係論（２） ①親密性と性愛の心理 ②夫と妻の役割と常識	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 5 回 ／	夫婦関係論（３） 夫と妻の葛藤と離婚	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 6 回 ／	親子関係論（１） ①ペアレンティングとは ②母性と育児文化	講義・グループワーク （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 7 回 ／	親子関係論（２） ①父性と父性の活性化とは ②祖父母の役割	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 8 回 ／	家族と社会（１） ①家族の生活文化の変貌 ②地域と家族（地域ネットワーク）	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 9 回 ／	家族と社会（２） ①職場と家族 ②高齢化社会と少子化	講義・グループワーク （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 10 回 ／	患者家族と在宅ケア（１） ①患者家族の臨床心理 ②家族の介護機能と支援	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 11 回 ／	患者家族と在宅ケア（２） ①在宅ケアと家族のストレスマネジメント ②患者家族への看護ケア	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 12 回 ／	家族支援のアプローチ（１） ①家族システム理論 ②家族発達段階論	講義・グループワーク （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 13 回 ／	家族支援のアプローチ（２） ①家族教育 ②家族への心理的援助	講義・グループワーク （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
第 14 回 ／	家族支援のアプローチ（３） 家族看護の実践	講義・グループワーク （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSI33S086S	専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ	公衆衛生看護活動展開論 Theory of Public Health Nursing		3 単位	選 択	講 義	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	公衆衛生看護活動の原理・原則から、公衆衛生看護活動がめざす地域全体の健康水準の向上のための保健師活動と地域で働く看護職やその他の専門職との連携の必要性を修得する。							
キーワード	ライフステージの特性 心身の健康問題 保健指導	学修教育目標	公衆衛生看護学概論Ⅱで学んだ地域看護活動の基本をふまえ、公衆衛生看護学実習で具体的に展開できる方法を理解できる。また、公衆衛生看護学領域における保健師の専門性や役割について理解できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
各ライフステージの特性・母子保健等の分野ごとの特性並びにその保健指導のポイントを学ぶ。これらの知識をもって、公衆衛生看護学実践実習Ⅱを展開させていく。講義は基本的にテキストに沿って行うが、グループワークも取り入れる予定である。 授業外学習では、指導計画をもとに、事前学習を行い、授業ノートを準備しておくことが望ましい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
他の科目との関連：公衆衛生看護学概論Ⅰ・公衆衛生看護学概論Ⅱ・家族看護論・保健指導論・在宅看護論・在宅援助論等								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：最新保健学講座 公衆衛生看護活動論Ⅰ ライフステージの特性と保健活動 最新保健学講座 公衆衛生看護活動論Ⅱ 心身の健康問題と保健活動 著者名：金川 克子 出版社：メジカルフレンド社 書 名：地域看護診断 第2版 著者名：金川 克子 出版社：東京大学出版会				書 名：公衆衛生看護管理論 著者名：平野 かよ子 出版社：メヂカルフレンド社 書 名：コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版 著者名：金川 克子（監訳） 出版社：医学書院 書 名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会 書 名：公衆衛生看護学 著者名：津村 千恵子・上野 昌江 出版社：中央法規				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践		個々の問題や課題を理解し、説明することができる。					○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		個のみではなく集団的な視点で、健康問題を考え説明をすることができる。					◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		関係機関や関係職種と連携しながら、継続的に支援していく必要性を理解し、説明することができる。					◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践		日常生活の習慣や環境要因が健康にどのように影響を及ぼしているかを説明できる。					○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		健康を促進していくために、1次予防的な視点を含め考えていくことができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	授業の予習・復習、課題や演習などの積極的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力	周囲の人に働きかけ、協働して取り組むことができる。また、自分の考えを伝えることができる。					○
		③ 実行力	目標達成のために、臨機応変に工夫しながら取り組むことができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。					◎
		② 計画力	抽出された問題や課題に対して、具体的な計画を立てることができる。					◎
		③ 創造力	多面的な見方や発想により、新たな視点を取り入れることができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	主体的に自分の考えや意見を述べることができる。					○
		② 傾聴力	他者の意見を傾聴し、さらに質問することによって理解を深めることができる。					○
		③ 柔軟性	自分の考えに囚われることなく、目的に沿った考えを取り入れることができる。					◎
		④ 状況把握力	他者の状況を視野に入れ、全体を俯瞰することができる。					○
		⑤ 規律性	社会のルールや約束・マナーを理解し、守ることができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対して、自らあるいは他者の援助を受けながら、コントロールすることができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って、行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	25		20				100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力		20	15						35
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		5	10		20				35
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		10							10
	地域の健康危機管理能力		10							10
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		10							10
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各ライフステージの特性や領域ごとの特性を理解し、説明することができる。そのうえで、健康問題についての基本的な保健指導ができる。					各ライフステージの特性や領域ごとの特性を理解し、説明することができる。そのうえで、健康問題についての保健指導が説明できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	母子保健活動論（１）	講義（面接授業） 本授業の要点確認	次回講義の予習	30
第 2 回 ／	母子保健活動論（２）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 3 回 ／	母子保健活動論（３）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 4 回 ／	母子保健活動論（４）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 5 回 ／	母子保健活動論（５） 実践実習（乳幼児健診での保健指導）	講義（面接授業） 前回要点確認 個人ワーク・グループワーク	授業の復習と次回講義の予習	60
第 6 回 ／	母子保健活動論（６） 実践実習（乳幼児健診での保健指導）	講義（面接授業） 前回要点確認 実践実習	授業の復習と次回講義の予習	60
第 7 回 ／	成人保健活動論（１）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 8 回 ／	成人保健活動論（２）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 9 回 ／	成人保健活動論（３）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 10 回 ／	成人保健活動論（４） 実践実習（生活習慣病予防活動）	講義（面接授業） 前回要点確認 グループワーク 資料作成	授業の復習と次回講義の予習	60
第 11 回 ／	高齢者保健活動論（１）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 12 回 ／	高齢者保健活動論（２）	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 13 回 ／	高齢者保健活動論（３） 在宅看護ケア・地域包括ケアシステム 実践実習（介護予防活動・媒体作成）	講義（面接授業） 前回要点確認 グループワーク	授業の復習と次回講義の予習	60
第 14 回 ／	高齢者保健活動論（４） 実践実習（介護予防活動・媒体作成） 前半のまとめ	講義（面接授業） 前回要点確認 小テスト	授業の復讐と次回講義の予習 授業の重要項目についての総復習 学期末試験の準備（前半授業）	60
第 15 回 ／	精神保健活動論 前半の確認 後半授業のオリエンテーション	本授業の要点確認 シラバス提示 講義（面接授業）	前半授業の復習と次回講義の予習	60

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	難病保健活動論 障がい者(児)保健活動論	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 17 回 ／	感染症保健活動論 災害時保健活動論	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 18 回 ／	歯科保健活動論 学校保健・産業保健活動要点確認	講義（面接授業） 前回要点確認	授業の復習と次回講義の予習	60
第 19 回 ／	地域活動 実践	講義（面接授業） グループワーク(実習先別) 情報収集(基本的情報) 資料作成	演習課題に沿ってすすめる	60
第 20 回 ／	地域活動 実践	講義（面接授業） グループワーク(実習先別) 情報収集(基本的情報) 資料作成	演習課題に沿ってすすめる	60
第 21 回 ／	地域活動 実践	講義（面接授業） グループワーク(実習先別) 情報収集(基本的情報) 資料作成	演習課題に沿ってすすめる	60
第 22 回 ／	地域活動 実践	グループワーク（面接授業） 学びのまとめ レポート作成	演習課題に沿ってすすめる	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSI33S087S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		保健指導論 Health Guidance Theory		2 単位	選 択	演 習	3 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	本科目は、地域での公衆衛生看護活動の健康教育・健康相談・家庭訪問などの展開方法の基礎となる。講義では、医学的な意味の健康問題だけでなく、生活の問題としてのとらえ方や人々を支援する支援者としての態度を学ぶ。また知識の習得、健康問題の確認、その解決法の発見、健康の価値観の確立や態度および行動の変容、成果の確認や評価などの過程を理解する。										
	キーワード	保健指導、健康診査、健康相談			学修教育目標	対象者が自らの健康問題に気付き主体的に解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・援助技術を選択し、介入することができる基礎的な理解をし、展開過程を考えることができる。 演習では、対象の特性に応じた個別指導や集団指導などの方法や技術が習得できることを目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
教科書に沿って講義、グループワーク、演習を行う。授業の前半では、保健指導の形態や対象者に合わせた指導方法や内容について学修し、保健指導を展開していく基礎を学ぶ。授業後半では、グループに分かれ、保健指導の方法や具体的な内容について考え展開することをグループワークやデモンストレーションなどにより実技演習を行う。 教科書の内容のみならず、不足する情報や深く知りたい情報は、各自が調べておくようにすると、学修効果は高まる。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「健康教育論」「公衆衛生看護援助展開論」をはじめとする保健師選択課程必修科目と内容があらゆる分野で関連しているため、必ず既習したことを整理しておくこと。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：最新保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 著者名：村嶋 幸代 出版社：メヂカルフレンド社					書 名：公衆衛生看護活動論技術演習 第2版 著者名：岩本 里織 出版社：クオリティケア 書 名：最新保健学講座 3 公衆衛生看護活動論① 著者名：金川 克子 出版社：メヂカルフレンド社 書 名：最新保健学講座 4 公衆衛生看護活動論② 著者名：金川 克子 出版社：メヂカルフレンド社						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			保健指導が必要な対象について理解できる。							○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			あらゆる年代のライフステージを考慮した保健指導を考えることができる。							○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			継続的な保健指導が必要な対象について理解できる。							◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			対象者の生活背景や健康状態を結び付け全体像として捉えることができる。							◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			予防の視点や対象者に対し見通しをもった保健指導を考えることができる。							○
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			授業の予習、復習、課題や演習などに自ら主体的に取り組むことができる。						○
		② 働きかけ力			相手に説明し理解を得るために行動して働きかけることができる。						○
		③ 実行力			目標達成に向けて、メンバーの力が発揮できるよう働きかけることができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			自ら情報収集を行いアセスメントし、問題や課題を見つけることができる。						◎
		② 計画力			出てきた問題や状況にその都度合わせた計画立てた学修ができる。						◎
		③ 創造力			パターンではなく、柔軟な発想や思考をすることができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			主体的に自分の考えや意見を述べることができる。						○
		② 傾聴力			メンバーの意見に耳を傾けることができる。						○
		③ 柔軟性			相手の意見に柔軟に取り入れることができる。						○
		④ 状況把握力			周りの状況を考えながら行動することができる。						◎
		⑤ 規律性			社会のルールや決まりごとを守ることができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを感じたら、自分の状況に自ら気づいて周りに報告や相談することができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性			保健指導を実施する上での、看護職として倫理ある行動ができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		15	15			20	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		5						2	7
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10		5	5			2	22
	特定の健康課題に対応する実践能力		5						2	7
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5						2	7
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								2	2
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		5		5	5			2	17
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		5		5	5			2	17
	地域の健康危機管理能力		5						2	7
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		5						2	7
	専門的自立と継続的な質の向上能力		5						2	7
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保健指導の必要な対象について十分に理解し、説明することができる。 保健指導を行う各形態について十分に理解し、適切な方法を選択し説明することができる。 対象者の抱える問題や相談に応じた、適切な保健指導の展開ができる。 継続的な保健指導が必要かを考え、今後の見通しをアセスメントすることができる。					保健指導の必要な対象について理解し、説明することができる。 保健指導を行う各形態について理解し、適切な方法を選択することができる。 対象者の抱える問題や相談に応じた、保健指導の展開ができる。 継続的な保健指導が必要かどうかを考えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	公衆衛生看護支援技術の特性 保健指導の目的と各接近方法の技法・技術の特色	オリエンテーション 講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 2 回 ／	保健指導技術と展開 保健指導における役割と対象の選定と優先順位	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 3 回 ／	健康相談(1)	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 4 回 ／	健康相談(2) 妊産婦・乳幼児保健指導	講義・演習（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 5 回 ／	健康相談(3) 妊産婦・乳幼児健康診査と保健指導	講義・演習（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 6 回 ／	健康相談(4) 妊産婦・乳幼児保健指導に必要な社会資源の検討 （グループワーク）	講義・演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	グループワークへの参加意欲、グループ発表案			
第 7 回 ／	健康相談(5) 妊産婦・乳幼児保健指導に必要な社会資源の発表 （グループ発表）	講義・演習（グループ発表） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	グループワーク内容や発表への参加、態度			
第 8 回 ／	健康相談(6) 成人健康相談・特定健康診査と特定保健指導	講義・演習（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 9 回 ／	健康相談(7) 難病における健康相談 精神保健における健康相談	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 10 回 ／	家庭訪問(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 11 回 ／	家庭訪問(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 12 回 ／	家庭訪問(2) 演習「乳幼児の家庭訪問指導内容の検討」（グループワーク）	演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第 13 回 ／	家庭訪問(2) 演習「乳幼児の家庭訪問指導内容の検討」（グループワーク）	演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第 14 回 ／	家庭訪問(3) 演習「乳幼児の家庭訪問指導の準備」（グループワーク）	演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第 15 回 ／	家庭訪問(3) 演習「乳幼児の家庭訪問指導の準備」（グループワーク）	演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 16 回 ／	家庭訪問(4) 演習「家庭訪問指導」発表	演習（プレゼンテーション） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	発表内容			
第 17 回 ／	家庭訪問(4) 演習「家庭訪問指導」発表	演習（プレゼンテーション） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	発表内容			
第 18 回 ／	家庭訪問(5) 家庭訪問指導実施の評価とまとめ	演習（プレゼンテーション） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 19 回 ／	家庭訪問(5) 家庭訪問指導実施の評価とまとめ	演習（プレゼンテーション） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	個人レポートおよび発表			
第 20 回 ／	グループ支援 グループ支援の基本姿勢 健康課題別のグループ支援	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 21 回 ／	健康教育(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 22 回 ／	健康教育(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 23 回 ／	健康教育(2) 演習「健康教育企画書の検討」（グループワーク）	講義・演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第 24 回 ／	健康教育(2) 演習「健康教育企画書の検討」（グループワーク）	演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第 25 回 ／	健康教育(3) 演習「健康教育企画書の作成」（グループワーク）	演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第 26 回 ／	健康教育(3) 演習「健康教育企画書の作成」（グループワーク）	演習（グループワーク） （面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第 27 回 ／	健康教育(4) 健康教育の実施・評価	デモンストレーション（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	発表内容			
第 28 回 ／	健康教育(4) 健康教育の実施・評価	実地演習（臨地）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSI33S088S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		学校保健論Ⅰ Introduction of School HealthⅠ		1単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	学校保健の目的は、学校教育に内在する福祉的機能（守る仕事）と教育的機能（育てる仕事）を統一的にとらえ、実践活動に反映されることによって達成される。よって、学校保健の目的は、1. 心身ともに健康な国民の育成、2. 教育を受ける権利（学習権・発達権）の保障、3. 児童・生徒の生存権・健康権の保障である。 具体的な学校保健活動は、学校内外の諸活動を主要な領域として展開される教育活動で、子ども達の健康に関わる考え方や行動の仕方を育てることに重きを置き、取り組まれる活動と定義でき、その活動の中心的職責を担うのが養護教諭である。以前は、学校保健活動の一環として養護教諭を中心に保健指導が行われてきた。しかし、近年の養育環境や健康課題は多様化・深刻化し養護教諭の活動は拡大傾向にある。よって、本講義の目的は、個人や家族、地域の円滑な保健活動を推進するための基礎的知識を学修することにある。									
	キーワード	学校保健活動 健康教育 保健管理 環境問題	学修教育目標	学校生活の中で行われる学校保健の責務は何か、その内容や具体的な実践を理解する。 個人や家族、地域の今日的な健康課題の解決のための保健学習の必要性が理解できる。 学校現場における養護教諭の果たす役割が理解できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
学校保健における健康教育は、子ども達の健全な発育発達と健康の維持増進に必要な知識の習得を目指している。また、近年は甚大な災害や重大な事件・事故が多発し、子ども達の安全教育も重要な課題となった。その他、環境問題や感染症、食中毒など子ども達を取り巻く社会環境は大きく変化し、生活習慣の悪化やモンスターペアレントの出現など家庭養育力も著しく低下した。このような諸問題を抱えている学校では、知識レベルの低い教員を受け入れたくないというのが率直な気持ちである。しかし、経験の浅い教育者に良いところは、若いからこそ元気に子どもの頃を覚えていたことや思い出せたことを基盤に懸命に取り組むことができる。よって、子ども達の健康や健やかな成長を願う教員としての資質を高かめ、経験不足を高い教養で補うためにも、基本的知識を段階的に展開するため、意欲的に取り組んでほしい。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
学校保健領域における健康教育は、発育発達期の子ども達の健康の保持増進と体力・運動能力向上に必要な知識として位置づけられており、発育発達学や小児スポーツ医学をはじめ、運動生理学や病理学、精神衛生学、公衆衛生学、環境学など広範な知識が基盤にあり、それぞれの基礎的知識を事前に有することで、より学習内容が理解できる。										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
学校保健必携より基本事項を抜粋し、毎時プリントを配布します。					書 名：学校保健ハンドブック 著者名：教員養成系大学保健協議会編 出版社：ぎょうせい					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			個人や家族、地域での健康生活の実態とその課題を理解する。◎						
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			個人や家族の将来的な健康獲得に必要なかつ適切なライフスタイルのあり方を学修する。○						
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			学校現場や地域社会で重要な健康とライフスキルを展開、定着させる必要性を学修する。◎						
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			学校や地域社会において、健康の保持増進や疾患予防に関する健康教育介入の役割を理解する。○						
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			学校という組織の中で健康を獲得するための方策の発信源として、どのような責務があるかを学修する。◎						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			子ども達の健康観察力を高め、健康の維持増進と疾病予防に取り組むことができる。◎					
		② 働きかけ力			最新の医科学的な情報を提供し、子どもや地域社会に発信できる能力を学修することができる。○					
		③ 実行力			知識（わかる）よりも行動（できる）を重視したライフスタイルの改善を指導することができる。◎					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			日常的に子ども達の学校生活を観察し、健康状態に的確に対応した保健指導ができるようになる。◎					
		② 計画力			ヘルスプロモーションの考え方から、健康教育を実践する具体策が提示できるよう実践力を獲得することができる。○					
		③ 創造力			「知識だけではだめ、意欲や態度が必要」と知識とは異なる情意的能力を開発することができる。○					
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			適切な健康生活確立に必要なライフスタイルのあり方をわかりやすく子ども達や家庭に伝えることができる。◎					
		② 傾聴力			子ども達や保護者の自発的な申し出を最大限に引き出し、適切な対応ができる。○					
		③ 柔軟性			成長期に即した心の健康問題などの心身の変化について早期に発見して援助活動することができる。○					
		④ 状況把握力			健康問題や今日的課題について常に情報を得られるように心掛ける最適な行動をすることができる。◎					
		⑤ 規律性			集団としての自覚を深め、協力して、より良い生活を築こうとする自主的・実践的態度を育てることができる。○					
		⑥ ストレスコントロール力			表情や行動の変化を確認しながら、メンタルヘルスへの悪影響を考慮することができる。○					
4. 倫理観		① 倫理性			実施効果の速効性や効率化を追求するために非民主的運営を是正することができる。○					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される
 ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される
 △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く
 ○:通常の状況で発揮する力が身に付く
 △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30	20					100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5	10					25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5	5						10
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	5						15
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5	5						10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	5						15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		5							5
	地域の健康危機管理能力		5	5	10					20
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・健康教育プログラムが好ましい結果を生み出すために綿密に計画され、子ども達が快適かつ安全な生活が営める健康教育が円滑に推進できる。 ・健康観察により把握された健康上問題のある子ども達に対し適切に健康指導できる。 ・保護者や地域社会に対し、疾病予防や養育環境に関し適切な助言をすることができる。 ・感染症対策や環境問題に積極的に取り組むことができる。					・健康教育プログラムが綿密に計画され、子ども達が安全な生活が営める健康教育が円滑に推進できる。 ・健康観察により把握された健康上問題のある子ども達に健康指導できる。 ・保護者や地域社会に対し、疾病予防や養育環境に情報発信できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	学校保健の目的とその意義 ①健康の考え方、学校保健の目的とその根拠 ②学校保健の歴史と行政、制度の変遷	法令を含めた健康教育の変遷について、配布資料を通読して、P.P を中心とした講義を展開する。	健康教育の歴史と制度の変遷（復習）	20
	小テスト			
第 2 回 ／	保健学習の課題とその評価 ①学習指導要領に基づく保健学習 ②養護教諭としての責務と力量形成	健康教育の変遷を通して、健康増進の必要性について、P.P を中心とした講義を展開する。	健康増進の意義とその重要性（復習）	20
	小テスト			
第 3 回 ／	学校における保健指導の位置づけ ①学校における保健指導の様々な機会 ②特別活動における保健指導	保健活動を含めた健康指導の問題点について、P.P を中心とした講義を展開する。	学校生活や課外活動における健康指導（復習） 健康観察の必要性とその内容（予習）	40
	小テスト			
第 4 回 ／	児童・生徒の健康把握とその評価 ①健康観察や健康診断の目的とその意義 ②健康評価と健康情報の活用	子ども達の健康問題を配布資料や P.P を通して講義を展開する。	現在の子ども達の生活習慣の現状（復習） 子ども達の体力の現状（予習）	40
	小テスト・レポートⅠ			
第 5 回 ／	児童・生徒の発育発達 ①発育発達の実態と体力の実態 ②健康づくりと体力づくりの課題	臨床的側面から子ども達の発育発達に関する諸問題を理解できるよう講義を展開する。	健康づくりと体力づくりの実際（復習） 子ども達の疾患の現状（予習）	40
	小テスト			
第 6 回 ／	健康障害や感染症の種類とその予防対策 ①児童・生徒にみられる健康問題と主な疾病 ②環境問題や感染症の現状とその対応	様々な健康問題を通して、予防教育の必要性が理解できるよう P.P や板書により講義を展開する。	最近の感染症の現状とその予防（復習）	20
	小テスト			
第 7 回 ／	精神的健康に関わる諸問題とその対応 ①不登校・いじめの実態とその対応 ②精神的健康を維持するための基本的姿勢	非行や行動異常を含めた学校現場における精神的健康に関する諸問題を理解できるよう P.P や板書による講義を展開する。	精神面の健康障害者への指導と対応（復習）	20
	小テスト			
第 8 回 ／	学校環境衛生の重要性とその課題 ①学校環境の考え方と環境衛生管理の実際 ②学校保健安全法と学校環境衛生基準	公衆衛生学的な視点から、環境問題について理解できるよう、P.P や板書により講義を展開する。	環境衛生基準の理解と留意点（復習）	20
	小テスト・レポートⅡ			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSI33F088A		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		学校保健論Ⅱ Introduction of School Health Ⅱ		1 単位	選 択	講 義	3 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学 修 教 育 目 的	教育という概念は学校の独自性はいうまでもなく、機能に密着したものと考えられる。よって、学校保健には、地域保健、公衆衛生学としての側面と教育科学としての観点から、学校保健の独自性は「学校保健は教育の場としての学校における保健活動であり、子どもたちが快適かつ安全に学校生活を営める能力を育む保健教育と教育活動を円滑に推進するための条件整備的な役割を担う保健管理である。」と定義できる。具体的には、保健室業務として日常的な疾病や不定愁訴への対応、健診計画の作成とその評価、応急処置など煩雑な職務が多い。また、学校保健委員会を基盤とした児童生徒や家庭、地域社会への健康指導と安全教育などの企画・運営も含まれる。よって、本講義の目的は、学校保健Ⅰで学修した基礎的知識を基盤に、ヘルシースクールの実践と家庭や地域社会のヘルシーライフに貢献できる資質を学修することにある。										
	キ ー ワ ー ド	保健指導 保健室の管理と運営 学校保健委員会 安全教育		学 修 教 育 目 標	全ての児童生徒に健全な発育・発達を促すライフスキルの重要性を指導することができる。 児童生徒や家庭、地域社会の健康増進に有用な資料や情報が適切に活用できる。 家庭や地域社会がもつ知恵や技術力を活用し、健康問題解決に向けて機能させることができる。 養護教諭として健康プログラムが構築できるように学校と家庭・地域社会と連携させることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
社会が複雑になり健康問題が多様化し、健康に関わる知識は、依然より格段多くなり、以前にも増して複雑な問題を解決する能力が必要になってきている。養護教諭は児童生徒が、将来、出会うであろう地域社会や職場、医療の場で健康増進や疾病予防に貢献できる人材の育成が要求される。そのために、保健学習を通して最低限必要なリテラシーとなるに足り得る知識を修得し、複雑な問題解決能力を身につけることを目指して講義を展開します。そのため知識、理解を基礎としながらも、能力・技術の育成に重点を置き、講義内容を自らのあり方、生き方にまで発展させて考えられるようなヘルスプロモーションの設定や展開方法についてイメージしながら受講してほしい。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
学校保健論Ⅰは子どもや家庭を重視した保健指導の在り方を重視して講義したが、学校保健論Ⅱでは、学校内の組織や地域社会の実態を把握し健康教育に展開するかが課題であり、行動学、社会学、心理学、栄養学、環境学などの基礎知識を有することで、より効率的に学習内容が理解できる。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
学校保健必携より基本事項を抜粋し、毎時プリントを配布します。					書 名：学校保健ハンドブック 著者名：教員養成系大学保健協議会編 出版社：ぎょうせい						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			児童生徒や家族のライフスタイルに積極的に適切な健康指導ができる。						◎	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			学校関係者や地域の人々を対象とした健康指導計画が作成できる。						◎	
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			学校現場や地域住民を対象にした将来的な健康生活が確立できる情報が発信できる。						○	
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			感染症予防や環境問題を視野に入れた健康教育を通して、個々人の健康意識を高めることができる。						○	
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			健康対策における社会的側面の重要性を強調したプログラムを開発することができる。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			自己の生活習慣を評価し、将来的なヘルシーライフに向けて行動変容をすることができる。						◎
		② 働きかけ力			自他の健康意識を意識することで、個々人に即したライフスタイルを提供することができる。						◎
		③ 実行力			健康課題を設定し、問題解決に向けた取り組みや支援を行うことができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			学校内や家庭・地域での児童生徒の行動を綿密に観察することで健康課題を具現化することができる。						◎
		② 計画力			個々の健康観を通して、家庭や地域社会に密着した適切な健康プログラムを作成することができる。。						○
		③ 創造力			学校の制度や地域社会の伝統や特性を理解し、独創的な健康指導を開発できる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			最新の健康情報から、情報提供すべき健康問題を「保健室通信」として発行することができる。						◎
		② 傾聴力			個々の心や身体の問題を正確に聴取し、適切なアドバイスや支援を行うことができる。						◎
		③ 柔軟性			健康問題のカウンセラーとして、自己の経験則に捉われずに問題解決の糸口を見つけることができる。						○
		④ 状況把握力			断片的な情報を結合・統合させ、より密度の高い知識のネットワーク（知識体系）を確立することができる。						○
		⑤ 規律性			集団が画一的な保健管理に属することなく、集団が達成可能な健康課題を設定することができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力			メンタルヘルスの観点から、理解よりも行動することを重視する課題を提示することができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性			行動変容をめざす健康教育を通して社会規範を遵守した健康行動が意識できるようになる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合計
総合評価割合			50	20	20	10				100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5	10					25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5			5				10
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	5						15
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5							5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	5						15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		5							5
	地域の健康危機管理能力		5	5	10					20
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力					5				5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・ 独自性を発揮し、家庭、地域社会に密着した適切な健康プログラムが作成できる。 ・ 地域保健、公衆衛生学としての側面と教育科学としての側面をもった健康指導ができる。 ・ 子どもや家庭、地域の現状を把握した保健指導が適切にできる。 ・ 安全教育を目指した快適な保健室を管理運営することができる。 ・ 将来の自然災害や環境問題を発信し、地域の健康問題に取り組むことができる。					・ 教育者としての立場で子どもの健康を保持増進する方策が考えられる。 ・ 家庭や地域社会を対象とした健康プログラムが作成できる。 ・ 子どもや家庭、地域を対象に保健指導ができる。 ・ 保健室を管理運営することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	学校管理下の事故・災害・犯罪の発生要因と安全教育 ①児童・生徒の事故・災害・犯罪被害の実態 ②事故・災害・犯罪被害の発生機序とその防止対策	事故回避としての安全教育の重要性が理解できるよう、配布資料やP.Pにより講義を展開する。 面接授業	安全教育の必要性和留意点（復習） 応急処置や心肺蘇生法（予習）	20
	小テスト			
第 2 回 ／	児童生徒の問題行動と今日的な精神保健 ①性教育の実践の在り方として共通理解 ②飲酒、喫煙、薬物乱用などの問題行動の現状と課題 ③死生観教育とカウンセリングの意義	生や性に関する諸問題を共通認識し、性教育に関するディスカッションを含めた講義を展開する。 面接授業	性教育の現状と課題（復習） 青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用問題（復習）	20
	小テスト			
第 3 回 ／	保健室の管理と学校保健委員会 ①今後の保健室の運営と課題 ②学校保健委員会の重要性和健康指導	保健室の管理と学校保健委員会の運営や課題が理解できるよう、配布資料やP.Pにより講義を展開する。 面接授業	保健室の管理と学校保健員会の運営（復習） レポートⅠ提出準備	40
	小テスト			
第 4 回 ／	学校給食と食育の推進 ①学校における食育指導の意義 ②安全な食育指導の重要性和今後の課題	栄養学的側面も含めて栄養指導や食事故の課題が理解できるよう、P.Pを中心とした講義を展開する。 面接授業	栄養指導の必要性和健全な食習慣の推進（復習） 3 分間スピーチ資料準備	40
	小テスト・レポートⅠ提出			
第 5 回 ／	学校管理下における傷害予防と応急手当 ①日常的な傷害発生の現状と課題 ②傷害や急病の種類と応急手当の方法、心肺蘇生法	日常的な急病や事故発生に対応できる資質を向上させるための具体的な応急処置法を資料やP.Pにより学修する。 面接授業	身体活動時の傷害予防と応急処置の理解復習）	20
	3 分間スピーチ			
第 6 回 	健康推進プログラムの作成 ①ヘルスプロモーションの意義と課題 ②学校や地域での健康増進プログラムの必要性	子どもの健康を守るために家庭や地域社会と連携した健康指導を配布資料やP.Pにより講義を展開する。 面接授業	具体的な健康推進プログラムの作成（復習）	60
	3 分間スピーチ			
第 7 回 	障害児教育の現状と健康支援 ①障害児の発達支援とインクルーシブ教育 ②障害児支援における養護教諭の枠割	発達障害児を含めた特別支援教育の在り方が認識できるよう、配布資料、P.P、板書により講義を展開する。 面接授業	障害児の健康維持とその対応（復習） 課題論文提出準備	60
	3 分間スピーチ			
第 8 回 ／	健康教育の推進と保健学習の実践 ①研究課題の設定と独創的な健康教育の推進に向けて	21 世紀型の子どものための基本的生活習慣の構築を視座にした健康教育の役割が理解できるよう本講義を総括する。 面接授業	将来を見据えた健康教育と環境問題との関連（復習）	40
	課題論文提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSI33S089S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		産業保健論Ⅰ Industry Health TheoryⅠ		1単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	産業社会の下、働く人々の健康を保持増進し、快適な職場環境を形成していくための産業保健活動とは何かを理解することにより、健康に働き続けるための手段を修得する。									
キーワード	産業保健 産業看護 労働安全衛生法			学修教育目標	産業構造の変化に伴い、労働者の健康障害の推移、業務上疾病の統計的データから労働者の健康状態を理解できる。労働者の健康を守る法規、衛生行政管理体制、事業所の安全衛生組織などを理解する。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
産業看護専門職になるための基礎的知識、技術の習得。産業看護を学ぶことにより看護の視野を広げる。臨床看護をはじめ、どの分野でも対象者の半分以上は働く人であるので、労働の視点が養える。学生も将来働く人として自分自身の健康の保持増進を図るうえで必要な知識・技術を身につけることができる。事前に父親など身近な働く人に健康増進など事業所の取り組みについての情報を教えていただき疑問があれば整理しておくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
産業保健論は公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論、保健福祉行政論、健康教育論、成人看護領域の科目に関連する。保健師・看護師活動と法律、保健医療福祉に関する制度、生活習慣病など疾病に対する知識は有用です。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：産業看護学 著者名：河野 啓子著 出版社：日本看護協会出版会					書 名：国民衛生の動向 著者名：（財）厚生労働統計協会編 出版社：（財）厚生労働統計協会 書 名：対象別公衆衛生看護活動 出版社：医学書院					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			産業保健、産業看護の理念と体制・職域保健と地域保健の連携を理解する。						◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			主な産業看護活動の実際を理解する。						◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			働く人々の健康を保持増進し、快適な職場環境を維持するための法律や社会資源を理解する。						○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			治療と職業生活の両立支援・産業保健の国内動向、国際動向を理解する。						○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			健康づくりと産業看護職の役割を理解する。これからの産業保健、産業看護の課題と展望を理解することができる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			教科書の音読時や授業終了時の学びの発表を積極的に行うことができる。					◎
		② 働きかけ力			協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。					△
		③ 実行力			目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			事例検討や国試の過去問題を考え、正解することができる。					◎
		② 計画力			課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					△
		③ 創造力			従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					△
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			事例検討での内容や意見を自分なりに理解して伝えることができる。					◎
		② 傾聴力			小人数の授業なので課題に対して意見交換しながら学びを深めることができる。					○
		③ 柔軟性			小人数の授業なので課題に対して意見交換しながら学びを深めることができる。					○
		④ 状況把握力			小人数の授業なので課題に対して意見交換しながら学びを深めることができる。					△
		⑤ 規律性			社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。					△
		⑥ ストレスコントロール力			ストレス対策の原則、リラクゼーション方法を理解することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性			産業保健専門職の倫理を理解できる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	20	20				5	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		5							5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10							10
	特定の健康課題に対応する実践能力			10						10
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10							10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力			10	10				5	25
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		5							5
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		10							10
	地域の健康危機管理能力		5							5
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		5							5
	専門的自立と継続的な質の向上能力		5		10					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
産業保健を学ぶことにより、産業保健の特徴と公衆衛生看護活動との連携の必要性を理解できる。労働災害防止計画を理解し国の安全衛生活動の方針を理解できる。					看護の1分野として産業看護師活動を理解できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	産業保健論概論 産業保健とは、 産業看護とは、 産業保健・産業看護の歴史と法律	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	産業保健・産業看護を理解する	20
第 2 回 ／	衛生管理を推進するための体制 労働衛生の三管理と五分野 産業保健専門職の倫理	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	労働安全衛生法と衛生管理を推進するための体制を理解する	30
	レポート			
第 3 回 ／	産業看護活動の実際 職場における健康診断と産業看護職の役割 特殊健康診断と生物学的モニタリング	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	健康診断の必要性を理解する （学生が受けている健康診断と比較できる）	20
第 4 回 ／	職業性疾病とその予防対策における産業看護職の役割 特殊健康診断と有害業務と疾病予防	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	発がん性物質・石綿（アスベスト）・塵肺を理解する	30
第 5 回 ／	産業保健の基本と産業看護活動 作業関連疾患とその予防対策における産業看護職の役割 ヘルスプロモーションと健康支援活動	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	快適な職場環境と健康支援活動を理解する	20
	小テスト			
第 6 回 ／	産業疲労とその予防のための産業保健活動 労働者の心の健康の保持増進（4つのメンタルヘルスケア） メンタルヘルス不調と対策（ストレスチェック義務化）	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	ストレスチェックの実際と法改正の流れを理解する	30
第 7 回 ／	女性労働者への健康支援と法律 障害者雇用に向けて必要なこと リスクアセスメント・リスクマネジメントと産業看護職の役割	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	女性労働者への健康支援と法律を理解する	30
第 8 回 ／	地域保健との連携 労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS） これからの産業保健・産業看護	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	産業看護活動の展望と課題を理解する	20
	試験			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSI33F089A		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		産業保健論Ⅱ Industry Health Theory Ⅱ		1 単位	選 択	講 義	3 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	産業看護活動を模擬事業所で体験することにより、産業保健の理解を深める。産業保健師として働くための知識、健康に働き続けるための手段を習得する。									
	キーワード		産業保健 産業看護 労働安全衛生法 OSHMS		学修教育目標	事業所における健康診断と事後指導、健康相談、健康づくり、メンタルヘルス不調への対応における産業看護職の役割を理解できる。労働者の健康を守る法規、衛生行政管理体制、事業所の安全衛生組織などを理解する。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
模擬事業所で健診事後指導や禁煙指導を実施することにより説明力を高め、データヘルス計画の策定を行うなどの体験により産業保健の理解を深める。 産業保健論Ⅰで十分に理解できていない内容があれば整理しておくとお効果的である。ニュースなどで労働者に係る情報があれば確認する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
産業保健論は公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論、保健福祉行政論、健康教育論、成人看護領域の科目に関連する。 保健師・看護師活動と法律、保健医療福祉に関する制度、生活習慣病など疾病に対する知識は有用である。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：産業看護学 著者名：河野 啓子著 出版社：日本看護協会出版会					書 名：国民衛生の動向 著者名：（財）厚生労働統計協会編 出版社：（財）厚生労働統計協会 書 名：ナースのためのコーチング活用術 著者名：柳澤 厚生 出版社：医学書院					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			産業保健、産業看護の理念等と職域保健と地域保健の連携を理解する。○						
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			主な産業看護活動の実際を理解する。高年齢労働者の健康管理と働き方を理解する。◎						
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			働く人々の健康を保持増進し、快適な職場環境を維持するための法律や社会資源を理解する。◎						
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			産業保健の国内動向、国際動向を理解する。○						
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			OSHMS、労働災害防止計画を理解し、これからの産業保健、産業看護の課題と展望を理解することができる。○						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		教科書の音読時や授業終了時の学びの発表を積極的に行うことができる。○						
		② 働きかけ力		グループで1つの課題に取り組むことによりグループメンバーに働きかけができる。◎						
		③ 実行力		目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。○						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		事例検討や国試の過去問題を考え、正解することができる。◎						
		② 計画力		データヘルス計画の策定により解決能力を高めることができる。○						
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。○						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		事例検討での内容や意見を自分なりに理解して伝えることができる。◎						
		② 傾聴力		小人数の授業なので課題に対して意見交換しながら学びを深めることができる。○						
		③ 柔軟性		小人数の授業なので課題に対して意見交換しながら学びを深めることができる。○						
		④ 状況把握力		小人数の授業なので課題に対して意見交換しながら学びを深めることができる。○						
		⑤ 規律性		社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。○						
		⑥ ストレスコントロール力		ストレス対策の原則、リラクゼーション方法を理解することができる。○						
4. 倫理観		① 倫理性		産業保健専門職の倫理を理解できる。◎						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20	10	10			100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5						15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10				10			20
	特定の健康課題に対応する実践能力		10		10					20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力					10				10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力				10					10
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		10							10
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力			5						5
専門的自立と継続的な質の向上能力		10							10	
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
産業看護の必要性を理解できるまた産業保健を学ぶことにより、産業保健の特徴と公衆衛生看護活動との連携の必要性を理解できる。労働災害防止計画を理解し国の安全衛生活動の方針を理解することにより今後の産業保健の課題と展望を考えることができる。					看護の1分野として産業看護師活動を理解できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	職場における健康診断と看護職の役割 健康診断の企画と実施手順・事後指導 生活習慣病予防の健康教育 職場巡視	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	健康診断結果の見方が理解出来る 職場巡視の実際が理解出来る	30
第 2 回 ／	職場の健康相談（グループワーク） 課題別健康相談、特定保健指導	保健師役と社員役、評価者を決めて実演して学びを深める 面接授業	健康相談を行う上での留意事項が理解出来る	20
	演習			
第 3 回 ／	産業保健計画の立て方（データヘルス計画の策定） 仮定事業所の産業保健計画策定・ 集団のヘルスニーズ	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	産業保健計画のプロセスが理解出来る	20
	演習・小テスト			
第 4 回 ／	労働安全衛生マネジメントシステムの運営 職業性疾病とその予防における産業看護職の役割（じん肺・電離放射線など）	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	〇 S H M S が理解出来る	20
第 5 回 ／	女性の活躍と法 働き方改革（病気の治療と仕事の両立） 障害者雇用に向けて必要なこと	女性の活躍と学生自身の今後の生き方を考え発表する 面接授業	女性の活躍の過去・現在・未来が理解出来る 働き方改革（病気の治療と仕事の両立）が理解できる	20
第 6 回 ／	職場におけるメンタルヘルスケアと看護職の役割 労働者のメンタルヘルスの現状 職場復帰支援・過重労働対策 事業所内相談窓口と E A P の利用	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	メンタルヘルスケアが理解出来る	30
	試験			
第 7 回 ／	わが国の職域の健康づくりの現状とあり方 禁煙・腰痛・VDT 作業などの健康教育（グループワーク）	新入社員に生活習慣に対する健康教育を実施評価する 面接授業	健康教育の進め方が理解出来る	20
	演習			
第 8 回 ／	産業保健の基本と産業看護活動 労働災害の現状とこれからの産業保健・産業看護 医療機関で働く看護職の健康課題とその予防策	パワーポイント、配布資料、教科書の音読に加えて、経験談や国試の過去問題で大切な内容を確認しながら授業をすすめる 面接授業	労働災害の現状とこれからの産業保健・産業看護が理解出来る 医療機関で働く看護職の健康課題とその予防策が理解できる	20
	レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSI12S090S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		健康教育論 Healthy Education and Health Promotion		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的		健康とは何かについて理解を深め、健康に影響を及ぼす要因について学習する。また不適切な不健康行動を変容できるように、健康教育の理念に基づき、企画、立案、実施、評価を行うことにより健康支援について修得する。									
キーワード		健康支援 ヘルス・プロモーション 健康教育 健康観	学修教育目標	1) 健康とは何か、健康支援の必要性について説明できる。 2) 日常生活の習慣や環境要因が健康にどのように影響を及ぼしているか説明できる。 3) 健康教育の展開（企画，立案，実施，評価）ができる。 4) 自身の健康観について述べることができる。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
テキストに沿って講義・グループワーク・演習を実施する。授業前半では、「健康教育」の理念と保健・医療における健康教育との関連を学修し、「自身の健康観」を考えるグループワークを行う。授業後半では、グループ単位で健康教育計画の作成やプレゼンテーションなど主体的に進め、その体験を通じて健康教育展開の実践を学ぶ。 授業外学習では授業計画をもとに、事前学習の予習・復習を行い、授業ノートの準備をしておくこと。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
他の科目との関連：「看護職の関係法規」、「公衆衛生看護援助展開論」、「保健指導論」、「家族看護論」											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：健康教育論 著者名：宮坂 忠夫、川田 智恵子、吉田 亨 編著 出版社：メヂカルフレンド社					書 名：厚生 の 指標 増刊 国民衛生の動向 著者名： 出版社：厚生労働統計協会						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			健康支援の必要性について説明できる。						○	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践										
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践										
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			日常生活の習慣や環境要因が健康にどのように影響を及ぼしているか説明できる。						○	
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			健康教育の展開（企画，立案，実施，評価）ができる。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			授業の予習・復習、課題や演習などに主体的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力			周囲の人の理解を得るために、自分の考えやその理由を伝えることができる。						◎
		③ 実行力			目標達成のため、メンバーの力が発揮できるように働きかけることができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。						◎
		② 計画力			作業のプロセスを意識しながら、柔軟な計画の修正ができる。						◎
		③ 創造力			発想の転換により、新しい解決策などを考えることができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			主体的に自分の考え方や意見を述べることができる。						◎
		② 傾聴力			授業や演習など他者の考え方や説明を傾聴できる。						◎
		③ 柔軟性			相手の話を素直に聞くことができる。						◎
		④ 状況把握力			周囲の人たちの状況に配慮して、行動することができる。						◎
		⑤ 規律性			社会のルールや約束、マナーを理解し、守ることができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスと感じたら、適切な人に相談したり、ストレスを成長の機会と捉えることができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って行動することができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25		5	15			100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10							10
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15							15
	特定の健康課題に対応する実践能力		20	25		5	15			65
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10							10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
健康支援の必要性について十分に説明できる。 日常生活の習慣や環境要因が健康にどのように影響を及ぼしているか十分に説明できる。 健康教育の展開（企画，立案，実施，評価）が十分にできる。					健康支援の必要性について理解し説明できる。 日常生活の習慣や環境要因が健康にどのように影響を及ぼしているか説明できる。 健康教育の展開（企画，立案，実施，評価）ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 健康教育の理念 ①健康教育の考え方 ②患者教育の考え方	オリエンテーション 講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 2 回 ／	保健・医療における健康教育との関連（１） ①保健医療の５段階 ②国民健康づくり運動の推移と健康保持増進対策	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 3 回 ／	保健・医療における健康教育との関連（２） ①高齢者保健対策・介護保険制度と健康教育 ②健康教育とヘルス・プロモーション ③セルフ・ケア教育について	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 4 回 ／	健康教育と保健行動（１） ①人間の行動の基本と生活行動とは ②保健行動と生活行動の関係	講義・グループワーク（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 5 回 ／	健康教育と保健行動（２） 行動の変容およびその影響ファクター	講義・グループワーク（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 6 回 ／	健康教育の方法と媒体（１）（２）	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 7 回 ／	コミュニティ・オーガニゼーションと健康教育 住民活動と健康教育	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 8 回 ／	健康教育計画の企画、実施と評価（１） ①プリシード・プロシードモデルについて ②健康教育計画の企画、実施、評価の過程	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 9 回 ／	健康教育計画の企画、実施と評価（２） グループワークー企画・計画案の検討	グループワーク（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 10 回 ／	健康教育計画の企画、実施と評価（３） グループワークー企画・計画案の作成・修正	グループワーク（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 11 回 ／	健康教育計画の企画、実施と評価（４） グループワークー企画・計画案の作成・修正	グループワーク（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 12 回 ／	健康教育計画の企画、実施と評価（５） グループのプレゼンテーション①	プレゼンテーション（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 13 回 ／	健康教育計画の企画、実施と評価（６） グループのプレゼンテーション②	プレゼンテーション（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30
第 14 回 ／	健康教育に関する調査・研究 ①調査・研究の動向 ②調査・研究と実践	講義（面接授業）	授業内容の予習・復習を行うこと	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSI33S091S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		養護概説 Introduction to School Nursing		2 単位	選 択	講 義	3 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	近年、急速な技術革命が生み出したさまざまな社会変化により、生活環境や生活様式の変化、人間関係の希薄化など多くの問題が生じてきている。こうした中で、子どもの健康問題も複雑かつ深刻化し学校教育の中でも大きな課題となっている。養護概説では、こうした子ども達の健康問題を解決するために学校保健のなかでも、特に養護教諭の役割について学修する。										
	キーワード	学校教育 学校保健 養護教諭	学修教育目標	養護教諭の存在意義と歴史、専門性の考え方、養護教諭の活動過程、保健室の機能などについて、児童・生徒の健康実態と関連づけて理解することができる。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
授業前半においては学校における養護教諭の概論を学び、後半においては具体的な職務内容を学ぶ。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
学校教育に関する基礎的知識を習得しておくことが望ましい。 関連する科目「学校保健論Ⅰ」「学校保健論Ⅱ」。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：新養護概説 著者名：采女 智津江 編 出版社：少年写真新聞社					書 名：四訂養護概説 著者名：三木 とみ子 出版社：ぎょうせい						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			養護教諭として子どもの健康を守り、家族、地域にどのように貢献できるかを知る。							○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			学校における児童、生徒、教職員の健康について管理、指導について学ぶ。							◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			学校生活のみならず家庭や地域での保健や健康について考えることのできる子どもを育成することが出来る養護教諭を目指す。							○
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			健康な生涯を送れるために必要な、基礎的知識を持つ子どもの育成を目標とする養護教諭であることを目指す。							◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			学校生活や家庭において子どもが健康に過ごすための基礎的な知識を身につける。							◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			学校保健への興味、関心を持つことができる。						○
		② 働きかけ力			協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。						△
		③ 実行力			目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			どのような健康問題が学齢期に起きているのかを知る。						○
		② 計画力									
		③ 創造力			従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。						○
		② 傾聴力			相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。						○
		③ 柔軟性			自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。						○
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。						○
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。						△
4. 倫理観		① 倫理性			相手や周囲に対し道徳的に行動することができる						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
指標と評価割合									
総 合 評 価 割 合		50		40				10	100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	10		5					15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	15		5				5	25
	特定の健康課題に対応する実践能力	5		10				5	20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	5							5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	10		10					20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力	5		10					15
具 体 的 な 達 成 の 目 安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
学校教育における養護教諭についての具体的な職務内容やあるべき養護教諭像を理解している。				学校教育の中での養護教諭の職務内容や理論を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 授業の進め方の説明 教育関係法令・学校教育と保健学校	講義 面接授業	自分が通っていた小、中、高校の教育目標を調べる	30
第 2 回 ／	養護教諭 制度の変遷・養護教諭と保健室・養護教諭の配置・職業倫理	オンデマンドによる遠隔授業		
第 3 回 ／	子どもの現代的な健康課題とその対応 子どもの健康課題の推移 ヘルスプロモーションの理念を生かした健康教育の推進	オンデマンドによる遠隔授業	現代の子どもの健康課題を考える	30
第 4 回 ／	養護教諭の職務 養護教諭の専門領域における職務内容 これから学校保健に求められている養護教諭の役割	オンデマンドによる遠隔授業	過去に経験した養護教諭の印象と自分が描く養護教諭像を書く	20
第 5 回 ／	保健管理 学校における救急処置・健康診断・疾病管理・精神保健 学校環境衛生	オンデマンドによる遠隔授業		
第 6 回 ／	保健教育 教科保健・保健指導	講義・チーム活動 面接授業	過去に受けた保健教育について書いて発表	30
第 7 回 ／	健康相談 健康相談における教職員のそれぞれの役割・健康相談の進め方	講義・チーム活動 口頭発表 面接授業	過去に受けた健康相談について書いて発表	20
第 8 回 ／	保健室経営 保健室の機能と保健室経営・保健室経営の計画	講義 面接授業	理想的な保健室を設計してみる	20
第 9 回 ／	組織活動 学校における保健組織・学校保健委員会と養護教諭の役割	講義・チーム活動 口頭発表 面接授業	児童生徒の委員会活動の内容を調べる	20
第 10 回 ／	安全管理と危機管理 学校における危機管理の意義と基本的な考え方 危機管理の進め方・危機管理における養護教諭の役割	講義・チーム活動 口頭発表 面接授業	過去に受けた安全教育について書いて発表 学校内の安全点検をする	30
第 11 回 ／	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の役割と職務内容 法的根拠とその役割・職務内容	講義 面接授業	学校医、学校薬剤師、学校歯科医の役割と実際の実践を e-Learning システムで調べる	30
第 12 回 ／	子どもの発育・発達 幼児期から青年期までの発達の特徴	講義 面接授業	各時期における発達の特徴を表にまとめる	50
第 13 回 ／	子どもの心のケアー PTSD の理解とその予防 ストレス症状のある子どもへの対応 災害時における子どもの心のケアーの進め方	講義・チーム活動 口頭発表 面接授業	PTSD はどんな場面で起きるか考える。またその時にどんな支援が必要か考える	30
第 14 回 ／	学校における健康相談 健康相談の基本的な考え方・養護教諭の役割 カウンセリングの必要性	講義・チーム活動 口頭発表 面接授業	事例を用いて実際にカウンセリングを体験し発表	50

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSI13F092S		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		公衆衛生看護学実践実習Ⅰ Public Health Nursing PracticeⅠ		1単位	必 修	実 習	3年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	地域で生活している高齢者や障がい者が利用する各種通所サービス施設での生活支援活動等の実際から、健康上の課題や関連する生活状況について理解を深め、必要とする公衆衛生（地域）看護について考察する。また、施設や関係職種の役割を理解し、地域における関係機関・関係職種の連携の必要性について理解し考察する。さらに施設と家族、近隣、ボランティアとのつながりを考えることができる。										
	人権尊重・非言語的コミュニケーション 障がい者等の地域生活 生活支援活動 就労継続支援活動 各種通所施設サービスの役割 障がいのある生活者の健康課題 連携支援			学修教育目標	1）地域における高齢者・障がい者の各通所施設の機能と役割について理解できる。 2）通所サービス利用対象者である高齢者や障がい者の生活状況・特徴を理解できる。 3）対象者とのコミュニケーションを通じ、人権尊重を考えることができる。 4）施設及び利用者と家族や近隣・ボランティアとのつながりを考察できる。 5）高齢者・障がい者の健康課題を考察し、看護・健康支援の必要性を理解できる。 6）地域における関係機関や関係職種の役割と連携の必要性を理解できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
①3年次秋学期9月～翌年3月：オリエンテーションで、各施設の紹介・説明を行った後、1グループ/5人体制で4種類の各施設を1日毎に体験実習する。 ②1～4日目：生活支援・就労継続支援等通所施設（高齢者・知的障がい者・精神障がい者・中途障がい者）で、体験実習する。 ③5日目：学内日に各グループ間の情報交換報告会で、学びを深め学修する。要点：「社会資源の役割・利用者の生活状況・健康課題を理解できる」 ＊地域における人権保障としての障がい者の生活や社会資源の役割について、事前学習をして実習に臨み、目標達成すること。 ＊「国民衛生の動向」（3年次秋発行分）で、最新情報を得て実習に臨むこと。 ＊本臨地実習科目は看護師としての基本的知識であり、地域における社会資源としての継続支援対象の活動である。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「看護師のための関係法規」「社会福祉・保障論」「障がい者福祉論」「国民衛生の動向」 ①保健医療福祉対策（障がい者支援・精神障がい者支援・高齢者等支援）・制度・障がい者や高齢者にかかる疾病等の事前学習をする。 ②各施設の概要について事前学習しておくこと。 ③実習先は日々異なるので、関連する達成目標を明確にし、効率よく日々のうちに学修終了しうよう事前学習する。 ④利用者の方々の健康上の課題・関連諸問題をアセスメントできるようコミュニケーション技術（非言語的コミュニケーション含む）の学習をしておくこと。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
実習要綱・公衆衛生看護学実践実習要項Ⅰに基づく。					書 名：最新保健学講座Ⅰ 公衆衛生看護学概論Ⅰ 著者名：金川 克子 編集 出版社：メジカルフレンド社 書 名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			個人・家族・集団・地域を対象とした実際活動を体験し学内学習と関連づけて理解を深め修得できる。							◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			地域のあらゆる人々が利用する活動に積極的に参加し公衆衛生看護活動の社会資源の存在を理解できる。							◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			地域に存在する多様な場で人々が実際に活用している継続サービスの実際活動の場に、主体的に事業参加することで継続看護実践の意義・関係機関・連携体制・内容を理解できる。							◎
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			健康と疾患の連続性を踏まえた公衆衛生看護活動に参加することでその重要性を理解できる。							◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			あらゆる健康レベルの地域の人々を対象に健康増進や予防を促進する公衆衛生看護活動に参加することで、その重要性・意義・方法・内容を学習し理解できる。							◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	毎日の臨地実習に主体的に取り組むことができる。							◎	
		② 働きかけ力	事前学習・予習・復習を確実に実施し、質問により疑問点を日々解決できる。							◎	
		③ 実行力	日々の到達目標を意識し、前向きに取り組む。							◎	
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	適正な事前学習の実行から、実習上での気づき・考える・調べる姿勢で実習取り組む。							◎	
		② 計画力	全体の到達目標に基づき行動計画を立て、日々の達成目標を意識し、計画的に行動し達成できる。							◎	
		③ 創造力	各実習の場における実際から意味や意義を前向きに関連付けて考察できる。							◎	
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	チームの一員であることを常に意識し、自己の意見を述べ、チーム力を高められる。							◎	
		② 傾聴力	チーム全員が実習目標を意識し、協働して達成できるよう他者の意見を傾聴できる。							◎	
		③ 柔軟性	人の意見を尊重し、チームとしてのあるべき方向に向けてメンバー全員の意見を反映できる。							◎	
		④ 状況把握力	全てのメンバーを尊重して行動できるように状況判断できる。							◎	
		⑤ 規律性	仲間が気持ちよく前向きに学習でき、周囲の関係者からも協力を得られるよう積極的にマナーを実践できる。							◎	
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じるとき、早めに予測し自分に合う対処方法を身につけられるよう仲間等の知恵を借りることができる。							◎	
4. 倫理観		① 倫理性	社会人として通用できる誠実な姿勢で行動化できる。							◎	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合 計
総 合 評 価 割 合					15	15			70	100
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				5	5			7	17
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								9	9
	特定の健康課題に対応する実践能力								7	7
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				5	5			12	22
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								7	7
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								7	7
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力				5	5			7	17
	地域の健康危機管理能力								3	3
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								7	7
	専門的自立と継続的な質の向上能力								4	4
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
①対象者の身体的・精神的・文化的側面から主観的客観的情報をアセスメントできる。 ②社会資源を情報収集し、地域連携について考察・理解できる。 ③対象者の利用できる地域の社会資源の役割を述べることができる。 ④高齢者の健康状態を把握し、高齢者に対する看護活動を理解・考察できる。 ⑤精神障がい者・知的障がい者・中途障がい者への理解と生活支援の実際を述べることができる。 ⑥精神障がい者・知的障がい者・中途障がい者の健康上の課題等から健康支援について考察・理解できる。 ⑦地域の共同作業所の役割を理解し、共感的コミュニケーションがとれる。 ⑧障がい者の人権・権利を尊重し、プライバシーを守ることができる。 ⑨グループワークで考察を深め目標達成できる。					①対象者の身体的・精神的・文化的側面から主観的客観的情報をアセスメントすることを理解できる。 ②社会資源を情報収集し、地域連携について理解できる。 ③対象者の利用できる地域の社会資源の役割を理解できる。 ④高齢者の健康状態を把握し、高齢者に対する看護活動を理解できる。 ⑤精神障がい者・知的障がい者・中途障がい者への理解と生活支援の実際を理解することができる。 ⑥精神障がい者・知的障がい者・中途障がい者の健康上の課題等から健康支援について考察できる。 ⑦地域の共同作業所の役割を知り、共感的コミュニケーションがとれる。 ⑧障がい者の人権・権利を理解し、プライバシーを守ることができる。 ⑨グループワークで考察を深めることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回	＜地域（公衆衛生）看護学実践実習Ⅰ（1 単位）＞ 1）学習内容 ①地域で生活している知的障害者・精神障がい者・中途障がい者の各通所サービス施設が社会資源として果たしている役割・意義を学修する。 ②地域における障がい者生活支援事業・就労継続支援事業・地域活動支援事業の実際活動に参加し、利用者の方とのコミュニケーションを通じて、健康上の課題・関連する諸問題等をアセスメント（情報収集・問題点・課題の分析検討）する。 ③元気な高齢者が自らの生活の質（QOL）の向上をめざし取り組んでいる活動に参加し、コミュニケーションを通じて、地域における施設の役割を考察する。 ④看護職に必要な統合的視点で各種地域活動を体験し、保健医療福祉分野に共通のチームワークの一員として、主要な社会資源と地域の対象である当事者の生活実態と各施設の役割を理解し、病院看護と地域看護の関係性を考察する。 2）方法：高齢者・知的障がい者・中途障がい者・精神障がい者の通所サービス施設 4 か所を順番に日々実習先が異なる。 3）実習先 (1) 地域の高齢者（健康・不健康問わず）が通所し活動している老人福祉センター (2) 地域の障がい者（児）が通所している事業所 3 か所 ①社会福祉法人美原の郷福祉会 ワークセンターつつじ（多機能型・障がい福祉サービス事業） ②NPO 法人えん サニーハウス支援センター・サニーカフェ（生活支援・就労継続支援 B 型事業） ③社会福祉法人 麦の会作業所 4 か所中 1 か所（麦の会共同作業所・麦の会第 3 作業所・麦の会ラベンダー作業所・麦の会すみれ共同作業所）（生活支援・就労継続支援 B 型） ④社会福祉法人大阪府社会福祉事業団 堺市立美原老人福祉センター（高齢者福祉の向上を目的の事業） ＊「実習要綱」「公衆衛生看護学実践実習Ⅰ」に基づいて、主体的に実習に臨み、評価項目の目標達成を図ること。また、公衆衛生看護学の基礎的知識としての根拠・内容と関連付けて学修する。 【 例 1 グループの流れ 】グループによって施設の順番が異なる 第 1 日 ＜老人福祉センター＞（9:30～16:30） ＊9:30～ 本日の目標・行動目標の確認（学生・実習指導教員）出席表・本日記録・事前学習ノート教員に提出 ＊10:00～ 挨拶・オリエンテーション（施設概要・施設見学）・実習衣各種講座や活動の見学・参加 健康相談室業務（看護職配置） 利用高齢者とのコミュニケーション（高齢者の特徴を知り、理解する） ＊15:30～ 記録・カンファレンス（実習指導教員・実習先指導者参加） ＊16:30 終了	＜教員の授業設定・準備＞ ①時期：9 月～翌年 3 月 実習期間：5 日間（最終日が学内日となる） 時間：9：00～16:30 実習体制：1 G/5～6 人単位で、異なる通所施設 4 か所を順番に毎日実習する。 ②事前学習を確実にに行い「事前学習ノート」を完成させて、実習に臨むことが必修となる。オリエンテーション前に担当教員に提出し指導を受け修正しておく ③3 年次秋学期実践実習開始前のオリエンテーションで概要説明全員出席 ＊実習要綱・公衆衛生看護学実践実習要項Ⅰ・実習計画表持参（実習中も持参のこと） ③各施設での臨地実習 4 か所を順番に体験学習する。日々、学生主体でカンファレンスを実施、指導者・教員の助言を受ける。 ④最終日は学内実習（1H/発表資料準備→2H/情報交流報告会→3H/個人面談→4H/記録・レポート作成）16:30 終了 ⑤記録・レポート提出（次週月曜 17 時ㄆ切） ⑥実習先指導者に記録送付し、チェック後、各学生が助言内容を確認。 ＊実習開始までに、実習先指導者と実習内容等の打ち合わせをしておくこと ＜教員役割＞ ①学生が目標達成できるよう、開始前に確認し、実習の動機づけを図る ②オリエンテーションに同行する ・学生を分散配置、適宜巡回指導 ・実習中に、学生記録のチェック（午前中に完了し、昼休憩中に午後からの実習に反映する） ・看護職業務について学生が質問する形式をとる ・利用者とコミュニケーションを通じて高齢者の生活と健康状況を把握し課題・健康支援を考察できるよう助言する。 ③学生記録の実際からの指導・カンファレンス（学生が主体的に実施・適切助言）	＜学生の学習＞ (1) 事前学習 ①保健医療福祉対策と制度・障がいにかかる疾病に関する事前学習を行う。【障がい（知的・身体・精神・重複障がい）者生活支援・高齢者等地域活動支援】 ②各施設の概要について情報を得て学習しておく。 ③実習先は日々異なるので、効率的に実習できるよう、関連する達成目標から学習課題を明確にし、日々学習終了できるよう事前学習をしておく。 ④利用者の方々の健康上の課題・関連諸問題をアセスメントできるようコミュニケーション技術の学習をしておく。 ＊事前学習ノートは担当教員（実習指導者）に提出し指導を得る。 (2) 臨地実習における留意事項 ①各実習先での学びはその日のうちに修得できるよう質問内容を明確にし、主体的に学修すること。そのための予習・復習をする。実習の視点は個人・集団という地域的視点で学修する。 ②記録は日々完成し翌日、実習指導教員の指導をえて、実習先に提出するので、誰が見ても理解できる記述を心掛ける。 ③朝の挨拶・終わりのカンファレンスをグループメンバー共有の学習の場となるようチームワークよく各自が主体的に学習に臨むこと。 ④学内日は全施設を通じての学びの報告会として、他グループとの情報交流により学びを深める。 ⑤実習到達項目の自己評価表を記し、実習担当者と個人面談し最終学習の確認を行う。 ⑥最終提出物は記録・レポート（1500 字内）（次週月曜日ㄆ切） ＊実習先が日々異なるので、事前学習と日々記録の翌朝までの完成が必要となる。実習期間中は健康管理に注意し留意事項を踏まえて実習に集中すること。	360
／	評価表 1・2・3・11・13（共通）、4（独自）の達成			
第 2 回	第 2 日 ＜ワークセンターつつじ＞（9:00～16:30） 多機能型・障がい福祉サービス事業 生活介護事業・就労継続支援 B 型事業 ＊9:00～ 更衣済み（学生用ロッカー有）・挨拶 学生 5 人分散配置（生活介護①・生活介護②・就労継続支援 B 陶芸・就労継続支援 B 織物・就労継続支援 B アンゴリーノ）各作業班活動に参加 利用者とのコミュニケーション（知的障がい・身体障がい・精神障がい・重複障がい） ＊利用者とともに行動すること（障がい者の生活・特徴を知り、理解する） ＊15:30～ 記録・カンファレンス（実習指導教員） ＊16:30 終了	＜教員役割＞ ①学生が目標達成できるよう、開始前に確認し、実習の動機づけを図る ②学内オリエンテーション内容の復習するよう動機づけをしておく ・学生を分散配置、適宜巡回指導 ・実習中に、学生記録のチェック（午前中に完了し、昼休憩中に午後からの実習に反映する） ・各班の指導者に積極的に質問をできるよう促しておく。 ・利用者とコミュニケーション（非言語的コミュニケーションや観察含む）を通じて地域で暮らす障がい者の生活と健康状況を理解し課題・健康支援を考察できるよう助言する。 ③学生記録の実際から指導・カンファレンス（学生が主体的に実施・適切助言）	＜学生の学習＞ ①学内オリエンテーションで、実習先指導者の概要説明や留意事項の説明を終えているので、実習開始に当たり、復習をして臨むこと。（実習先では省略） ①実習要項に示す到達目標を達成できるよう、事前学習の振り返りをしておくこと。 ②目標に沿って本日の行動計画を立て、意識して実施できるよう、予習してくる。 ③より多くの障がい者とコミュニケーションできる。非言語的コミュニケーションの学習をしておくこと。利用者と伴の行動し、積極的ににかかわる。 ④1 日の体験実習から、地域における障がい者対策・制度・活動の必要性・意義等、また障害に関連する疾病・課題等の学修ができるよう事前学習と事後学習で復習する。	90
／				

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 3 回	第 3 日　＜サニーハウス・サニーカフェ＞ 地域生活支援センター事業 就労継続支援 B 型事業・地域活動支援センター事業 ＊9:30～ 挨拶・開始・オリエンテーション学内で済み・施設案内 学生 5 人が 2 ヶ所（サニーハウス・サニーカフェ）に分散配 置・午前と午後で交替・活動に参加 利用者（精神障がい）とのコミュニケーション （精神障がい者の生活や特徴を知り理解する） 実際活動の概要説明 ノーマライゼーション・人権尊重等を考察する。 ＊12:00～ 全員サニーカフェ ＊15:30～ カンファレンス・学生は全員サニーカフェに集合 （実習指導教員・実習先指導者） ＊16:00～ 記録 ＊16:30　終了	＜教員役割＞ ①学生が目標達成できるよう、開始前 に確認し、実習の動機づけを図る ②学内オリエンテーション内容を復 習するよう動機づけをしておく ・学生を分散配置、適宜巡回指導 ・実習中に、学生記録のチェック （午前中に完了し、昼休憩中に 午後からの実習に反映する） ・各班の指導者に積極的に質問をす るよう促しておく。 ・利用者とコミュニケーション（非言 語的コミュニケーションを含む）を 通じて地域で暮らす障がい者の生 活と健康状況を理解し課題・健康支 援を考察できるよう助言する。 ③学生記録の実際から指導・カンファ レンス（学生が主体的に実施・適切 助言）	＜学生の学習＞ ①学内オリエンテーションで、実習先指導者の概要説 明や留意事項の説明を終えているので、実習開始に 当たり、復習をして臨むこと。（実習先では省略） ②実習要項に示す到達目標を達成できるよう、事前学 習の振り返りをしておく。 ③目標に沿って本日の行動計画を立て、意識して実施 できるよう、予習してくる。 ④より多くの障がい者とコミュニケーションできる。 ④ 1 日の体験実習から、地域における障がい者対策・ 制度・活動の必要性・意義等、また課題等の学修が できるよう事前学習と事後学習で確認する。（復習）	90
	評価表　1・2・3・11・13（共通）、5・6・11・12（独自）の達成			
第 4 回	第 4 日　＜麦の会第 3 共同作業所＞（類似 4 施設の内 1 施設に配置） 地域生活支援センター事業 就労継続支援 B 型事業・地域活動支援センター事業 ＊9:30～ 挨拶・開始・現地オリエンテーション・施設案内 学生 5 人は利用者の様々な作業グループに分散して参加し、 適宜交替してより多くの活動に参加する。 利用者（中途障がいの方が多）とのコミュニケーションを 深める。（利用者の生活や特徴を知り理解する） ノーマライゼーション・人権尊重等に留意しつつ、学習目標 を達成できるよう主体的にかかわり学修する。 質疑応答の時間には積極的に質問をし、学びの場とする。 ＊15:30～ カンファレンス（実習指導教員・実習先指導者） 4 日目なので、地域で暮らす支援の必要な人々への社会資源 の活用や連携について等実習要項に示す到達項目を意識して 共通点や特徴を理解できる。 ＊16:00～ 記録 ＊16:30　終了	＜教員役割＞ ①学生が目標達成できるよう、開始前 に確認し、実習の動機づけを図る ②学内オリエンテーション内容・事前 学習を踏まえて学修するよう動機 づけをしておく ・学生を分散配置、利用者の方々と共 に作業に参加しつつ実習目標を達 成できるよう留意事項を助言、適宜 巡回・助言する ・実習中に、学生記録のチェック （午前中に完了し、昼休憩中に 午後からの実習に反映する） ・実習先の指導者に積極的に質問を するよう促しておく。 ・利用者とのコミュニケーションを 通じて地域で暮らす中途障がい者 の生活と健康状況を理解し課題・健 康支援を考察できるよう助言する。 ③学生記録の実際から指導・カンファ レンス（学生が主体的に実施・適切 助言）での助言。 ④事前学習が生かされるよう地域的 視点で実習指導者との調整を図る。	＜学生事前学習・実習中の記録＞ ①学内オリエンテーションで、概要説明や留意事項の 説明を終えているので、実習開始に当たり、 実習要項に示す到達目標を達成できるよう、事前学 習の振り返りをして主体的に臨むこと。 ②目標に沿って本日の行動計画を立て、有効な実習が できるよう、予習してくる。 ④より多くの障がい者とコミュニケーションできる ⑤中途障がいの起因・関連する疾病等について事前学 習・追加学習をする。 ⑥ 1 日の体験実習から、地域における障がい者対策・ 制度・活動の必要性・意義等、また課題等の学修が できるよう一貫性のある事前学習、臨地実習、事後 学習で確かな学びとすること。 ⑦記録が単なる描写記録にならないよう、学習目標に 沿うような記録を意識して記述する。また実習最終 日を意識し地域での共通の姿勢にも目を向けて臨む こと。	90
	評価表　1・2・3・11・13（共通）、9・10・11・12（独自）の達成			
第 5 回	第 5 日　　＜学内日＞　9:00～16:30 ①1 限/報告会発表資料準備 （グループ毎にパワーポイント 12 枚以内に作成） ②2 限/交流報告会 グループ発表（10 分）・質疑応答で学習を深める 実習指導教員助言 ③3 限/評価・個人面談（自己評価に基づき） ④4 限/ 日々記録の完成・レポート（1500 字）作成 ＊提出は次週月曜日 ㍻切 ＊各グループ単位での実習の学びとしてまとめ、報告し情報交換（学生・ 実習指導教員）することで、より明確な学習達成ができ、ステップア ップにつながることを目標としている。また、限られた時間での実習 であること、実習施設が異なったり、実習日の事業が異なった等を是 正することにもつながる。 ＊交流報告会を終えた後、実習の振り返りから、全施設を通じ ての地域（公衆衛生看護・在宅看護）活動の実践実習の学び をレポート（1500 字）にまとめる。 ＊公衆衛生看護学実践実習Ⅰの体験は病院看護から地域での継続看護へ の一貫した看護活動の意義を理解することにつながり、地域のニーズ を踏まえた長期的展望を持った地域社会貢献のできる看護職の育成に つながる基本的学修である ＊ 4 施設の実習を終えての学び 「実習目的・実習目標に掲げる項目を学修できたこと」の報告 公衆衛生看護学実践実習要項Ⅰレポート（1500 字）作成を確認するこ と	＜教員役割＞ ①学生が 4 日間の実習を終えるにあ たって、目標達成に沿って、4 日 目に 5 日目の学内実習に向けてグル ープでのまとめとして交流報告会 の準備等の動機づけをしておく。 ②4 日間で異なる対象者の実践実習 から、地域での施設役割や意義、利 用者との関わりから得た特徴や必 要性等の学びを実習に行っていない 学生にもわかるようにまとめてパ ワーポイントで示すこと。 ③グループメンバー全員の協力で作 業すること。学習の一環であるこ と。 ④地域における支援活動の実際から、 病院内看護においてどのような視 点を目指して実習に臨みたいか等、 看護活動の広がり等公衆衛生看護 活動や多機関・多職種との連携等の 必要性にも目を向けたまとめのポ イントについて実習を通じて指導・ 助言をしておく。 ⑤全記録チェックと指導・達成項目等 の評価・発表資料・レポート等の全 部評価を終え、今後への助言 ⑥実習を通しての意見交換会 （1 限）	＜実習終了に向けて学生のまとめ＞ ①4 施設の実習を通しての学び、体験したからこそ理 解できたこと、学修できたこと等、実習目標の項目 も意識してグループメンバーの全員協力で主体的 に作成し発表に臨むこと。（前日に打ち合わせ必要） ②他グループとの報告会での交流から、学びを深め、 目標達成できるように質疑応答を活発に行えるよう 実習中の記録整理や 4 日間学びの振り返り等の復 習や予習をしてくる。 ③①②を予測して本日の行動計画を立てておく。 ④自己評価に基づき、個人面談で助言を受けたこと・ 不足事項について、記録追記や事後学習を行う。 ⑤レポート作成（実習の学びを反映） ⑥記録物のまとめをし、グループ単位で提出のこと。 （締切日次週月曜）	180

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSI34S092A		専門教育科目 統合看護学領域 （広域・健康レベル） 統合看護学Ⅱ		公衆衛生看護学実践実習Ⅱ Public Health Nursing Practice Ⅱ		5 単位	選 択	実 習	4 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	地域に住む人々の生活実態から健康上の課題を踏まえ、住民主体で取り組む活動を支援する公衆衛生看護活動のプロセスを理解する。また、行政等における地域保健活動、個人・家族・集団・組織の支援である保健活動の実習を通して、保健師(地域看護職)に必要な知識・技術・倫理の基本的能力を修得できる。公衆衛生看護学実践実習Ⅱは、保健師資格取得に必要な実習の場と位置づけ、公衆衛生看護学概論Ⅰ・Ⅱ公衆衛生看護活動展開論・公衆衛生活動の基盤である疫学・保健統計・保健医療福祉行政論で学修した知識・技術を総合的に臨地実習するものである。										
	キーワード	地区診断 地域の健康課題 保健指導 健康教育	学修教育目標	①地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に関する公衆衛生看護活動の基礎的な考え方を理解する。 ②地域環境の変化にあわせ、人々の健康への影響と健康課題への個人及び地域組織の対処行動について理解する。 ③公衆衛生看護学実践実習要項に掲げる評価項目を達成すること。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
地域で生活する人々の健康課題を抽出するために必要な情報を収集して地区診断を行い、その健康課題への対処行動の一つとして健康教育を実施する。また、行政等における地域保健活動の実際を実習を通して体験し理解すると同時に、自らも指導の下に保健活動を行う。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
他の科目との関連：公衆衛生看護学概論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論、保健指導論、在宅看護論、在宅看護援助論、保健医療福祉行政論、健康教育論、家族看護論、保健統計等											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：『地域保健ノート』『国民衛生の動向』 3 年次授業用で購入したものを使用する 著者名：大阪府公衆衛生協会 厚生統計協会 出版社：大阪府公衆衛生協会 厚生統計協会					保健師課程を履修したテキスト(全教科)						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践			個々の問題や課題を理解し、説明することができる。						◎	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			個のみではなく集団的な視点で、健康問題を考え説明することができる。						◎	
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践			関係機関や関係職種と連携しながら、継続的に支援していく必要性を理解し、説明することができる。						◎	
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践			日常生活の習慣や環境要因が健康にどのように影響を及ぼしているかを説明することができる。						◎	
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践			健康を促進していくために、1 次予防的な視点を含め考えていくことができる。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			授業の予習・復習、課題や演習などに積極的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力			周囲の人に働きかけ、協働して取り組むことができる。また、自分の考えを伝えることができる。						◎
		③ 実行力			目標達成のために、臨機応変に工夫しながら取り組むことができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。						◎
		② 計画力			抽出された問題や課題に対して、具体的な計画を立てることができる。						◎
		③ 創造力			多面的な見方や発想により、新たな視点を取り入れることができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			主体的に自分の考えや意見を述べることができる。						◎
		② 傾聴力			他者の意見を傾聴し、さらに質問することによって理解を深めることができる。						◎
		③ 柔軟性			自分の考えに囚われることなく、目的に沿った考えを取り入れることができる。						◎
		④ 状況把握力			他者の状況を視野に入れ、全体を俯瞰することができる。						◎
		⑤ 規律性			社会のルールや約束・マナーを理解し、守ることができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスに対して、自らあるいは他者の援助を受けながら、コントロールすることができる。						◎
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って、行動することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					20	25			55	100
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力				5	10			5	20
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力				5	10			35	50
	地域の健康危機管理能力				5				5	10
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力				5	5			5	15
	専門的自立と継続的な質の向上能力								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
地区診断の結果から、地域の健康上の課題をとらえることができる。また、それらに対して健康教育という形で対処行動がとれる。また、行政が行っている地域保健活動を理解し、説明することができる。					地区診断の結果から、地域の健康上の課題をとらえることができる。また、それらに対して健康教育という形で対処行動がとれる。また、行政が行っている地域保健活動を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	学内実習(必修) 臨地実習開始までに次の事項を完成すること。 ①実習先地域の地域診断(地区視診含む) ②不足資料の抽出 ③健康教育指導(案)作成	学内実習 オリエンテーション 各グループ活動 実習担当教員の指導のもと実習を行う	臨地実習に向けて、学内実習での課題作成	60
第 2 回 ／	保健所・保健センターでのオリエンテーション ①地域診断、②健康教育指導(案)の発表後、助言いただく。 ①②の助言受け、修正のための計画立案 現地見学	臨地実習 実習先オリエンテーション グループワーク 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 3 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 4 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 5 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の学内実習の準備 事前学習	60 分以上
第 6 回 ／	学内実習 1 週間のまとめ、翌週の準備等	学内実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員の指導のもと実習を行う	臨地実習の復習と、翌日の実習行動計画の作成	90 分以上
第 7 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 8 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 9 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 10 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の学内実習の準備 事前学習	60 分以上
第 11 回 ／	学内実習 1 週間のまとめ、翌週の準備等	学内実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員の指導のもと実習を行う	臨地実習の復習と、翌日の実習行動計画の作成	90 分以上
第 12 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 13 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 14 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 15 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の学内実習の準備 事前学習	60 分以上
第 16 回 ／	学内実習 1 週間のまとめ、翌週の準備等	学内実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員の指導のもと実習を行う	臨地実習の復習と、翌日の実習行動計画の作成	90 分以上
第 17 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 最終週で健康教育の実施 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 18 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 最終週で健康教育の実施 夕：カンファレンス(情報交換) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の実習行動計画の作成 事前学習	60 分以上
第 19 回 ／	保健所・保健センターでの臨地実習 朝：本日の目的目標、実習内容の確認 実習予定表に沿って、日々の事業内容の実習 最終週で健康教育の実施 夕：最終カンファレンス(地域診断冊子として報告、講評をもらう) (各実習先により事業内容は異なる)	臨地実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員・実習先指導者の指導のもと実習を行う	本日の実習内容の記録、翌日の学内実習の準備	60 分以上
第 20 回 ／	学内実習 全実習のまとめ	学内実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員指導のもと実習を行う	実習記録、発表準備の作成	90 分以上
第 21 回 ／	学内実習 全体発表会の準備 提出物の準備(実習記録、レポート、地域診断資料、健康教育指導) 自己評価 面接	学内実習 グループワーク 個別自主学習 実習担当教員の指導のもと実習を行う	提出物、発表準備の作成	90 分以上
第 22 回 ／	全体発表会 全実習先の全学生、全指導教員参加し、グループ毎に 「公衆衛生看護学実践実習Ⅱでの学び」を発表し、共有化により学びを深める	各グループでパワーポイント 使用し、まとめの報告 口頭発表	提出物・発表資料を完成させる	90 分以上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S093S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修A Global Study A		1 単位	選 択	実 習	1 ～ 4 年次	春学期・ 秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。 他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。							
	異文化理解 プレゼンテーション力	学修教育目標	現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事後研修で、成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
研修地の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
別途、教員から指示する。				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践							
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。					◎
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践							
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				◎
		② 働きかけ力		協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				◎
		③ 実行力		目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。				◎
		② 計画力		課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				◎
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				◎
		② 傾聴力		相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				◎
		③ 柔軟性		自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				◎
		④ 状況把握力		自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				◎
		⑤ 規律性		社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				◎
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				◎
4. 倫理観		① 倫理性		相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第 2 回 ／	グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第 1 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 3 回 ／	グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第 2 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第 3 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第 4 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第 5 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60
	グループワーク			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S094S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修B Global Study B		2単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	グローバル研修Aよりも長期間のプログラムにより体験学修をより充実し、グローバル化時代の中で特に文化面において、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、②日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。 体験学修については、学生が主体的に企画・運営し、グループワーク行うことにより、コミュニケーション力、協調性、自主性、問題解決力、規律性や倫理観といった将来社会人として備えるべき能力を育成する。							
	キーワード	異文化理解 プレゼンテーション力	学修教育目標	他国（様々な地域）の文化・社会を理解することで、自国の文化を再認識あるいは新たな視野で認識できる知識を身につける。 体験研修を通して①国・地域色などを反映した文化・歴史等について深く知ることができる。②培った感性や知識を他者に的確に伝えることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
研修地の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
別途、教員から指示する。				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践							
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。					◎
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践							
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				◎
		② 働きかけ力		協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				◎
		③ 実行力		目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。				◎
		② 計画力		課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				◎
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				◎
		② 傾聴力		相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				◎
		③ 柔軟性		自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				◎
		④ 状況把握力		自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				◎
		⑤ 規律性		社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				◎
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				◎
4. 倫理観		① 倫理性		相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第 2 回 ／	第 2 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 1 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 3 回 ／	第 3 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 2 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	第 4 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 3 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	第 5 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 4 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	第 6 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 5 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 6 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 8 回 ／	第 8 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 7 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 9 回 ／	第 9 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 8 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 10 回 ／	第 10 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 11 回 ／	第 11 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 12 回 ／	第 12 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 13 回 ／	第 13 日 事後学修（1） ―グローバル研修の振り返り（1）― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
	グループワーク			
第 14 回 ／	第 14 日 事後学修（2） ―グローバル研修の振り返り（2）― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60
	発表			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S095S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修C Global Study C		4 単位	選 択	実 習	1 ～ 4 年次	春学期 ・秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。 また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。							
	キーワード	異文化理解 日本文化理解 順応性	学修教育目標	現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
研修地の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
別途、教員から指示する。				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践							
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践							
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				
		② 働きかけ力		協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				
		③ 実行力		目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。				
		② 計画力		課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				
		② 傾聴力		相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				
		③ 柔軟性		自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				
		④ 状況把握力		自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				
		⑤ 規律性		社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				
4. 倫理観		① 倫理性		相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
専門的自立と継続的な質の向上能力										
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第 2 回 ／	第 2 日 事前研修（2） ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第 3 回 ／	第 3 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 1 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	第 4 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 2 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	第 5 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 3 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	第 6 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 4 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 5 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 8 回 ／	第 8 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 6 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 9 回 ／	第 9 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 7 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 10 回 ／	第 10 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 8 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 12 回 ／	第 12 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 13 回 ／	第 13 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 14 回 ／	第 14 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 15 回 ／	第 15 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 16 回 ／	第 16 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 17 回 ／	第 17 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 18 回 ／	第 18 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 19 回 ／	第 19 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 18 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 21 回 ／	第 21 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 19 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 22 回 ／	第 22 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 20 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 23 回 ／	第 23 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 21 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 24 回 ／	第 24 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 22 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 25 回 ／	第 25 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 23 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 26 回 ／	第 26 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 24 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 27 回 ／	第 27 日 事後学修（1） ―研修内容のまとめ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
	グループワーク			
第 28 回 ／	第 28 日 事後学修（2） ―グローバル研修の振り返り― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SGT31S096S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修D Global Study D		1 単位	選 択	実 習	1 ～ 4 年次	春学期 ・秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。 他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。								
	異文化理解 アジア	学修教育目標	近隣アジア諸国の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
研修地の特性をよく理解しておくこと。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
別途、教員から指示する。				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践								
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。					◎	
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践								
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践								
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践								
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					◎
		② 働きかけ力		協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。					◎
		③ 実行力		目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。					◎
		② 計画力		課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					◎
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					◎
		② 傾聴力		相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。					◎
		③ 柔軟性		自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。					◎
		④ 状況把握力		自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。					◎
		⑤ 規律性		社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。					◎
4. 倫理観		① 倫理性		相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
 ※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第 2 回 ／	グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第 1 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 3 回 ／	グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第 2 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第 3 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第 4 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第 5 日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60
	グループワーク			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SGT31S097S		専門教育科目 グローバル研修		グローバル研修E Global Study E		2単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	グローバル化に対応するなかで、特に文化面に特化したプログラムを実施する。体験学修をより充実し、より長期間の滞在を通してコミュニケーション能力を駆使して、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、②日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。 他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。										
	キーワード	異文化理解 日本文化理解 実行力			学修教育目標	現地の人々とのコミュニケーションを通して、① 自国文化を発信し、他者の理解を得ることができる能力を身につける。② 他国の文化・歴史の理解を深めつつ、自国文化の再認識を深める。 さらに現地での研修を通じて学び取った知識を事後研修で、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
研修地の特性をよく理解しておくこと。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
別途、教員から指示する。					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践										
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。						◎	
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践										
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践										
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			自らの意思で積極的に学修を進めることができる。						◎
		② 働きかけ力			協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。						◎
		③ 実行力			目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。						◎
		② 計画力			課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。						◎
		③ 創造力			従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。						◎
		② 傾聴力			相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。						◎
		③ 柔軟性			自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。						◎
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。						◎
		⑤ 規律性			社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。						◎
4. 倫理観		① 倫理性			相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第 2 回 ／	第 2 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 1 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 3 回 ／	第 3 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 2 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	第 4 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 3 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	第 5 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 4 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	第 6 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 5 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 6 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 8 回 ／	第 8 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 7 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 9 回 ／	第 9 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 8 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 10 回 ／	第 10 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 11 回 ／	第 11 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 12 回 ／	第 12 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 13 回 ／	第 13 日 事後学修（1） ―グローバル研修の振り返り（1）― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
	グループワーク			
第 14 回 ／	第 14 日 事後学修（2） ―グローバル研修の振り返り（2）― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S098S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修F Global Study F		4 単位	選 択	実 習	1 ～ 4 年次	春学期 ・秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。 また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。							
	キーワード	異文化理解 異言語コミュニケーション ホームステイ	学修教育目標	ホームステイを取り入れて、ホストファミリーや現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
研修地の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
別途、教員から指示する。				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践							
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。 ◎					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践							
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践							
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				◎
		② 働きかけ力		協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				◎
		③ 実行力		目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。				◎
		② 計画力		課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				◎
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				◎
		② 傾聴力		相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				◎
		③ 柔軟性		自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				◎
		④ 状況把握力		自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				◎
		⑤ 規律性		社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				◎
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				◎
4. 倫理観		① 倫理性		相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第 2 回 ／	第 2 日 事前研修（2） ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第 3 回 ／	第 3 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 1 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	第 4 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 2 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	第 5 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 3 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	第 6 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 4 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 5 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 8 回 ／	第 8 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 6 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 9 回 ／	第 9 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 7 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 10 回 ／	第 10 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 8 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 12 回 ／	第 12 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 13 回 ／	第 13 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 14 回 ／	第 14 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 15 回 ／	第 15 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 16 回 ／	第 16 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 17 回 ／	第 17 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 18 回 ／	第 18 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 19 回 ／	第 19 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 18 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 21 回 ／	第 21 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 19 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 22 回 ／	第 22 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 20 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 23 回 ／	第 23 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 21 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 24 回 ／	第 24 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 22 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 25 回 ／	第 25 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 23 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 26 回 ／	第 26 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 24 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 27 回 ／	第 27 日 事後学修（1） ―研修内容のまとめ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
	グループワーク			
第 28 回 ／	第 28 日 事後学修（2） ―グローバル研修の振り返り― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SGT31S099S		専門教育科目 グローバル研修		グローバル研修G Global Study G		3単位	選 択	実 習	1 ～ 4 年次	春学期 ・秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。 また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。										
	キーワード	異文化理解 異言語コミュニケーション アジア			学修教育目標	アジアの国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
研修地の特性をよく理解しておくこと。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
別途、教員から指示する。					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践										
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。						◎	
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践										
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践										
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			自らの意思で積極的に学修を進めることができる。						◎
		② 働きかけ力			協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。						◎
		③ 実行力			目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。						◎
		② 計画力			課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。						◎
		③ 創造力			従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。						◎
		② 傾聴力			相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。						◎
		③ 柔軟性			自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。						◎
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。						◎
		⑤ 規律性			社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。						◎
4. 倫理観		① 倫理性			相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第 2 回 ／	第 2 日 事前研修 (2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第 3 回 ／	第 3 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 1 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	第 4 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 2 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	第 5 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 3 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	第 6 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 4 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 5 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 8 回 ／	第 8 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 6 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 9 回 ／	第 9 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 7 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 10 回 ／	第 10 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 8 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 12 回 ／	第 12 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 13 回 ／	第 13 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 14 回 ／	第 14 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 15 回 ／	第 15 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 16 回 ／	第 16 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 17 回 ／	第 17 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 18 回 ／	第 18 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 19 回 ／	第 19 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日 事後学修（1）―研修内容のまとめ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
	グループワーク			
第 21 回 ／	第 21 日 事後学修（2）―グローバル研修の振り返り― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SGT31S100S		専門教育科目 グローバル研修		グローバル研修H Global Study H		3単位	選 択	実 習	1 ～ 4 年次	春学期 ・秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	グローバル化に向けて、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。 また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。										
	キーワード	異文化理解 異言語コミュニケーション 欧米			学修教育目標	欧米の国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。 さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
研修地の特性をよく理解しておくこと。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
別途、教員から指示する。					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	個人―家族集団地域を対象とする看護実践										
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践			見聞を広め、経験や体験に基づく確かな判断と行動をすることができる。						◎	
③	多様な場で 、継続的なケアを提供できる看護実践										
④	健康―疾患の連続性を踏まえた看護実践										
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			自らの意思で積極的に学修を進めることができる。						◎
		② 働きかけ力			協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。						◎
		③ 実行力			目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。						◎
		② 計画力			課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。						◎
		③ 創造力			従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。						◎
		② 傾聴力			相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。						◎
		③ 柔軟性			自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。						◎
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。						◎
		⑤ 規律性			社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。						◎
4. 倫理観		① 倫理性			相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第 2 回 ／	第 2 日 事前研修 (2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第 3 回 ／	第 3 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 1 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 4 回 ／	第 4 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 2 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 5 回 ／	第 5 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 3 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 6 回 ／	第 6 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 4 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 7 回 ／	第 7 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 5 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 8 回 ／	第 8 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 6 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 9 回 ／	第 9 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 7 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 10 回 ／	第 10 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 8 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 12 回 ／	第 12 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 13 回 ／	第 13 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 14 回 ／	第 14 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 15 回 ／	第 15 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 16 回 ／	第 16 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 17 回 ／	第 17 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 18 回 ／	第 18 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			
第 19 回 ／	第 19 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
／	活動状況			

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日 事後学修（1）ー研修内容のまとめー ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
	グループワーク			
第 21 回 ／	第 21 日 事後学修（2）ーグローバル研修の振り返りー グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。